

日本韓国研究

第 5 号

〈研究論文〉

朝鮮（韓国）語の初級テキストの音韻攷
—音韻の分類と認識を巡って—

金 錦花

日韓の大学生における禁止を意図する言語表現の使用実態

飯田 華子

韓国語の副詞と述語との距離関係について
—コーパス分析を中心に—

李 英蘭・朴 天弘・池 玫京

‘그냥’의 의미 구조

—담화표지 기능으로서의 화용론적 의미 분석을 토대로—

河 正一・飯田 華子

〈書評〉

金成玟 著『日韓ポピュラー音楽史—歌謡曲から K-POP の時代まで—』

韓 光勲

2025 年 9 月

日本韓国研究

第 5 号

2025 年 9 月 30 日

日本韓国研究会

目次

〈研究論文〉

朝鮮（韓国）語の初級テキストの音韻攷

—音韻の分類と認識を巡って—

金 錦花 4

日韓の大学生における禁止を意図する言語表現の使用実態

飯田 華子 28

韓国語の副詞と述語との距離関係について

—コーパス分析を中心に—

李 英蘭・朴 天弘・池 玟京 46

‘그냥’의 의미 구조

—담화표지 기능으로서의 화용론적 의미 분석을 토대로—

河 正一・飯田 華子 70

〈書評〉

金成玟 著『日韓ポピュラー音楽史—歌謡曲から K-POP の時代まで—』

韓 光勲 90

朝鮮（韓国）語の初級テキストの音韻攷

—音韻の分類と認識を巡って—

金 錦花（関西外国語大学他）

<要旨>

本稿は、この半世紀に渡り、日本での朝鮮（韓国）語の教育がどのように進められてきたのか、特に朝鮮（韓国）語の音韻にフォーカスして、その移り変わりを分析、検討してみた。1962 年から出版されたテキストをはじめ、2024 年までの 141 冊のテキストを検討対象に、特に朝鮮（韓国）語の教育における大きい方向性を導いたテキストを中心に、その音韻の分類及び音韻認識について分析を行ったものである。具体的には、(1) 初声における子音分類と「ㅎ/h/」の位置づけ、濃音の発音のメカニズムについて、(2) 中声における母音の分類と、個別母音分類の異なる観点、「ㅏ/a/」と「ㅑ/e/」、「ㅓ/o/」の発音の変遷について、(3) 終声における「ㅇ/ŋ/」パッチムの連音化、「ㄹ/l/」の発音指導法について概観し、その中に提起されている問題点を俎上にあげ分析を行い、それらの教授法について知見を述べるとともに、朝鮮（韓国）語の音韻の指導法について考えたものである。

キーワード 音韻、子音、母音、終声

1. はじめに

本稿は、朝鮮（韓国）語における 1960 年代からはじめ、主に 1980 年代、1990 年代、そして 21 世紀（現在）のテキストについて分析することにする。2000 年始め頃、日本列島に韓ドラ・K-pop のブームが巻き起こると同時に 2002 年には、大学入試の外国語科目に朝鮮（韓国）語を導入されることによって、多くの大学のカリキュラムに朝鮮（韓国）語の科目を設置しはじめた。この需要に合わせるかのように、たくさんの朝鮮（韓国）語のテキストが出版されたが、その①音韻面での分類と指導法、②文法項目の配置やその教授法、③会話文における文化的な背景や社会情勢の内容を盛り込んだ知的水準、④到達目標へのフォ

ーカスなどについて、考えさせるものが多々あった。その問題の整理及び解明するため、1960 年から現在に至るまでの、日本での朝鮮（韓国）語のテキストについて概観、分析することにした。

検討対象となるテキストは、日本での朝鮮（韓国）語の教育における大きい方向性を導いたテキストを中心にする合計 141 冊である。本稿で特にフォーカスするテキスト 13 冊は、朝鮮半島の南北で用いられていることばを対象に書かれたテキストや音韻学・音声学の視点から著されたテキスト、ハングル文字の製字原理を反映したテキスト、ソウルことばを方言の視点から著したテキスト、そしてハングル能力アップに焦点をおき、細かい指導ができるようにつくられたテキスト、即ちそれぞれ異なる特徴を備えたものである。それらは、이승녕, 박승원[1972]¹、菅野[1981]、塚本[1983]、梅田[1985]、油谷[1993]、塩田[1998]、野間[2000]、生越[2000]、李昌圭[2006]、中西[2017]、高木・金泰仁[2020]であり、そのほかに韓国での語学教科書 2 点-연세대학교 한국어학당[1992]、가나다 KOREAN[2012]も検討対象に加えた。

これらのテキストの分析を通して、朝鮮（韓国）語の音韻知識とそれらの教授法を受け継ぎ、現在の朝鮮（韓国）語の教材づくりや教育活動において、少しでも発展性のある方向性を見出すことができればと願う。本稿は、上記の、①音韻面での分類と指導法にフォーカスしてテキストを分析することにする。②～④に関しては、次の機会に譲る。

本稿の構成は、第 2 章でそれぞれのテキストが述べられている音韻上の観点を分類、分析しながら持論を展開することにする。具体的に第 1 節～第 2 節では、初声に関する考察を行い、第 3 節～第 5 節では、中声について考察し、第 6 節～第 7 節では終声の考察を、第 8 節では発音記号に関する考察をすることとする。

- 第 1 節 子音分類と「ㅎ/h/」²について
- 第 2 節 濃音の発音方法について
- 第 3 節 母音の分類と、個別母音分類の移り変わりについて
- 第 4 節 「ㅏ/ɛ/」と「ㅑ/e/」の発音の移り変わりについて
- 第 5 節 「ㅓ/ɔ/」の発音と変遷について
- 第 6 節 「ㅗ/o/」パッチムの連音化について
- 第 7 節 「ㅜ/u/」パッチムの特徴とその教授法について
- 第 8 節 いくつかの子音・母音の発音記号について

¹ 参考文献は（ ）、分析用テキストは、[] で示す。

² 考察対象の音素は、各節のタイトルを除き、音素記号の再表記は省略する。

2. 朝鮮（韓国）語初級テキストの音韻上の解析

2.1 子音分類と「ㅎ/h/」について

表1 子音分類

		子音の分類	ㅎについて
1	이승녕, 박승원 [1972]	基本子音 ³ 14 個 複合子音 5 個	ㅎを激音として言及なし
2	菅野[1981]	子音1 (ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㄱ, ㅇ) 子音2 (ㄱ, ㄷ, ㄹ, ㅌ) 子音3 (ㅋ, ㅌ, ㄷ, ㅌ, ㅎ) 子音4 (ㄱ, ㄷ, ㅌ, ㅌ, ㅌ)	ㅎを子音3に入れるも、激音の説明ではㅋㅌㄷㅌのみ
3	塚本[1983]	平音 (ㄱ, ㄷ, ㄹ, ㄱ, ㅌ) 激音 (ㅋ, ㅌ, ㄷ, ㅌ, ㅎ) 濃音 (ㄱ, ㄷ, ㅌ, ㅌ, ㅌ) 有声子音 (ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅇ)	ㅎの発音指導においては、ㅋㅌㄷㅌと異なって「強い息とともに」との文句なし
4	梅田[1985]	(ㄹ, ㄴ, ㄷ, ㅎ) 命名なし *ㅇ[-/ŋ] 平音 (ㄱ, ㄷ, ㄹ, ㅌ, ㄱ) 激音 (ㅋ, ㅌ, ㄷ, ㅌ) 濃音 (ㄱ, ㄷ, ㅌ, ㅌ, ㅌ)	ㅎを激音と別途説明
5	油谷[1993]	基本子音字 14 個 濃音 5 個	ㅎの発音指導においては、ㅋㅌㄷㅌと異なって「激し弾ける」との文句なし
6	塩田[1998]	平音 ㄱ, ㄷ, ㄹ, ㅌ, ㄱ 激音 ㅋ, ㅌ, ㄷ, ㅌ 鼻音 ㅇ, ㄴ, ㄹ 濃音 ㄱ, ㄷ, ㅌ, ㅌ, ㅌ その他 ㄷ, ㅎ	ㅎを激音として言及なし
7	野間[2000]	鼻音 (ㄴ, ㄹ) *ㅇ[-/ŋ] 流音 (ㄷ) 平音 (ㄱ, ㄷ, ㄹ, ㅌ, ㄱ)	ㅎは、激音

³ 子音・母音の名称に関して「子音・子音字・子音字母」、「母音・母音字・母音字母」と様々であるが、作者たちの表現に準じて録する。

		激音 (ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅍ, ㅎ) 濃音 (ㄸ, ㅌㅌ, ㅊㅊ, ㅍㅍ, ㅆ)	
8	生越[2000]	平音 (ㄴ, ㄹ, ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅍ, ㅎ, ㅅ, ㅈ, ㅊ) 激音 (ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅍ) 濃音 (ㄸ, ㅌㅌ, ㅊㅊ, ㅍㅍ, ㅆ) * ㅇ [-/ɰ]	ㅎは、平音
9	李昌圭[2006]	基本子音字 14 個 合成子音字 5 個	ㅎを激音として言及なし
10	中西[2017]	平音 (ㄴ, ㄹ, ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅍ, ㅎ, ㅅ, ㅈ, ㅊ) 激音 (ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅍ) 濃音 (ㄸ, ㅌㅌ, ㅊㅊ, ㅍㅍ, ㅆ)	ㅎは、激音
11	高木・金泰仁 [2020]	鼻音 (ㄴ, ㄹ) 平音 (ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅍ, ㅎ, ㅅ, ㅈ, ㅊ) 流音 (ㄹ) 激音 (ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅍ, ㅎ) * ㅇ [-/ɰ] 濃音 (ㄸ, ㅌㅌ, ㅊㅊ, ㅍㅍ, ㅆ)	ㅎは、激音
12	연세[1992] ⁴	平音 ㄴ, ㄹ, ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅍ, ㅎ 激音 ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅍ 濃音 ㄸ, ㅌㅌ, ㅊㅊ, ㅍㅍ, ㅆ 鼻音 ㄴ, ㄹ, ㄹ, ㄹ 流音 ㄹ	ㄷㅌㅊㅍ を aspirated (激音) とし、ㅎは、平音。
13	가나다[2012]	平音 ㄴ, ㄹ, ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅍ, ㅎ 激音 ㄷ, ㅌ, ㅊ, ㅍ 濃音 ㄸ, ㅌㅌ, ㅊㅊ, ㅍㅍ, ㅆ 鼻音 ㄴ, ㄹ, ㄹ, ㄹ 流音 ㄹ	ㅎは、平音

朝鮮（韓国）語の子音の分類は、「形と音」の視点からの分類法であった。文字の形からの分類は、基本子音（字）14 個と合成子音（字）5 個での分け方（78 冊、55.3%）が主流で、音からの分類は、平音・激音・濃音・鼻音・流音での分け方（63 冊、44.7%）が主流だった。後者の場合、平音を 9 個（ㄴㄹㄱㄷㄹㄱㄷㅅㅈㅊ）の分け方と、5 個（ㄴㄹㄱㅅㅈㅊ）の分け方、そして「ㅎ」を激音に入れるか、平音に入れるかによって平音がそれぞれ 10 個、6 個の考えもあった。

次は、「ㅎ」が激音であるか否かについて考察してみよう。激音とは、激しい息と伴う気音を指し、これについて金思燁（1998：143-147）は、有気音は新羅末ころから発生したものと説明し、新羅の初期、中期までは、有気音が存在したことを確認する資料を発見することはできないと述べている。そして古

⁴ 以下연세대학교 한국어학당→연세に、가나다 KOREAN→가나다に略記する。

代語を三期⁵にわけて概観しているが、第一期は、音韻上有声と無声の対立が存在していたこと、第二期は、有声音系列が語頭また非有声音の間で無声音に中和される現象が起こったこと、第三期は、有気音の発生とそれによって引き起こされる音韻構造の変化について述べてあった。その音韻構造の変化表を再録する⁶と、下記の通りである。

(図 1 第二期—語頭または非有声音間に現れる子音体系)

p	t	č	k
		s	h
m	n		ŋ
	l	z	,

(図 2 第三期—有気音系列の発達を表す子音体系)

p	t	č	k
p ^h	t ^h	č ^h	k ^h
		s	h
m	n		ŋ
β	r	z	,

この第二期・第三期の「子音体系」表では、/h/を無声歯茎摩擦音の/s/と同じ行に配列しており、第三期に入って有気音が発生⁷したと述べているところから「h」は、有気音ではないとの主張が見て取れる。

菅野[1981: 24]では、ㄱ[k^h], ㅋ[t^h], ㆁ[p^h], ㆁ[ŋ^h]の発音方法については、まず、息をいっぱいすいこんで、それぞれ ㄱ[k], ㅋ[t], ㆁ[p], ㆁ[ŋ]を発音すると同時にその息を吐きだすと述べ、中国語の有気音⁸に当たる音であり、激音だと説明している。「ㅎ」に関しては、有気音だとの言及がなく、日本語のハ

⁵ 金思燁(1998)では、第一期を新羅の三国統一以前までに、第二期を新羅が三国を統一し、それによって南北方言の融和、統一が形成されるまでの時期とし、第三期は、不明だが、新羅後期から高麗時代前だと推定する。

⁶ 金思燁(1998: 146-147) 参照されたい。

⁷ 金思燁(1998)は、有気音の発生と発達には、内外二つの要因が考えられると述べている。内的要因としては、朝鮮語の形態音素論の立場から先行形態素の末子音と、後続形態素の頭子音のどちらが[h]であり、他の一方が無声子音であると、その無声子音は有気音に変わるとのことである。外的要因としては、清濁による三肢的相関対立の体系である漢字音の大量使用からくる影響だとのことである。

⁸ 野島進他(1993: 4)によれば、中国語の有気音は、[p, t, k, q, ch, c]であるが、中国語の[h]音は含まない。上野(2001: 23)では、中国語の[h]について無気音・舌根音・摩擦音で説明しているが、具体的に「舌の後部を上あごに近づけ、その間から息を摩擦させながら出すが、日本語のハ行の音よりも荒々しい感じがする。」と述べている。因みに、英語の[h]は、無声・声門・摩擦音(窪田他、1997: 14)で、日本語のハへホの[h]は、無声・声門・摩擦音(飯田他、1995)であり、朝鮮(韓国)語の[h]は、無声そして声門・摩擦音[梅田、1985]である。

行と似ている⁹と述べてあった。塚本[1983：16-18]も菅野[1981]と同じく「ㅎ」を激音の範疇に入れながらも、それについては、有気音・帯気音だとの言及がなく、日本語のハ行音の出だしの部分の音に近いと述べている。野間 [2000]・中西 [2017]・高木他[2020]は「ㅎ」を激音として見なし、それぞれ「ハ行の子音」、「ほぼ日本語のハ行と考えてよい」、「日本語のハ行と同じように」と、「ㅎ」の発音の指導法が示されていた。飯田他[1995：30]は、日本語のハ行の「ハへホ」の [h]¹⁰は、無声・声門音・摩擦音であると明記しており、「日本語のハ行と考えてよい」であれば「ㅎ」は、「激しい息を伴う音」として言えるのだろうか。分析テキスト¹¹では、激音だとの主張が 57 冊 (40.4%) であり、平音だとの主張が 28 冊 (19.9%) であった。それでは、韓国の学校では「ㅎ」がどのように扱われているのか見てみよう。이관규 (1999) 『학교문법론(学校文法論)』¹²の子音分類表¹³を例に挙げてみる。

表2 子音分類

調音位置 調音方法			唇音	舌音	硬口蓋音	軟口蓋音	喉音
			両唇	上歯茎	硬口蓋	軟口蓋	声門
無声音	破裂音	平音	ㅍ /p/	ㅌ /t/		ㅋ /k/	
		濃音	ㅂ /ɸp/	ㄷ /ɸt/		ㆁ /ɸk/	
		激音	ㅍ /pʰ/	ㅌ /tʰ/		ㅋ /kʰ/	
	破擦	平音			ㅈ /tʃ/		

⁹ 菅野[1981：23]は、「히/hi/」は日本語の‘ヒ’とほぼ同じだが、「후/hu/」は日本語の‘フ’のように唇を摩擦させないで、のどの奥から息をもらしながら‘フ’というように発音すると説明している。

¹⁰ [h] が語中に現れるときは [ɦ] になり、「ひ」は無声硬口蓋摩擦音 [ç]、「ふ」は無声両唇摩擦音 [ɸ]（[F]とも表記する）である。

¹¹ 検討対象のテキスト 141 冊を、以下は「分析テキスト」とする。

¹² 이관규 (1999) の『학교문법론/学校文法論』によると、朝鮮（韓国）語の子音は、発音点と発音方法によって大別される。発音点によって、「牙・舌・唇・歯・喉」の音に分類され、発音方法によって無声音と有声音に分類される。無声音は、さらに空気が口の中で唇・舌尖・舌根によって閉鎖された後、破裂して作り出される破裂音 (plosive)、空気が歯茎・硬口蓋・前舌によって閉鎖された後、破裂し、摩擦を起こしながら作り出される破擦音 (affricate)、口の中の狭い空間から空気を送り出しながら、歯茎・舌の先端によって作り出される摩擦音 (fricative) に分類される。有声音は、鼻音と流音に分類される。破裂音と破擦音は、発音するさい、激しい息が伴うか否か、喉の緊張を伴うか否かによってさらに平音(ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ)・激音(ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ)・濃音(ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅝ)に分類される。摩擦音においては、激音がなく平音(ㅏ, ㅑ)と濃音(ㅝ)に大別される。

¹³ この表2「子音分類」の日本語の訳は、筆者によるものである。

	音	濃音 激音			ㅈ/tʃʰ/ ㅊ/ʈtʃʰ/		
	摩 擦 音	平音 濃音		ㅅ/s/ ㅆ/ʈs/			ㅎ/h/
有声音	鼻 音		ㅁ/m/	ㄴ/n/		ㅇ/ŋ/	
	流 音			ㄹ/l/			

*이관규 [1999 : 83] 再録

上記の表 2 では、無声・摩擦音のㅎは、平音に分類されている。이석주외(1994 : 28)、李翊燮他(2004 : 70)、하치근(1993 : 73)、연세 [1992 : 4]、苗春梅他 [1995 : 32] における子音分類表も同じく、ㅎ/h/は、平音であった。子音分類においては、韓国・北朝鮮・中国の資料では、「ㅎ」は同じく‘平音’として扱っている。李翊燮他(2004 : 70)は、激音は 100msec 程度の強い気を伴う無声音として発音される（平音は、30～50msec、英語の場合は、70～85msec 程度の気を持つ）と説明があった。「ㅎ」は、どのぐらいの気を持つかは、言及してないが、朝鮮語学研究室 [1987 : 22-23] は、のどから空気が出るだけの音として述べてあり、多くの入門書では激音と言えは「ㅈ, ㅊ, ㅌ, ㅍ」の 4 つとして示している。分析テキストでのいくつかの見解を辿ってみよう。大村他 [1995 : 9]¹⁴では、「ㅎ」は摩擦音・平音であるが、李清一 [2004 : 17] は、「日本語のハを、息を出して強く発音する。」との説明があった。飯田他(2016)・山崎(2022) は、「日本語のハ行よりやや弱く発音される」との指導法が示された。このように、テキストでのㅎ/h/の発音は、‘強く発音する’ところから、‘弱く発音する’へと指導する変化が見えてきた。発音の指導では、「日本語のハ行（ハへホ）¹⁵の音と同じだ」との見解が 72 冊、51.1%を占めており、「激しい氣息を伴わない」「ㅎ」を激音に入れるのは考えるものである。学ぶ立場からは、「ㅎ」を除いた平音・激音・濃音の並べ方が覚えやすい。平音「ㅈ, ㅊ, ㅌ, ㅍ, ㅅ, ㅆ」に一筆加えて、激音「ㅈ, ㅊ, ㅌ, ㅍ, ㅅ, ㅆ」となり、平音「ㅈ, ㅊ, ㅌ, ㅍ, ㅅ, ㅆ, ㅁ, ㄴ, ㄹ」を並書して濃音「ㅈ, ㅊ, ㅌ, ㅍ, ㅅ, ㅆ, ㅁ, ㄴ, ㄹ, ㅈ, ㅊ, ㅌ, ㅍ, ㅅ, ㅆ」になることは、「ㅎ」を入れて学ぶより負担が減るだろう。

2.2 濃音の発音方法について

「激音」と「濃音」は、日本語母語話者の学習者においては難点であり、「平音・激音・濃音¹⁶」が同じく聞こえることで、正しく発音できるまでは根気

¹⁴ 柳尚熙 [1998] も同じ見解である。

¹⁵ ‘ハへホ’は筆者によるものである。ヒ [çi]、フ [ɸu] は子音が [h] の音ではない。ゆえに、「ㅎ [h] は、日本語のハ行の音」とする場合、ヒ、フは除外すべきだと考える。

¹⁶ 塚本 [1983 : 20] は、子音は、日本語で生活するわれわれにも少し努力すれば会

よく指導が必要だろう。有名な指導法を一つ上げると、「アスピレーション試験紙」で息の出具合を見せながらの指導法がある一方、息の強弱が分かるように大げさの振る舞いで発音の師範をする指導法もあるが、分析テキストでは、どのように発音の仕方を説明しているのかを覗いてみよう。

表 3 濃音の発音仕方について

	1. のどに力をいれる。	2. のどを緊張させる。	3. のどを詰める。(声門閉鎖)	4. 息を出さない。	5. 破裂する。
이승녕・박승원[1972]		○		○	
菅野[1981]	○	○			
塚本[1983]			○		
梅田[1985]		○	○	○	○
油谷[1993]			○		
塩田[1998]		○		○	
野間[2000]		○		○	
生越[2000]			○	○	
李昌圭[2006]		○		○	
中西[2017]			○	○	
高木・金泰仁[2020]	○			○	

上記の表から、濃音とは、肺から口へ流れる空気を、唇・舌先・舌根で閉鎖させ、喉の緊張とともに絞り出すようにして発する破裂音であると、まとめることができよう。分析テキストでは、「4」が78冊、55.3%で、「3」が60冊、42.6%、「2」が53冊、37.6%であった。つまり、濃音の指導では「4. 息を出さない」ところに焦点を当てるのが、定番の指導法になっている。これについては、「息を出さずに止める」内破音（ㄱ, ㄷ, ㅂ）との発音の違いについても正しい指導が問われるだろう。梅田[1985: 26]は、音節末の[-p, -t, -k]の指導法については、[-p]は唇を閉じるだけ、[-t]は舌先を歯裏・歯茎に密着させるだけ、[-k]は舌の奥の部分に（奥舌面）を軟口蓋に密着させるだけ、それを離さないまま息を止める、のどを詰まらせて発音する指導法が用いられている。ならば、両者の違いは何だろう。それは「①のどを緊張させる、②音が破裂する」ところに濃音の発音方法のメカニズムが存在すると考えられる。邊恩田「2002」は、「この子音は、声を出すときに空気の流れる声門を閉じて、調音器官である唇・舌・舌根などを強く緊張させて発音¹⁷する。」とし、陸心芬他「2022」は、「息を全く出さずに喉を緊張させて発音する。」説明している。

得できるものだったが、濃音は少々手ごわい。…発音の難しいものである。

¹⁷ 下線は、説明のため筆者によるものである。

つまり「緊張」のところにそのカギがあるようだ。この「緊張（켁김）」のメカニズムに関して、노대규(1991)は、次のように述べている。のどの緊張とともに自然と声門が狭められ¹⁸息が破裂したさい、「無声の滑空（voiceless glide）」（いわゆるㄱ/氣, aspiratoin）が発生する暇もなく、母音の響きに繋がっていくので、息が出ない無気音の効果に至るのだと述べている。したがって、「のどに力を入れ緊張（켁김）させる」ことにフォーカスして指導すれば、このメカニズムに従って、自然と「息が出ない」状態に至るのだと考えられよう。濃音と「息」の関係に関しては、高木・金泰仁[2020]は「息を漏らさずに」、生越[2000]は「息を強く出さないように」、油谷[1993]は「息を控えめに発音」との観点もあるので、「息を全く出さない」という濃音の発音指導は、考えさせることになる。「発声器官を緊張させる」ところにフォーカスし、濃音の指導に充てたい。

2.3 母音の分類¹⁹と、個別母音の分類の移り変わりについて

表 4 母音分類

		母音分類	分類基準
1	이승녕 박승원 [1972]	①基本母音 10 個 (ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅣ) ② 複合母音 11 個 (ㅘ, ㅙ, ㅚ, ㅜ, ㅝ, ㅞ, ㅟ, ㅠ, ㅡ, ㅢ, ㅣ)	文字の形

¹⁸ 노대규 외(1997 : 333-335)は、濃音の場合、声門は1～1.5 mm開き、空気の流れは少ないと述べている。

¹⁹ 1988 年「표준어 규정[시행 1989. 3. 1.]」（「標準発音法」）では、単母音を 10 個として規定した。이관규 (1999 : 79)は、母音の音を発するさい、最初から終わりまで唇や舌の形が一貫して変化がないものを単母音とし、変化があるものを二重母音(diphthong)と分類すると述べている。説明の便利のため、「韓国語の単母音体系」を再録する。

表 5 韓国語の単母音体系

置 舌の高さ	舌の前後位		前舌母音		後舌母音	
			平唇	円唇	平唇	円唇
高母音			ㅣ [i]	ㅟ [y]	ㅡ [ɪ]	ㅜ [u]
中母音			ㅓ [e]	ㅜ [ø]	ㅑ [ə]	ㅗ [o]
低母音			ㅏ [ɛ]		ㅓ [a]	

2	菅野[1981]	① 母音字 10 個 ② 合成母音字 11 個	文字の形
3	塚本[1983]	① 基本母音字 10 個 ② 2 重母音字 9 個 (ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ) ③ 3 重母音字 2 個 (ㅓㅓ, ㅕㅕ)	文字の形
4	梅田[1985]	① 母音 8 個 (または 9 個 *ㅓ /ə/) (ㅏ, ㅑ /ɔ/, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅗㅓ, ㅕㅓ) ② 半母音 y 6 個 (ㅓ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ) ③ 半母音 w 5 個 (ㅓ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ) ④ $\left\{ \begin{array}{l} \text{ㅓ} [\text{wi}] \\ \text{ㅓ} [\phi / \text{we}] \end{array} \right.$	文字の音
5	油谷[1993]	基本母音字 10 個 合成母音字 11 個	文字の形
6	塩田[1998]	① 母音 I 8 個 ② 母音 II (ヤ行) 6 個 ③ 二重母音 7 個	文字の音
7	野間[2000]	① 単母音 8 個 (アイウ順) (ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ) ② 半母音 y 6 個 (ㅓ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ) ③ 半母音 w 6 個 (ㅓ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ) ④ 二重母音 1 個 (ㅓㅓ)	文字の音
8	生越[2000]	① 単母音 8 個 ② 重母音 I (ヤ行 6 個) ③ 重母音 II (ワ行 7 個)	文字の音
9	李昌圭[2006]	① 基本母音字 10 個 ② 合成母音字 11 個	文字の形
10	中西[2017]	① 単母音 8 個 ② 複合母音 = 半母音 y 6 個 ③ 複合母音 = 半母音 w 6 個 ④ 二重母音 1 個 (ㅓㅓ)	文字の音
11	高木・金泰仁 [2020]	① 単母音 8 個 (アイウ順) ② 半母音 [j] + 母音 6 個 ③ 半母音 [w] + 母音 6 個 ④ 二重母音 1 個 (ㅓㅓ)	文字の音
12	연세[1992]	① 기본모음 10 個 (ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅣ) ② 그외의 모음 11 個	文字の形

		(ㅈ, ㅊ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㄷ, ㄷ)	
13	가나다[2012]	① 単母音 10 個 (ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅣ) ② 二重母音 11 個 (ㅘ, ㅙ, ㅚ, ㅜ, ㅝ, ㅞ, ㅟ, ㅠ, ㅡ, ㅢ, ㅣ)	文字の音

金思燁(1998 : 115-121)²⁰は、宋代の性理学を理論根拠に基づき、母音字は「・ (象乎天円)」、「一 (象乎地平)」、「丨 (象乎人立)」を基本 3 字として組み合わせ、さらに「合用」の原理に沿って作られたが、それを分類すると、単純母音 7 字と複合母音 18 字(二重的 12 字・三重的 6 字)であったと述べている。現在は、上記のテキストから見ると、母音の分類は、文字の形からの分類(95 冊、67.4%)と、音から分類する(46 冊、32.6%)二つのパターンになっている。이승녕, 박승원[1972]・菅野[1981]・塚本[1983]・油谷[1993]・李昌圭[2006]は、文字の形から母音を、基本母音字と合成母音字(複合母音字)に分類しており、梅田[1985]・塩田[1998]・野間[2000]・生越[2000]・中西[2017]・高木他[2020]は、音を基準に単母音と重母音(或いは二重母音)に分類している。前者の分類は、基本母音字を「ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅣ」の 10 個にし、合成母音字を「ㅈ, ㅊ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㄷ, ㄷ」の 11 個にしている。この分類の根拠に関しては、熊谷(2000 : 111)が次のように述べている。朝鮮文字創製時に出された解説書『訓民正音解例本』(1466)では、母音字は、「天・地・人」を象った 3 個を組み合わせで作られた「初出字」4 個、「再出字」4 個の計 11 個の母音文字を基に、「合用」という製字原理に沿って作られた文字群を二段階グループにしたとのことである。現在の基本母音字は、この二段階グループに従っての順番であり、韓国・北朝鮮ともにこの分類に従っていると述べている。後者の分類は、単母音「ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅣ, ㅈ, ㅊ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ」の 8 個、単母音に半母音/j/と/w/を加え、ヤ行の重母音「ㅘ, ㅙ, ㅚ, ㅜ, ㅝ, ㅞ, ㅟ, ㅠ, ㅡ, ㅢ, ㅣ」の 6 個と、ワ行の重母音「ㅜ, ㅝ, ㅞ, ㅟ, ㅠ, ㅡ, ㅢ, ㅣ」の 7 個としている。ここで一つの問題を提起したいのは、「ㅈ」、「ㅊ」を合成母音(複合母音或いは重母音)

²⁰ 単純母音 i (ㅣ) i" (一) ə (ㅓ) a (ㅏ)
u (ㅜ) o (ㅗ) ㅏ (ㅑ)

複合母音

(二重的) ①io(ㅟ) ia(ㅠ) iu(ㅡ) iə(ㅣ)

②oa(ㅓ) uə(ㅕ)

③Ai(ㅑ) i"i(ㅓ) oi(ㅕ) ai(ㅈ) ui(ㅊ) əi(ㅜ)

(三重的) ①ioi(ㅟ) iai(ㅠ) iui(ㅡ) iəi(ㅣ)

②oai(ㅓ) uəi(ㅕ)

²¹ 「ㅣ」の分類、位置づけに関して異なる観点も存在するが、熊谷(2000)にすでに詳しい分析があり、それを参照されたい。

に入れていいだろうか。ハングル創製の当時の分類では、二重的、複合母音としての「ㅏ/aɪ/」、「ㅑ/əi/」であった。これが発展変化を遂げ、現在の単母音「ㅏ」、「ㅑ」に至った（金思燁 1998 : 120-121）。現在の一部のテキストでは、「ㅏ」、「ㅑ」の文字の構成を「ㅏ→ㅏ/a+ㅏ/i」、「ㅑ→ㅑ/ə+ㅏ/i」として説明しながら、発音記号はそれぞれ [ai]、[əi]²²ではなく [ɛ]・[e]と表記している。そしてそれを、単母音ではなく合成母音として扱っている。

「ㅏ」、「ㅑ」に関しては、分析テキストを見ると、合成母音（複合母音）として扱っているのが 57 冊、40.4%であった。「ㅏ」、「ㅑ」が合成母音・複合母音ではないことに関しては、金思燁(1998)以外に、熊谷(2000 : 112)も次のような説明があった。いわゆる合成母音字（『訓民正音解例本』の「中声解」で取り上げた母音字）は、朝鮮文字創製当時、全て重母音であったが、その後の歴史の変化によって、/j/後続下降二重母音であった「ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ」が単母音化した。その後「ㅏ, ㅑ」²³は、/w/先行上昇二重母音に変化する過程を歩んできた。こうした歴史的音韻変化の結果、今日、「合成母音字」の中にも単母音と二重母音が混在するようになったと述べると同時に、朝鮮文字の製字原理と歴史的音韻変化によって生じた「基本母音字」・「合成母音字」という枠組における音韻論的体系性の欠如は、朝鮮語教材を編集するにあたっても明確に認識されなければならないと指摘があった。

上述の通り、文字の形の面では、ㅏ+ㅏ→ㅏ, ㅑ+ㅏ→ㅑとしての合成母音字であるが、音の面では、ㅏは、[ai]ではなく[ɛ]、ㅑは、[əi]ではなく[e]と、単母音であるので、合成母音に入れてはいけない。ㅏとㅑは、合成母音字であるが、合成母音ではないことを念頭にテキストを編成すべきだと考える。

2.4 「ㅏ/ɛ/」と「ㅑ/e/」の発音の移り変わりについて

²² 梅田 (1985 : 10) は、a+i→ai>[ɛ]、ə+i→əi>[e]と示している。

²³ 1988 年発表の「標準発音法」では、「ㅏ」と「ㅑ」を単母音として定め、二重母音の発音も認めている。分析テキストでは、ほとんど「ㅏ」と「ㅑ」を重母音（合成母音・複合母音）として扱っており、いくつかのテキストでは「単母音だ」との言及もあった。発音記号を「ㅏ」に関しては、[ø/ø/oe/we/ we]と、「ㅑ」に関しては、[y/ü/wi]と、さまざまである。「標準発音法」では、ㅏ[ø]、ㅑ[y]は単母音として規定されたが、ことばの現実では二重母音としてそれぞれ[we]・[wi]として発音されることが多いと述べている（李翊燮他、2004 : 72）。大村 [1995 : 4] では、「ㅏ」と「ㅑ」に対して子音がつかない場合は、韓国ではそれぞれ複合母音 [we]、[wi] に発音すると述べているが、子音と一つの音節になった場合、単母音の [ø] [y] になることだろう。

表6 「ㅢ」と「ㅣ」の発音方法

		「ㅢ」の発音方法	「ㅑ」の発音方法	「ㅢ」、「ㅑ」 ²⁴ の発音上区別について
1	이승녕 박승원 [1972]	[æ] に非常に似ている発音で、字形は「ㅏ」と「ㅑ」を結合させたが、「ㅏ」を発音するときのように大きく口を開けたまま、さらに「ㅑ」を発音するときのように、下唇両端の斜め下にある随意筋に、ぐっと力を入れて「ㅑ」の発音をする。	日本語のエに当たる。発音記号は[e]で示す。	
2	菅野 [1981]	できるだけ口を大きく開けて「ㅑ」	日本語の「ㅑ」とほぼ同じ音	
3	塚本 [1983]	日本語の「ㅏ」と「ㅑ」のほぼ中間の音。「ㅏ」と言って、口の開きをそのままにして、舌を前に出すようにして「ㅑ」と言う。	日本語の「ㅑ」とほぼ同じ音。	
4	梅田 [1985]	口の開け方が日本語の「ㅑ」より広い母音。即ち、二本重ねた指先が上下の歯の間にゆうゆう入る程度に広く口を開けて「ㅑ」	口の開け方が日本語の「ㅑ」より狭い母音。即ち、小指の尖が上下の歯の間に入るか入らないか程度に開け、かつ奥歯で下の左右の縁を軽くかむ程度の状態で「ㅑ」	比較的若い世代は「ㅢ」、「ㅑ」の区別をせず、その中間的な母音を発音する人が多いようだ。
		*結局「ㅢ」、「ㅑ」の区別は、口の開け方の広狭のちがいですから狭い「ㅑ」であるか、広い「ㅑ」であるかに注意。		
5	油谷 [1993]	口を大きく開いて「ㅑ」	口を小さく開いて「ㅑ」	

²⁴ 作者によって「ㅢ」「ㅣ」の表記をしているが、この表では、すべて「ㅢ」、「ㅣ」の表記にする。

6	塩田 [1998]	口を広めに開けて「エ」	日本語の「エ」と 同じ	「ㅓ」 、「ㅕ」は韓国 人も区別でき ない人が多い ため、同じよ うに発音して も構わない。
7	野間 [2000]	「エ」より口を開いて 「エ」	「エ」よりもやや 口を狭めて「エ」	狭い「ㅕ」と 広い「ㅓ」の 発音の区別 は、今日、高 齢層以外では ほぼ失われて いる。いずれ も日本語の 「エ」で発音 しても構わな い。ただし表 記上は厳密に 区別する。
8	生越 [2000]	口を広げて「エ」	日本語の「エ」と ほぼ同じ	「ㅓ」は実 際、「ㅕ」と 同じ音で発音 されることが 多い。
9	李昌圭 [2006]	日本語の「え」より口を やや大きく開け、下唇を 横に引きながら発音。	日本語の「エ」と 同じく発音。	
10	中西 [2017]	いずれも日本語の「え」でよい。		
11	高木 金泰仁 [2020]	口を広く開けて	口をやや狭くして	同世代のソウ ル方言話者 （特に若年 層）において は、単母音 「ㅓ」 、「ㅕ」を発音 するレベルで はほとんど区 別していない 。表記上は 要注意。

12	연세 [1992]	ㅈ [æ]	ㅊ [e]	
13	가나다 [2012]	発音記号無し	発音記号無し	

第3節では、「ㅈ」、「ㅊ」の音の発展変化と現在、朝鮮・韓国語教育の世界での「文字と音」の認識について述べたが、本節では、これらの調音方法の移り変わりについてみてみよう。

まず、「ㅈ」の音についてそれぞれのテキストでは、「口を大きく開けて‘エ’と発音する」との指導法でほぼ一致しているが、이승녕, 박승원[1972]や李昌圭[2006]は、さらに下唇の随意筋に力を入れ発音するなど詳しい指導があった。そして塚本[1983]は、舌を前に出すようにして‘エ’と発音する指導法もあった。「ㅊ」の発音に関しては、「日本語の‘エ’と同じ」との観点が87冊、61.7%占めており、共通の認識になっている。梅田[1985]・油谷[1993]・野間[2000]・高木他[2020]は、「日本語の‘エ’より口を狭める」との指導法もあった。「ㅊ」と「ㅈ」は、歴史の流れとともに発展変化を遂げ、音の区別がなくなり「いずれも日本語の‘エ’として発音しても構わない」との指導法にいたっている。上記の表から見ると、塩田[1998]・野間[2000]・生越[2000]・中西[2017]・高木他[2020]がそれである。梅田[1985]は、「比較的若い世代は、ㅊとㅈの区別をせず、その中間的な母音を発音する人が多いようだ。」と説明しているが、この現象は、1985年でも同じ指導法を用いたのだ。

実際の授業でも「ㅈ」の本来の発音方法について触れるが、耳で音の区別が難しいため、高木他[2020]が説明したように、「同世代のソウル方言話者（特に若年層）においては、単母音「ㅊ」と「ㅈ」を発音するレベルではほとんど区別していない。」と説明を一言入れ、「いずれも日本語の‘エ’」との指導をしている²⁵。但し、野間[2000]・高木他[2020]で示したように、表記上は厳密に区別しているので、正しく書けるように注意を促す必要はあろう。

2.5 「ㅊ/ㅅ/」の発音と変遷について

「ㅊ」の発音についてはまず、例の13冊を見てみよう。이승녕, 박승원[1972]は、「ア」と発音するように口を開けてから、舌尖をやや奥の方へ移し、下歯が真ん中にくるように、下唇の力を抜いて、「オ」と発音すると述べ、菅野[1981]は、口を丸めずに、大きく口を開けて舌を喉の方に引いて[オ]と発音するとし、塚本[1983]では、①日本語のアとオの中間の音[ɔ]、口をアより狭く、オより広く開ける、②口の開きを小さくしてオとウの中間の音[ə]に発音されると、二つの音の存在を示した。梅田[1985]も、口をアに近く開いてオを

²⁵ 生越[2000]での音声担当は、NHK テレビ・ラジオ放送のアナウンサーであるが、ㅈ[æ]とㅊ[e]の音をしっかりと区別している。

発音する広い [ɔ] と、もう一つの「ㅓ」について、舌を休みの状態にしたまま声を出す [ə] の存在について説明があった。李昌圭[2006]は、唇を突き出さずに、舌を奥に引いて発音すると述べ、中西[2017]は、[ア] より小さめに口を開け [オ] だと、舌を後ろに引く気持ちで発音するとの指導法だった。口、舌、唇における調音方法について説明が施された。油谷[1993]・塩田[1998]・野間[2000]・生越[2000]・高木・金泰仁[2020]は、「口を開いて [オ] と発音する」との簡単な説明であった。

菅野[1981: 19]は、英語の [ɔ] とはちがって唇を丸めず、できるだけ口を大きく開けて舌を喉の方に引いて「オ」と発音するが、いちばん難しい母音だとの指摘があった。実際、母音の発音学習でも、特に「ㅓ, ㅜ」の発音・聞き取りは難点である。テキストでの「ㅓ」に関する発音点や発音方法についての説明が簡単、曖昧である点も、習得困難の一つの原因になるだろう。単なる教え側の説明や模範発音に委ねては、学習の効率もよくないだろう。

そして今までのテキストでは、ㅓの発音記号は、[ɔ]・[ə] が主流だが、そのほかに [ø, eo, o, ɔ, ʌ, ɛ, a] もあった。分析テキストでは、[ɔ] の表記が 102 冊、72.3% でいちばん多く、2 番目多いのが [ə] で、15 冊、10.6% であった。老年層や方言では、依然として [ə] を用いている。韓ドラでの老年層の役者、或いは方言話者のセリフでは、「거짓말/うそ」の「거/kə」や「정말/本当」の「정/gəng」では、特に [ə] の音を顕著に用いられている²⁶。この「ㅓ」の [ɔ] / [ə] の存在は、その歴史発展から答えを探すことができよう。金思燁(1998: 117-121)は、本源的には [e] に対比される母音であったのだが、段々と中舌の位置に移動して [ə] となった。[ɔ] の発生は、「ㅏ」[ʌ] (平唇・後舌の音) 音の消失 (17 世紀から動揺しはじめ、18 世紀に消失) や母音の推移と関係があるものと述べている。「ㅓ」は、時代の流れとともに前舌から段々と後舌、後々舌に移動して [ɔ] の音にたどり着いたと考えよう。

そして韓国で出版されたテキストでは、「ㅓ」の発音に関しては、[ø] 或いは [ɛ] の主張もあった。「ㅓ」の音の難しさが外国語を学ぶ学習者だけではなく、ネイティブにおいても難しいのだと言えよう。

奇異なことにテキストでは、「ㅓ」と発音記号で表記しているのにもかかわらず、模範音声は、[ə] であったり、[ə] と発音記号で表記しているのにもかかわらず、模範音声は、「ㅓ」であったりする現象も存在している。「ㅓ」に関しては、どの音かは個人の考えに委ねるが、せめて発音記号と模範音声は一致

²⁶ 李翊燮他(2004: 72)は、伝統的なソウル語では、섬:(sem)/島, 험법:(henpep)/憲法などの長母音ㅓ[e] は若干「ㅓ/ㅜ」方に引っ張られた音である [ə:] に近い発音として実現される。これはソウル生まれの人の中でも老年層にだけ命脈を保っていると言っている。

しないといけないだろう。

2.6 「ㅇ/ŋ/」パッチムの連音化について

表7 「ㅇ」パッチムについて

連音の有無	研究対象のテキスト
① 連音しない	塚本[1983]・生越[2000]・李昌圭[2006]・高木他[2020] ²⁷ *分析テキスト 42 冊、29.8%
② 連音する	이승녕, 박승원[1972]・菅野[1981]・梅田[1985]・油谷 [1993]・塩田[1998]・野間[2000]・中西[2017] *分析テキスト 34 冊、24.1%
③ 連音の言及無し	연세[1992]・가나다[2012]

李翊燮他(2004: 76)は、韓国語の音節の境界は、普通 V-V, V-CV, VC-CV の 3 つの類型に代表されると説明があり、その説明のため挙げた例を番号、記号そのまま再録する。

(5)a. 물이 → 무리

mwuli mwu-li

b. 흙을 → 훌글

hulkul hul-kul

(6)종이 → 종이

cong-i cong-i

二つの母音の間に子音が 1 つ来る場合は、その子音の前に境界がおかれ、二つの母音の間に二つの子音がある場合、その境界は子音の間におかれると述べている。とのことで、上記の例 (5a) は、「V-CV」類型であり、(5b) は、「VC-CV」類型である。但し、「VCV」の「C」が [ŋ] である場合は、[ŋ] の後に音節の境界がおかれると述べている。例 (6) がそれである。そして金思燁(1998: 110)は、[ŋ] は朝鮮語では語頭に来ることはなく、語末または音節末音(終声)にのみ現れるという制約を受けると述べている。この二つの根拠から、「ㅇ」パッチムは「連音化」しないこととして理解できよう。「ㅇ」パッチムが連音するとの主張は、①「ㅇが語頭に来ることがない」ことに反することになり、②종이 [cong-i] について我々は、[co-ŋgi] ではなく [cong-i] と発音しているので、言語事実にも反していると言えよう。

朝鮮語学研究会 [1987: 39] は、「終声のㅇ [ŋ] も母音の前では初声のよう

²⁷ パッチムがㅇであるときは、ㅇ+ㅇの発音になり、次の音節の初声に鼻濁音(鼻にかかったガ行音)が現れる。高木他[2020: 32]

に発音され、鼻にかかったガ行のような音²⁸になるが、この場合初声の位置に書いて示すことはできない。なぜならば、「ㅇ」という子音が、初声の位置では子音のない印であることと、終声の位置での [ŋ] と異なる 2 つの音を表しているからだ」と述べている。即ち、「連音化は起きるが、表記できないだけだ」と述べている。종이 [congɪ] の 종 [cong] を私たちは조 [co] ではなく自然と 종 [cong] として発音するのはなぜだろう。ㅇ [ŋ] は、次の音節（母音）に連音せず、ㅇ [ŋ] の反響音によって次の母音が [i] が「ガ行の濁る音」聞こえるのではないだろうか。いずれにせよ、[ŋ] パッチムの次に母音にくる際、終声として発音される言語事実から「ŋ」が連音化が起きるとの主張は、従い難い。発音の指導では、「ŋ パッチムは、連音はしないが、[ŋ] の次にくる母音は、反響音によってガ行の濁る音のように発音される」と説明できよう。

2.7 「ㄷ/1/」パッチムの特徴とその教授法について

菅野[1981: 27]は、舌を思い切り上あごの奥の方にそらすようにして英語の「L」を発音するが、英語の「L」の音色と異なると説明している²⁹。塚本[1983]・梅田[1985]・生越[2000]・李昌圭[2006]も「そり舌」に焦点を当てている。時代の流れと共に、「ㄷ」の発音方法の説明には少し変化が見えてきた。油谷[1993: 8]は、舌先を歯茎の裏に付けて口から息を出す、塩田[1998]は、舌を歯茎から離さないように、野間[2000]は、舌先を口の天井にしっかりつける、高木他[2020]は、舌先を上歯の裏側よりやや奥の方へつけてなどの指導法であるが、段々と舌の当てる部分が上の歯茎に近くなってきたことと、「付ける」ところに焦点を当てている。分析テキストでは、80 冊がそれであり、56.7%を占める。そして이승녕, 박승원[1972]・野間[2000]は、「舌側音」であり、肺からの空気が舌の両側から外に出るとの説明している。これに関しては、23 冊がそれであり、16.3%を占めてある。教える際、「付ける」ところにのみフォーカスすると、舌が高すぎる、息が舌の両端から流れないため、滑らかな響きにならない。そこで「息を舌の両側から外に出す」との説明を加えると、自然と口元を両側に引きながらそれらしい「ㄷ」パッチムの音を出すようになる。「ㄷ」パッチムの発音要領には、①そり舌、②舌側音の 2 点の説明も加えると良いだろう。

2.8 いくつかの子音・母音の発音記号について

²⁸ 決してガ行音 [g] に代用しちゃってはいけない。[ŋ] と [g] を間違えると違う単語になってしまうからだ。朝鮮語学研究会 [1987: 39]

²⁹ 分析テキストでは、英語の L に近い音として 16 冊、11.3%であり、英語の L の音と異なるとの主張は 4 冊、2.8%であった。

表 8 子音・母音の発音記号³⁰について

		発音記号：冊数，%順 ³¹
母音	ɔ̃	【ö, ə, ɔ, eo, o, ɔ̃, ʌ, ẽ, a 合計 9 個】 ö : 6, 4.3% ə : 15, 10.6% ɔ : 102, 72.3% eo : 4, 2.8% o : 1, 0.7% ɔ̃ : 1, 0.7% ʌ : 4, 2.8% ẽ : 1, 0.7% a : 1, 0.7% 記 号無し : 9, 6.4%
	ɐ̃	【ä, æ, ɛ, ae, e, ē 合計 6 個】 ä : 3, 2.1% ae=æ 15, 10.6% ɛ : 111, 78.7% e : 3, 2.1% ē : 1, 0.7% 記号無し : 9, 6.4%
	ɛ̃	【e e : 合計 2 個】 e : 131, 92.9% ɛ̃ : 1, 0.7% 記号無し 9, 6.4%
	一	【ū, ũ, I, w̃, eu, ʉ, i, u, ɥ, î, w 合計 11 個】 ū : 5, 3.6% ũ : 4, 2.8% I : 1, 0.7% w̃ : 1, 0.7% eu : 5, 3.6% ʉ : 98, 69.5% i=î : 13, 9.2% u : 2, 1.4% ɥ : 3, 2.1% w : 1, 0.7% 記号無し 9, 6.4%
	ɔ̃	【ö, φ, oe, we, we 合計 5 個】 ö=oe : 28, 19.9% φ : 19, 13.5% we : 95, 67.4% we : 1, 0.7% 記 号無し : 11, 7.8%
	ɔ̃	【wi, y, ü 合計 3 個】 wi : 121, 85.8% y=ü 6, 11.3% 記号無し : 8, 5.7%
	ɔ̃	【ui, ũi, ũi, ũi İ, w̃i, eui, wi, ɥi, ii, wj, ũy, ij, iy, wi 合計 15 個】 ui : 6, 4.3% ũi : 0.7 ũi : 7, ũi : 0.7% 5.0% İ : 1, 0.7% w̃i : 1, 0.7% eui : 2, 1.4% wi : 92, 65.2% ɥi : 4, 2.8% ii : 9, 6.4% wj : 1, 0.7% ũy : 1, 0.7% ij : 1, 0.7% iy : 1, 0.7% wi : 1, 0.7% 記号無し : 12, 8.5%
子音	ス	【j, c, ʃ, ʃ̃, ch, Ć, ɕ, ts, z 合計 9 個】 j : 6, 4.3% c : 5, 3.5% ʃ=Ć : 103, 73.0% ʃ̃ : 0.7% ch : 14, 9.9% ɕ : 1, 0.7% ts : 4, 2.8% z : 1, 0.7% 記号無し : 7, 5.0%

母音・子音発音表記に関しては、各テキストで異なる表記をしているところに焦点を当ててまとめた。発音記号の異なる様相も 1998 年からは、ほぼ統一の傾向が見られるが、ばらつきは依然と存在する。

³⁰ 一つの字母に対して発音記号のばらつきが多い母音 7 個、子音 1 個に絞って統計したものだ。

³¹ 141 冊数を分母にしているが、一つ字母に対して二つの音が存在するため、合計が 100% 超えることもある。

- ・「ㅓ」の音は、[ɔ] が 102 冊、72.3%で主流だが、[ə] が 15 冊、10.6%で、そのほかにも [ø, eo, o, ɒ, ʌ, ɐ, a] の発音記号があった。
- ・「ㅡ」の発音は、[u]、[i] → [w] の変化を辿って、やや中舌、そして後舌に移動して定着してきたが、分析テキストでは、[w] が 98 冊、69.5%になっている。そのほかにも [ū, ū, I, w̄, eu, u, î, w] の発音記号もあった。
- ・「ㅕ」において、[ɛ] の音は 111 冊、78.7%であり、その次は [ae] の音が 15 冊、10.6%を占めている。そのほかにも [ä, e, ē] の表記もあり、第 4 節で分析した通り、1980 年代から「ㅕ」との発音上の区別が薄れてきて、現在は「音の上で区別しなくてもいい」との変化に至った。
- ・「ㅜ」は、[we] の表記が一般的であるが、이승녕, 박승원[1972]・塚本[1983]・李昌圭[2006] が [ø] の表記も用いられている。塚本[1983]では、「ㅜ」は二通りの発音があり、ひとつは、唇に丸みを加えた「オ」の口で「エ」を言えば得られる [ø] と、もう一つは、半母音 w に [e] を続けて発音する [we] があり、北朝鮮では [ø] のみを認めていると述べている。梅田[1985]・油谷[1993]も、[we] 以外に [ϕ] があると示している。「ㅜ」に関して [ø, ϕ, oe, we, we] の発音表記が存在している。
- ・「ㅗ」については、塚本[1983]は、[u/wi] の音として、油谷[1993]は、[y/wi] として表記している。そして「ㅜ」と同じく単母音から複合母音の変遷を辿ってきた。
- ・「ㅛ」の音の表記に関しては、[ui, ūi, ūi, ūi ĩ, w̄i, eui, wi, ūi, ii, wj, ūy, ij, iy, wi] の 15 個に数えるが、分析テキストでは、[wi] が 92 冊、65.2%に至り、主流になっている。「ㅛ」に関しては、熊谷(2000)が詳しい。
- ・子音の「ㅈ」音声記号は、[j, c, ʃ, ʃ̄, ch, Ć, ɕ, ts, z (Ć=ʃ)] となっているが、1998 年以降からは、ほぼ [ʃ] に定着している。分析テキストでは 103 冊、73.0%に達している。

3. 終わりに

以上の分類、分析を通してテキストの作者の理解と学問の流派によって、日本での朝鮮（韓国）語のテキストには音韻上異なる分類が行われ、概念上の命名、知識の配置などにも違う様相が見られている。そして、歴史の流れとともに人間・文化そして地域の変化に従って音韻も発展変化を遂げてきた。テキストも知識の変化を要するし、教え側も音の歴史と現在を分かるからこそ、正しく尚且つ効率よい指導に繋がっていくだろうし、テキストも重みがある教材になるだろう。今後は、②文法項目の配置やその教授法、③会話文における文化的な背景や社会情勢の内容を盛り込んだ知的水準、④到達目標へのフォーカス

などについて検討してまいりたい。

＜参考文献＞

＜日本語で書かれた文献＞

- 飯田晴巳・中山緑郎編集（1995）『概説日本語学』鈴木一彦・林巨樹監修、明治書院
- 上野恵司（2001）『NHK 新中国語入門』NHK 出版
- 金思燁（1998）『古代朝鮮語と日本語』明石書店（1981 年、六興出版から刊行）
- 窪菌晴夫・影山太郎・三原健一・高見健一・杉本孝司・西光義弘・西村秀夫・金水敏 著、西光義弘 編集（1997）『英語学概論』くろしお出版
- 熊谷明泰（2000）「朝鮮語教育と学習書の現状について―母音解説で見られる問題点を中心として―」『関西大学研究センター報』26
- 野島進・王宣（1993）『中国語の最初歩』三修社
- 野間秀樹（2007）「音韻論から接近」『韓国語教育論講座 第 1 巻』くろしお出版
- 李翊燮・李相億・蔡琬 著（2004）『韓国語概説』梅田博之 監修 大修館書店

＜韓国語で書かれた文献＞

- 국립국어연구원 『한국어 어문 규범』 표준어 규정[시행 1989. 3. 1.] 문교부 고시 제 88-2 호(1988. 1. 19.)
- 노대규 외（1991）『국어학서설』신원문화사(2005 년 초판 14쇄)
- 이관규（1999）『학교문법론』도서출판 월인(2020 년 개정판 1쇄)
- 이석주, 이주행（1994）『국어학개론』대한교과서주식회사
- 하치근（1993）『남북한문법 비교 연구』한국문화사(1996 년 제 1 판 2쇄)

【付録】

<分析用テキスト³²>

【日本での朝鮮（韓国）語テキスト】

- [1] 外国語学普及会 編著[1962]『日本人のための韓国語四週間』文藝林（1999年第15版）
- [2] 石原六三・青山秀夫 著、河野六郎 監修[1963]『朝鮮語四週間』大学書林（1984年第42版）
- [3] 梶井陟[1971]『わかる朝鮮語<基礎編>』三省堂（1994年第2版第11刷）
- [4] 이승녕(甘수)・박승원(朴承元) [1972]『標準 韓国語 I <基礎・会話編>』高麗書林(1991年第18版)
- [5] 朝鮮語研究会 編[1973]『朝鮮語会話—基礎から会話まで—』朝鮮青年社(1983年第8版)
- [6] 石原六三・安田吉美[1974]『韓国語会話の友—ふりがなが付・話し方の基礎から実用会話まで』養徳社(1986年第4版)
- [7] 青山秀夫・松尾勇[1981]『実用朝鮮語会話』大学書林
- [8] 菅野裕巨[1981]『朝鮮語の入門』白水社(1996年第11刷)
- [9] 塚本勲[1983]『朝鮮語入門』岩波書店
- [10] 梅田博之[1985]『NHK ハングル入門』日本放送出版協会(1999年第23刷)
- [11] 早川嘉春[1986]『エクスプレス 朝鮮語』白水社（1997年第15刷）
- [12] 青山秀夫[1987]『基礎朝鮮語』大学書林（1988年第4版）
- [13] 金裕鴻[1987]『初めて学ぶ 韓国語 I』語研（1992年第7刷）
- [14] 朝鮮語学研究室 編著、菅野裕巨 監修[1987]『朝鮮語を学ぼう』三修社(1999年第版)
- [15] 田村紀之[1988]『韓国語教本』高麗書林
- [16] 成澤勝[1988]『韓国語の通になるための一韓国語会話「決まり文句」600』語研(1996年第7刷)
- [17] 梅田博之・金東俊[1989]『スタンダードハングル講座1 入門・会話』大修館書店(1999年第九版)
- [18] 塚本勲・奥田一廣 共著[1989]『新しい朝鮮語』白帝社（2000年第7刷）
- [19] 崔寛益[1990]『朝鮮語読本 しっかり学ぶ基本から会話まで』彩流社（2000年新装版発行）
- [20] 早川嘉春[1991]『すぐに役に立つ はじめてのハングル』日本放送出版協会(1999年第9刷)
- [21] 文京洙[1992]『基礎から読解まで ハングル教本』新幹社（2000年第6刷）
- [22] 尹宣熙[1993]『すぐわかるハングル文法 [改訂版]』南雲堂(1997年改訂新版 第3刷)
- [23] 海野和三郎・大原荘司 共著(校閲 李元植) [1993]『わたしの韓国語自修法』東京書籍
- [24] 油谷幸利[1993]『ハングル初級』大修館書店
- [25] 洪潤基[1994]『標準 韓国語教本』ハンリム出版社(1999年 改訂3版)
- [26] 大村益夫・權泰日[1995]『朝鮮語の基礎』東洋書店（1997年第2刷）
- [27] 松原孝俊・金延宣・黃聖媛[1995]『ポイントレッスン入門韓国語 改訂版』東方書店(1999年改訂版第1刷)
- [28] 高信太郎[1995]『まんが ハングル入門 笑っておぼえる韓国語』光文社(1998年第10刷)
- [29] 姜奉植 著、徐廷範 監修[1995]『韓国語会話入門』東方書店(2000年第2刷)
- [30] 吳英元[1996]『コミュニケーション韓国語』第三書房（2006年改訂版 初版）
- [31] 原谷治美[1997]『らくらく話せる 韓国語の初歩』日本実業出版社(1998年 第2刷)
- [32] 早川嘉春[1997]『朝鮮語早わかり』三修社
- [33] 柳尚熙[1998]『歌で覚える 韓国語』茅ヶ崎出版
- [34] 塩田今日子[1998]『こうすれば話せる CD ハングル』朝日出版社
- [35] 塚本勲・長谷川由紀子[1998]『入門者のための朝鮮語講座』白帝社(2004年 第5刷)
- [36] 木内明[1998]『今すぐ話せる 韓国語 [入門編]』東進ブックス(2000年第4版)
- [37] 金裕鴻[1998]『やさしい韓国語会話入門』金園社(第23版)
- [38] 金東漢・張銀英[1999]『改訂版 韓国語レッスン 初級 I』スリーエーネットワーク(2003年 改訂版第1刷)
- [39] 李昌圭[1999]『はじめての韓国語』ナツメ社
- [40] 韓誠[1999]『韓国語が面白い! ほど身に付く本』中経出版(2000年第4刷)
- [41] 金裕鴻[1999]『しっかり学ぶ韓国語』ベレ出版（2002年第7刷）
- [42] イユニ 執筆、梅田博之 監修[2000]『韓国語マラソン テキスト 1』アルク
- [43] 野間秀樹[2000]『至福朝鮮語』朝日出版社

³² テキストの配列は、音韻変化を辿っていくため時系列の視点で発行年月日順にした。同年同月同日である場合は、カナの50音順（朝鮮・韓国名も日本漢字音）にした。初版・第1刷で並べるが、版次・刷次が変わった場合は、出版社名の後に録する。

- [44]生越直樹・曹喜澈[2000]『韓国朝鮮語初級テキスト ことばの架け橋 改訂版』白帝社(2015年改訂5刷)
- [45]油谷幸利・南相璽[2001]『総合韓国語Ⅰ』白帝社
- [46]辛南妃・李ジェ成[2001]『暮らしと仕事に役に立つ 韓国語の日常基本単語 集』ナツメ社
- [47]李ジェ成[2001]『韓国語がびっくりするほど身につく本』あさ出版
- [48]金裕鴻韓国語勉強会 編[2001]『日本語ですばやく引ける 使える・話せる・韓 国語単語』語研
- [49]河村光雅・田星姫[2002]『聞いて覚える初級韓国語』白水社 (2004年第3刷)
- [50]邊恩田[2002]『ハングル 初級』白水社(2017年 第7刷)
- [51]高島淑郎[2002]『書いて覚える初級朝鮮語(改訂版・CD付)』白水社(2007年第12刷)
- [52]西嶋龍[2003]『ここ以外のどこかへ!旅の指さし会話帳@北朝鮮』情報センター 出版局
- [53]李昌烈[2003]『ハングル能力検定試験 4・5級合格をめざして -ハングル入門つき-』白帝社(2004年 4版)
- [54]嚴廷美・鄭長勲[2003]『한글 한국말! 25のフレーズと、会話で学ぶ韓国語』朝日出版社
- [55]谷澤恵介・白尚熹 著 川口義一 監修[2003]『耳から入る韓国語』学習研究社
- [56]李清一 監修、翻訳[2004]『アンニョンハセヨ!韓国語』池田書店
- [57]石坂浩一・金惠媛[2004]『フレンドリー・コリアン -楽しく学べる朝鮮語 (CDブック)』明石書店
- [58]李修京 編著、李文相・朴仁植・朴賢珠 著[2004]『一基礎から読解までハングル読本』明石書店
- [59]金賢信・金菊熙[2004]『韓国語初級テキスト Kim&Kimのハッピー・コリアン』白帝社
- [60]渡辺鈴子[2004]『日本語と照らして学ぶ 韓国語基礎』白帝社
- [61]木内明[2004]『基礎から学ぶ 韓国語講座初級』国書刊行会
- [62]呉英元[2005]『はじめての韓国語会話』新星出版社
- [63]村上洋子[2006]『入門韓国語一書いて、話して、身につけて一』朝日出版社
- [64]李昌圭[2006]『韓国語を学ぼう 初級』朝日出版社
- [65]権在淑 [2007]『表現が広がるこれからの朝鮮語』三修社
- [66]金惠媛・李文相・朴賢珠[2007]『サランヘヨ!ハングル 一初級から中級へ一』白帝社 (2015 年第5刷)
- [67]金惠嬪[2007]『スタート! 韓国語初級』白帝社
- [68]曹美庚・イヒジョン[2007]『キャンパス 韓国語 第3版』白帝社(2024年第3版第1刷)
- [69]金眞・柳圭相・芦田麻樹子[2008]『みんなで学ぶ韓国語 一文法編一』朝日出版社(2012年第4刷)
- [70]内山政春[2008]『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社(2011年 第2刷)
- [71]金貞愛・小谷昌彦・河京希・水野俊平[2008]『しっかり初級韓国語』白水社
- [72]中島仁・金珉秀・吉本一[2009]『新みんなの韓国語1』白帝社(2019年新版第1刷)
- [73]イユニ・水谷清佳・李南錦・崔英姬・睦俊秀[2010]『よく使うことばで学ぶ韓国語 改訂版』朝日出版社(2022年改訂版)
- [74]佐伯民江 著、梅田博之 監修[2010]『ハングル・未来への架け橋 BEGINNING KOREAN LANGUAGE』朝日出版社
- [75]嚴基洙・金三順・金天鶴・申鉉媛・吉川友丈[2010]『韓国語の初歩 改訂版』白水社 (2011年第4刷)
- [76]金菊熙・林河運・崔在佑 [2011]『だんだん韓国語』朝日出版社
- [77]金香男・北村唯司・梁禮先[2011]『韓国語初級テキスト らくらく Korean』白帝社
- [78]朴校熙・黃善英・崔昌玉・木村春菜[2011]『韓国語初級テキスト トライ韓国語1』白帝社
- [79]李修京 編、権在淑・梁禮先・李辰淑・安都根 著[2012]『Korea,おもしろい 韓国語初級』朝日出版社
- [80]李潤玉・酒匂康裕・須賀井義教・睦宗均・山田恭子[2012]『三訂版・韓国語の世界へ 入門編』朝日出版社(2019年第4刷)
- [81]塩田今日子・印省熙[2012]『場面で学ぶ韓国語』朝日出版社
- [82]ブルチョウ吉岡美愛・李英和[2012]『韓国語ゴーゴー』白水社
- [83]村上洋子・室屋正史[2012]『しっかり韓国語 (テキスト+CDセット)』同人社
- [84]崔瑞玟[2012]『親しくなれる 韓国語』白帝社
- [85]金殷模・権来順・宋貞熹・文慶喆[2013]『かんたん韓国語』朝日出版社
- [86]鄭勛燮・申昌鉉[2013]『アクティビティな韓国語』朝日出版社
- [87]河村光雅[2013]『韓国語ポイント50』白水社
- [88]松尾勇・金善美・千田俊太郎[2013]『じゃんけんばん』同人社
- [89]金東漢[2013]『大学 韓国語演習』白帝社
- [90]宋美玲・印省熙・白寅英[2013]『踏みだそう!韓国語への第一歩』白帝社
- [91]金京子[2014]『ハランセ韓国語会話入門』朝日出版社
- [92]崔柄珠[2014]『おはよう韓国語 1』朝日出版社
- [93]盧載玉・梁貞模[2014]『ハングルのとびら』朝日出版社
- [94]山田佳子・金世朗[2014]『韓国語の時間ですよ (テキスト+CDセット)』同人社
- [95]油谷幸利・コヨンジン[2014]『実用韓国語』白水社
- [96]金京姬・金成妍・姜信一[2014]『スマート韓国語 初級(ハングル能力検定試験5級対応)』白帝社
- [97]金順玉・阪堂千津子[2014]『最新チャレンジ!韓国語 (CD付)』白水社(2017年第9刷)
- [98]朴大王・李贊任[2014]『韓国の今を体感!すぐに使える 韓国語入門』白帝社
- [99]生越直樹・生越まり子・池玟京[2015]『韓国朝鮮語 初級テキスト 改訂版 根と幹 (こんとかん)』朝日出版社(2022年改訂初版)

- [100]金智賢[2015]『改訂版 教養韓国語 初級』朝日出版社(2023 年 改訂初版)
- [101]熊谷明泰[2015]『初級韓国朝鮮語教材 アリラン 改訂版』朝日出版社
- [102]朴美子・崔相振[2015]『グループで楽しく学ぼう！韓国語』朝日出版社(2021 年 第 6 刷)
- [103]入佐信宏・金孝珍[2015]『これで話せる韓国語 STEP1』白帝社
- [104]飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子[2016]『韓国語の基礎 1』朝日出版社
- [105]黄聖媛・黄晟媛[2016]『話せる！初級韓国語』朝日出版社
- [106]李美賢・李貞暎[2016]『楽しく学べる韓国語』白水社(2021 年第 6 刷)
- [107]李熙卿・白仁子[2016]『マルブンソンで学ぶ 韓国語初級』白帝社
- [108]金孝珍著・北原マス子監修[2017]『即！実践 楽しもう韓国語』白帝社
- [109]中西燕子[2017]『ふじちゃんの 코리아 語入門 文法編』朝日出版社
- [110]松崎真日・丁仁京・熊木勉・金昂京・李秀昊[2017]『韓国語教本 ハングルマ ダン 改訂版』朝日出版社(2020 年改訂初版)
- [111]金美華[2017]『韓国語初級テキスト サクサクっと韓国語 改訂版』白帝社
- [112]金庚芬・丁仁京[2018]『チンチャ！チャアヘヨ!!韓国語 1』朝日出版社(2023 年改訂初版)
- [113]金菊熙・李順蓮・安憲蓮・李政映[2018]『いよいよ韓国語』朝日出版社
- [114]K. S. Jeong, ・S. S. Rung[2018]『おいしい KOREAN レッスン』朝日出版社
- [115]梁禮先・権点淑・曹恩美[2018]『やさしい韓国語 初級』朝日出版社
- [116]李志均・崔英姫[2019]『ミソリ - 「美しい音」で学ぶ初級韓国語-』朝日出版社
- [117]林河運・朴瑞庚[2019]『するする韓国語』朝日出版社
- [118]鄭世桓・権来順・金永昊・吳正培・張基善[2019]『パルン韓国語 初級』朝日出版社
- [119]文珍瑛・郭珍京[2019]『いっしょにコリアン - 基礎編』白帝社(2020 年 2 刷)
- [120]崔在佑[2020]『やってみよう！韓国語 -해보자! 한국어-』朝日出版社
- [121]高木丈也・金泰仁[2020]『ハングル ハングル I』朝日出版社
- [122]韓必南・全恵子[2020]『マル韓国語』朝日出版社
- [123]生越直樹・三ツ井崇・チョ ヒョナル[2020]『韓国朝鮮語初級テキスト ことばの架け橋 精選版』白帝社
- [124]李正子・金昭鎭 著 都恩珍 監修[2021]『ひかりとシフのどきどき韓国語』朝日出版社
- [125]金銀英・金英姫・崔秀蓮・尹芝恵[2021]『これで OK! 韓国語 初級』朝日出版 社
- [126]金京子・喜多恵美子[2021]『三訂版 バランセ韓国語 初級 -ハングル能力検定試験 5 級完全準拠-』朝日出版社(2022 年第 4 刷)
- [127]金珍娥・野間秀樹・村田寛[2022]『はばたけ！韓国語 ライト版 1』朝日出版社
- [128]河正一[2022]『ワンステップ韓国語 -文学からはじめて中級をめざすあなたへ-』朝日出版社
- [129]山崎玲美奈[2022]『キムチ 1 韓国語入門』朝日出版社
- [130]陸心芬・金由那・白明学・金昭鎭[2022]『どんどん話そう！韓国語』朝日出版社
- [131]朴恩珠・森類臣・權世美[2022]『쑹쑹 자라네 ぐんぐん伸びる韓国語 初級』白帝社
- [132]町田小雪・尹秀一・金辰成[2022]『韓国語 1st Step -大学生のための実践会話』白帝社
- [133]稲毛恵・姜勝薫・永尾歩[2022]『初級テキスト 韓国語の友』白帝社
- [134]石坂浩一・佐々木正徳・金良淑・郭珍京・李和貞・岡村佳奈[2023]『ブリティ・コリアン』朝日出版社
- [135]朴庚卿・中島淳子・金美順・徐明煥著・河正一 監修[2023]『ワンアクション 韓国語』朝日出版社
- [136]曹述燮・柳朱燕[2024]『첫 단계 한국어 はじめての韓国語』白帝社
- [137]李延姫[2024]『공부하자! 한국어 韓国語初級』白帝社
- 【韓国での韓国語テキスト】**
- [138]연세대학교 한국어학당[1992]『한국어 1』연세대학교 출판부(1999 年 13 판)
- [139]가나다한국어학원[1997]『가나다 KOREAN』한글피크(2012 年 개정판 19 쇄)
- 【中国での韓国語テキスト】**
- [140]苗春梅 裴祐成 趙南卿[1995]『韓国語入門』外国語教学与研究出版社(『韓国語の入門』外国語教育と研究出版社)
- [141]張敏 編著[2000]『韓語三百句』三思堂(『韓国語の 300 句』三思堂)

・受付：2025 年 6 月 10 日
 ・修正：2025 年 8 月 28 日
 ・掲載：2025 年 9 月 30 日

日韓の大学生における 禁止を意図する言語表現の使用実態

飯田 華子（大阪公立大学日本学術振興会特別研究員）

＜要旨＞

本研究は、先行研究ではあまり扱われてこなかった禁止を意図する言語表現を対象に、日韓の大学生の使用実態の同異をポライトネス理論の観点から明らかにすることを目的とする。調査方法は、回答選択形式のアンケート調査を用いて、日本と韓国それぞれの大学生を対象に場面ごとの禁止を意図する言語表現について使用調査を行った。日本語と韓国語は文法体系が似ており、今回調査対象とした直接話法に該当する表現の形式（命令の形式、不許可の形式、希望の形式）についても日韓で同じ表現が存在する。しかしながらこれらの表現の使用については、上下関係、親疎関係、被害の対象、発話の当然性の観点で、日韓に違いが認められた。

キーワード 禁止、言語行為、日韓比較、行為指示、ポライトネス

1. はじめに

本研究は、日韓の大学生を対象に、禁止を意図する言語表現の使用実態の同異を明らかにすることを目的とするものである。本研究での「禁止」とは、「話者が聴者に対してある行為をしないようにするもの」であり、これを意図する「言語表現」とは、言語形式や語の本来の意味に焦点を当てるのではなく、発話の効力に焦点を当てた言語行為¹を前提とするものである。

Brown & Levinson (1987: 85、以下 B&L と略す) はこのような禁止を含む行為指示について、FTA（相手のフェイスを侵害する行為）に該当すると説明している。つまり発話には注意が必要である。母語話者はもちろん学習者にとって

¹ Austin (1962) や Searle (1969) などによる、言語を形式言語（記号）として意味を伝達するものとしてではなく、言語の行為的側面に着目した考え方を指す。

は、表現の選択が非常に難しいことが考えられる。そこで本研究は、日韓の大学生を対象とし、禁止を意図する言語表現の使用実態について、ポライトネス理論の観点からの同異を明らかにしようとする。

2. 先行研究と本研究の位置づけ

2.1 行為指示に関する研究

笹川 (1999) は各言語母語話者を対象に、チケットを買ってくれるように依頼する場面と 4 種類 (目上、目下、親、疎) の依頼の相手を設定し、依頼の文に現れる方略について調査した。回答方法は記述式である。日韓の依頼形式として助力を求める方略が共通して使用されるが、日本語では消極的に助力を願う方法が一般的である一方、韓国語では親疎関係が影響し、親しい間柄において相手に強い共感を示す、互惠性に訴える、といった積極的な丁寧さの方略が使用されるとしている。

樋田 (2003) は日本語母語話者と韓国人日本語学習者を対象に、親疎上下関係と依頼の負担度の観点から 8 種類の依頼内容を設定し、談話構成と依頼表現の文末形式の使い分けについて調査した。韓国語母語話者の発話の特徴について、日本語母語話者に比べて「言いきり」の使用率が高く「言いさし」の使用率が低いとしている。また上司に対する発話では、韓国語母語話者のみ依頼内容の難易によって「言い切り」と「言いさし」の使い分けが見られている。

문양수 (2017) は日韓の高校生を対象に、依頼の相手を 3 種類 (目上、同年輩、目下) に分け、全 15 種類の依頼の場面を設定し、頼み事をする際に使用される文の種類を調査した。全体的に直接型依頼が最も多く、理由型、謝罪型が次いで多く使用されており、理由型の依頼は韓国の高校生、謝罪型の依頼は日本の高校生に多く見られたことを明らかにしている。

行為指示の中でも上記のような依頼や命令に関する研究が活発に行われてきた半面、行為の不実行を指示する禁止に関してはそれほど活発に行われてこなかった²。しかし、禁止は聴者の行為を制限するため、発話により注意が必要な言語行為であると言える。

2.2 不満に関する研究

朴 (2000) は日本語母語話者、韓国人日本語学習者、韓国語母語話者を対象に、不満の感じ方、不満表明の方法、言いにくさについて調査した。不満表明

² 行為指示に関する先行研究の詳細と、禁止に関する研究が活発でなかった理由に関しては、飯田 (2024b) で言及している。

を行う場面は 14 場面設定されており、相手要因、義務の有無、力、上下関係、親疎関係、不満を感じた頻度、相手の性別によって構成されている。回答は、不満を感じる度合い、不満表明の方法、言いにくさについての項目があり、不満表明の表現に関しては記述式で答える方法である。

不満に関する先行研究は、聴者の行為に対してマイナス評価を与える点で禁止と類似する言語行動と言えるが、相手の行為への抑制よりも自身の感情を表出することに焦点が置かれている点で禁止とは異なると言える。また、禁止は現在行われている、もしくは繰り返し行われていて今後行われることが予想される行為が対象となる一方、不満はすでに行われた行為が対象となり、行為の連続性については多様である。

3. 調査概要

本研究は回答選択形式のアンケート調査を用いて、日本と韓国の大学生を対象に、場面ごとの禁止を意図する言語表現について調査を行った。調査日は、2025 年 4 月 2 日～3 日（韓国）、2025 年 4 月 21 日（日本）で、被調査者の詳細は以下の通りである。

表 1 被験者の詳細

		日本	韓国
性別	男	125 名	100 名
	女	115 名	115 名
	回答無し	2 名	1 名
合計		242 名	216 名

被調査者には、18 個の提示された状況において、禁止を意図する発話を行う際にどのような発話を行うのか、5 個の選択肢の中から最も近い発話を選んで回答してもらう方法で調査を行った。選択式の調査は、明確な選択肢があることから思考の範囲が限定されるという短所がある。一方記述式の調査は、明確な選択肢がないことから自身の表現をそのまま反映できるという長所がある。このような理由から、先行研究では記述式の調査を行ったものも多くみられる。しかし本研究では、ポライトネス理論の観点から分析を目的としているため、発話を文字にして書く際に無意識に実際の発話よりも丁寧な言葉で書いてしまう可能性を懸念し、今回は選択式の回答を採用した。ただし、選択肢の中に該当する発話がない場合は「その他」を選び、直接発話を入力してもらった。

発話場面は、話者と聴者の上下関係、親疎関係、対象行為による被害の対象

者を考慮し（上下関係 3×親疎関係 2×被害対象 3、計 18 場面）、状況における発話の当然性についても異なるように構成した。これは B&L (1987) が挙げた話し手 (S) が聞き手 (H) に対して用いるポライトネスのレベルを決める要因を参考に、H が S に対して持つ相対的な力 (relative power, P) を上下関係、S と H の間の社会的距離 (social distance, D) を親疎関係、FTA の負荷度 (ranking of the imposition, R) を発話の当然性として設定したものである。これらの要素と場面の適切性を考慮し、禁止の対象となる行為の種類は、話、非協力的行動、迷惑行為、割り込み、侵入、ルール違反の 6 個を設定した。また、提示順序が回答に与える影響を考慮し、回答者には 18 個の状況がランダムで提示されるように設定した。

表 2 発話場面の構成の詳細

場面	種類	上下	親疎	被害対象	当然性
1	話	同	親	自分	低い
2	非協力的行動	同	親	自分たち	高い
3	迷惑行為	同	親	皆	高い
4	割り込み	同	疎	自分	低い
5	侵入	同	疎	自分たち	低い
6	ルール違反	同	疎	皆	高い
7	話	下	親	自分	低い
8	非協力的行動	下	親	自分たち	高い
9	迷惑行為	下	親	皆	高い
10	割り込み	下	疎	自分	低い
11	侵入	下	疎	自分たち	低い
12	ルール違反	下	疎	皆	高い
13	話	上	親	自分	低い
14	非協力的行動	上	親	自分たち	高い
15	迷惑行為	上	親	皆	高い
16	割り込み	上	疎	自分	低い
17	侵入	上	疎	自分たち	低い
18	ルール違反	上	疎	皆	高い

選択肢として提示する表現の形式は、テレビドラマを対象とした禁止を意図する表現の使用に関する事前調査（飯田：2024）において使用頻度が高かったものを中心として設定した。表現の形式の名称は宮崎他（2002）を参考にしたものであり、ここでは表現の種類を①本来的に禁止の機能をもっているもの、②本来は別の機能を持っていたが、禁止の機能に移行し、その機能が定着したもの、③状況に依存して禁止の含意を派生するもの、のように三つに分けている。また、発話文と発話意図が同一であるかどうかという観点から、①と②を

直接話法、③を間接話法とすることができる。

表3 禁止を意図する表現の形式の詳細

選択肢	表現の形式	文末表現の例	文の形式	話法
1	命令の形式	～ないで	①	直接 話法
2	不許可の形式	～たらだめ	②	
3	希望の形式	～ないでほしい		
4	理由説明	－	③	間接 話法
5	他の行為の提案	－		
6	その他	－	－	－

4. 結果

選択肢として提示した5つの表現の形式とその他の項目を合わせ、18 場面全体の日韓それぞれの回答結果をみると以下の通りである。日韓ともに「理由説明」の形式、「他の行為の提案」の形式が多く選ばれたことがわかる。

表4 禁止を意図する表現の形式と使用実態の全体割合

	表現の形式	結果（日本）		結果（韓国）	
1	命令の形式	387	8.88%	350	9.09%
2	不許可の形式	207	4.75%	341	8.85%
3	希望の形式	457	10.49%	239	6.20%
4	理由説明	1422	32.64%	1235	32.06%
5	他の行為の提案	1538	35.31%	1338	34.74%
6	その他	345	7.93%	349	9.06%

選択肢の5個の表現の形式の各場面の使用頻度の詳しい結果を提示し、使用の傾向をそれぞれ以下で整理する。

4.1 命令の形式

命令の形式として日本語では、目下・同等の聴者への発話は「～(し)ないで。」、目上の聴者への発話は「～(し)ないでください。」で終わる文、韓国語では、目下・同等の聴者への発話は「-지 마.」、目上の聴者への発話は「-지 마세요.」で終わる文を提示した。全体の回答割合をみると日本は8.88%、韓国は9.09%と大差がないことがわかる。

日本の回答を設問ごとにみると、平均使用率の二倍以上多く使用されていた場面は場面9と場面12であった。この二つの状況の共通点は、上下関係が

「下」、被害対象が「皆」、発話の当然性が「高い」ことである。つまり、目下の聴者の「ルール違反」や「迷惑行為」に対して使用が高くなる傾向がある。反対に使用率が低かった場面（使用率 3%以下）は、場面 4、場面 5、場面 17 であった。この三つの状況の共通点は、親疎関係が「疎」、発話の当然性が「低い」ことである。つまり、親しくない相手の「割り込み」や「侵入」に対して使用が低くなる傾向がある。

韓国の回答を設問ごとにみると、平均使用率の二倍以上多く使用されていた場面は、場面 9、場面 13、場面 15 であった。この二つはともに親疎関係が「親」である。場面 9、場面 15 をみると、被害対象が「皆」、発話の当然性が「高い」ことが共通してみられる。つまり、上下関係に関係なく「迷惑行為」に対して使用が高くなる傾向がある。場面 13 は「体型のことを気にして触れてほしくないのに、仲良い先輩がずっとその話をする」という状況である。この場面における使用率が 26.17%と非常に高かったことは韓国の特徴と言える。使用率が低かった場面（使用率 2%以下）は、場面 4、場面 5、場面 17 と、日本と全く同じ結果であった。

命令の形式における日韓の共通点は、被害対象が「皆」、発話の当然性が「高い」場合の使用率が高いことである。また、親疎関係が「疎」、発話の当然性が「低い」場合の使用率が低いことも共通している。相違点は、日本では上下関係が「下」の場合、韓国では親疎関係が「親」の場合に使用が高いことである。また韓国において、気にしている体型のことに触れる場面においての使用率が非常に高かった。

表 5 命令の形式の場面ごとの日韓の使用割合

場面	日本	韓国	場面	日本	韓国	場面	日本	韓国
1	4.55%	5.14%	7	11.98%	13.55%	13	11.98%	23.83%
2	8.68%	7.48%	8	14.05%	14.49%	14	4.13%	3.27%
3	5.37%	6.07%	9	21.49%	29.91%	15	5.79%	26.17%
4	2.07%	0.00%	10	8.68%	6.07%	16	12.81%	7.94%
5	2.48%	1.87%	11	9.50%	3.27%	17	2.48%	0.47%
6	8.26%	7.01%	12	17.36%	4.67%	18	8.26%	2.34%

4.2 不許可の形式

不許可の形式として日本語では、目下・同等の聴者への発話は「～(し)たらだめ。」、目上の聴者への発話は「～(し)たらだめです。³⁾」で終わる文、韓国

³⁾ このほかにも「～(し)てはいけません」という表現なども不許可の形式に該当するが、会話で使用される表現としては一般的ではないと考えたため、「～(し)たらだめです」という表現を選んだ。

語では、目下・同等の聴者への発話は「-(으)면 안 돼.」、目上の聴者への発話は「-(으)면 안 돼요.」で終わる文を提示した。全体の回答割合をみると日本は 4.75%、韓国は 8.85%と韓国のほうが少し使用率が高い結果となった。

日本の回答を設問ごとにみると、平均使用率の二倍以上多く使用されていた場面は場面 9 と場面 15 であった。この二つの状況の共通点は、親疎関係が「親」、被害対象が「皆」、発話の当然性が「高い」ことである。親しい聴者の周りに迷惑をかける行為に対してのみ使用されていることがわかる。言い換えると、親しい聴者の「迷惑行為」に対して上下関係に関係なく使用が高くなる傾向があると言える。

韓国の回答を設問ごとにみると、平均使用率の二倍以上多く使用されていた場面は、場面 5、場面 9、場面 11、場面 18 であった。韓国では、親しくない聴者の「ルール違反」に対して不許可の形式が使用される傾向がみられた。また、「自分たち」が使用予定である場所への「侵入」に対して、目上の聴者以外で不許可の形式の使用が多くあらわれたことも日本と異なる点である。

表 6 不許可の形式の場面ごとの日韓の使用割合

場面	日本	韓国	場面	日本	韓国	場面	日本	韓国
1	5.79%	2.80%	7	5.37%	0.93%	13	4.13%	3.27%
2	1.24%	0.93%	8	4.55%	8.88%	14	1.65%	3.27%
3	2.07%	1.87%	9	14.46%	19.63%	15	14.46%	7.01%
4	0.00%	0.93%	10	4.55%	2.34%	16	0.41%	7.01%
5	3.72%	17.29%	11	7.85%	35.98%	17	1.65%	3.27%
6	2.07%	10.75%	12	6.61%	10.28%	18	4.96%	22.90%

4.3 希望の形式

希望の形式として日本語では、目下・同等の聴者への発話は「～(し)ないでほしいんだけど…。」、目上の聴者への発話は「～(し)ないでほしいんですが…。」で終わる文、韓国語では、目下・同等の聴者への発話は「안 -았으면 /었으면 좋겠는데…。」、目上の聴者への発話は「안 -(으)셨으면 좋겠는데…。」で終わる文を提示した。全体の回答割合をみると日本は 10.49%、韓国は 6.20%と日本のほうが使用率が少し高い結果となった。

日本の回答を設問ごとにみると、平均使用率の二倍以上多く使用されていた場面は、場面 6、場面 9、場面 12 であった。これらの状況の共通点は、被害対象が「皆」、発話の当然性が「高い」ことであり、「ルール違反」や「迷惑行為」に対して使用が高くなる傾向がみられた。

韓国の回答を設問ごとにみると、平均使用率の二倍以上多く使用されていた場面は、場面 7 と場面 13 であった。この二つの状況の共通点は、親疎関係が

「親」、被害対象が「自分」、発話の当然性が「低い」ことであり、触れてほしくない「話」に対して使用が高くなる傾向がみられた。

希望の形式における日韓の結果は、被害対象、発話の当然性において相違を見せた。日本ではルール違反にあたる行為など、周囲に迷惑がかかる場合に希望の形式を使用していた一方、韓国では個人的に嫌と感じる行為に対してこの形式を使用していた。

表7 希望の形式の場面ごとの日韓の使用割合

場面	日本	韓国	場面	日本	韓国	場面	日本	韓国
1	8.68%	6.54%	7	9.92%	14.02%	13	14.05%	22.90%
2	9.09%	3.74%	8	13.64%	9.35%	14	5.37%	2.80%
3	5.79%	6.07%	9	19.83%	8.88%	15	1.65%	0.93%
4	15.70%	0.93%	10	8.68%	1.87%	16	7.85%	1.87%
5	3.72%	1.40%	11	7.85%	0.47%	17	2.07%	0.47%
6	22.31%	11.21%	12	19.83%	10.75%	18	12.81%	7.48%

4.4 理由説明

理由説明の形式は、禁止対象行為をやめてほしい、またはやめるべきである理由のみを述べることによって間接的に対象行為を禁止する形式である。全体の回答割合をみると日本は32.64%、韓国は32.06%とほぼ同じであった。

日本の回答を設問ごとにみると、平均使用率の二倍以上多く使用されていた場面は場面5と場面17であった。これらの状況の共通点は、親疎関係が「疎」、被害対象が「自分たち」、発話の当然性が「低い」ことであり、親しくない相手の「侵入」に対して使用が高くなる傾向がみられた。

韓国の回答を設問ごとにみると、平均使用率の二倍以上多く使用されていた場面は、場面4、場面5、場面13であった。これらの状況の共通点は、親疎関係が「疎」、発話の当然性が「低い」ことであり、親しくない相手の「割り込み」や「侵入」に対して使用が高くなる傾向がみられた。

これらの結果から、日韓ともに、親疎関係が「疎」、発話の当然性が「低い」場面において理由説明の形式が使用されていたことがわかる。

表8 理由説明の形式の場面ごとの日韓の使用割合

場面	日本	韓国	場面	日本	韓国	場面	日本	韓国
1	21.90%	17.29%	7	9.09%	18.69%	13	17.36%	10.28%
2	15.29%	25.70%	8	9.92%	12.15%	14	21.49%	36.92%
3	25.21%	30.37%	9	14.05%	10.28%	15	24.38%	3.74%
4	54.96%	71.50%	10	45.04%	33.18%	16	52.07%	42.52%

5	78.10%	66.82%	11	57.02%	47.20%	17	86.36%	85.51%
6	27.69%	23.83%	12	16.94%	24.30%	18	10.74%	16.82%

4.5 他の行為の提案

他の行為の提案の形式は、禁止対象行為とは別の行為を提案することによって、間接的に対象行為をやめさせる形式である。全体の回答割合をみると日本は 35.51%、韓国は 34.74%とほぼ同じであった。

全体的に使用率が高い形式であったが、設問ごとの回答をみると回答率が低い場面に日韓共通の特徴がみられた。日本の回答を設問ごとにみると、平均使用率が 10%未満であった場面は場面 5 と場面 17 であった。これらの状況の共通点は、親疎関係が「疎」、被害対象が「自分たち」、発話の当然性が「低い」ことである。韓国の回答を設問ごとにみると、日本と全く同じ場面において使用率が 10%と低くあらわれた。日韓ともに、親しくない相手の「侵入」に対しては使用が低くなる傾向がみられた。この二つの場面はともに理由説明の形式の使用率が非常に高くあらわれていた場面でもある。

表 9 他の行為の提案の形式の場面ごとの日韓の使用割合

場面	日本	韓国	場面	日本	韓国	場面	日本	韓国
1	43.80%	42.52%	7	58.68%	45.79%	13	47.52%	29.91%
2	59.92%	56.07%	8	49.59%	50.00%	14	61.57%	52.34%
3	54.13%	47.20%	9	23.14%	22.43%	15	52.89%	59.81%
4	19.83%	22.43%	10	22.31%	46.73%	16	15.70%	25.23%
5	7.44%	4.21%	11	14.88%	12.15%	17	7.02%	8.88%
6	24.79%	32.24%	12	24.38%	37.85%	18	47.93%	29.44%

4.6 その他

選択肢に自分の発話に該当するものがなければ「その他」を選び、その発話内容を直接入力するように指示した。結果その他の回答率は日本は 7.92%、韓国は 9.06%であった。

日本の結果の内容を見ると、「何も言わない」や「無視する」のように発話をしないという旨の内容の回答が全体の 4.68%であった⁴。特に場面 6、場面 9、場面 12、場面 16、場面 18 で多くみられたことから、他の場面に比べて親疎関係が「疎」の聴者である場合、禁止を意図する発話自体を行わない傾向が確認できた。

⁴ 今回は言語表現の違いを考察することが目的であったため、調査の選択しには「発話無し」という項目を設けていなかった。ここでは選択肢の「その他」の項目を選択し、「発話無し」である旨を記入した回答を指す。

では、これらを除いて直接発話をを入力した全体の3.24%から、日本語の発話の特徴を整理する。最も直接入力が多かった場面は、場面1で12.40%である。特に、「そうかなあ。」や「そんなことはないと思うけど。」のような発話が目立った。相手の発話に疑問を抱きつつも、自分の思いを独り言のように発しているものである。そのほかには「なんで？」や「なにかあった？」など、理由を聞く発話もいくつかみられた。また、場面8と場面12でもその他の回答が見られた。この二つの場面はともに上下関係が「下」の聴者で、発話の当然性が「高い」が、親疎関係が異なっている。場面8は親しい後輩に話し合い中の携帯をやめてほしいという場面であるが、「何見てるの？」という発話や「〇〇はどう思う？」という発話が見られた。これらの発話は、聴者に自身の行動が適切ではないことを間接的にわかってもらおうとしていることがうかがえる。一方、場面12は知らない下級生に図書館での大声での会話をやめてほしいという場面であるが、「ちょっと静かにしてくれる？」、「外で話してくれない？」のような授受表現を使用した発話が見られた。つまり、親しい聴者に対してより間接的な表現の使用をしていることがわかる。

韓国の結果の内容を見ると、「아무 말 안 한다」や「무시한다」のような発話をしないという旨の内容の回答が4.23%であった。特に場面16、場面18で多くみられたことから、上下関係が「上」で親疎関係が「疎」の聴者に対して禁止を意図する発話自体を行わないという回答が多い結果となった。

では、これらを除いて直接発話をを入力した全体の4.83%から韓国語の特徴を整理する。最も直接入力が多かった場面は、場面1で22.90%である。特に、「왜？」という理由を聞く発話が最も多くあらわれた。そのほかにも「아 그래？」や「그럴 수 있지.」のような、相手のことを否定せず同調もしない表現がみられたのが特徴的であった。また、場面6、場面9、場面12でも多く見られた。場面6と場面12は親疎関係が「疎」、被害対象が「皆」、発話の当然性が「高い」場面である。ともに大声で話しているのをやめてほしいという場面で、場面6は場所が自習室で聴者が同級生、場面12は場所が図書館で聴者が下級生である。ここでは日本語と同様、「조금만 조용히 해 줄 수 있어？」や、「조금만 조용히 해 줄래？」のように授受表現を使用した発話が見られたほかに、「시끄러워.」のような不満のみを表す発話が見られた。場面9は、親しい後輩に集まりの時間に頻繁に遅れるのをやめてほしいという場面であるが、「내일 오지 그랬냐.」や「커피 사.」のように、皮肉や冗談が混じった発話がいくつか見られたのが特徴的であった。

5. 考察

これまでの調査結果について日韓を比較し、場面による言語表現の各言語の使用の同異を示すため、18個の設問ごとに「言語表現の形式」×「国」で χ^2 検定を行った。その際に、選択肢6「その他」のデータは除いた選択肢1から5までの結果のみを対象とした。その結果は以下の通りである。

表 10 設問ごとの日韓の言語表現の使用の有意差

	1	2	3	4	5	6
値	2.818 ^a	11.636 ^a	2.298 ^a	40.036 ^a	27.130 ^a	25.234 ^a
自由度	4	4	4	4	4	4
漸近有意確率	.589	.020	.681	<.001	<.001	<.001
	7	8	9	10	11	12
値	19.890 ^a	5.446 ^a	15.553 ^a	36.276 ^a	66.108 ^a	33.448 ^a
自由度	4	4	4	4	4	4
漸近有意確率	<.001	.244	.004	<.001	<.001	<.001
	13	14	15	16	17	18
値	27.041 ^a	14.099 ^a	70.885 ^a	31.859 ^a	6.931 ^a	50.539 ^a
自由度	4	4	4	4	4	4
漸近有意確率	<.001	.007	<.001	<.001	.140	<.001

6種類に分類した禁止の対象となる行為ごとに、話、非協力的行動、迷惑行為、割り込み、侵入、ルール違反の順で、日韓の相違点について分析していく。

5.1 禁止対象行為「話」

相手が自分が話したくない話題や触れたくないことについて話をしたことを想定した状況である。聴者は親しい関係の人物を設定し、その行為による被害の対象は「自分」のみである。

場面 1 の仲良い友人の悪口を言われた場面では日韓の間に有意差はみられなかった。一方、場面 7 の聞かれたくない恋愛について聞かれた場面と、場面 13 の触れられたくない体型について言われた場面では有意差がみられた。日本では「他の話しよう」というその他の行為の提案の形式の使用率が圧倒的に高かった。しかし、韓国ではそれ以外の形式もみられ、特に場面 13 では命令の形式、希望の形式、その他の行為の提案の形式の使用率がほぼ同じくあらわれた。

相手の話していることをやめさせる場面において、日本では話題を変える間接的な言語行動をとることから、そのことに触れずに回避しようとしていることがうかがえるが、韓国では話題次第では直接的な表現を使用し、確実にその話をやめてもらおうとしていることが差としてあらわれた。

5.2 禁止対象行為「非協力的行動」

自分を含めた複数人が一緒に何か活動をしているときに、一人その行動に参加しない、または協力的でないことを想定した状況である。聴者は親しい関係の人物を設定し、その行為による被害の対象は「自分たち」である。

場面 2 のみんなで勉強会をしているのに写真を撮って遊んでいる、場面 8 の皆で話し合っているのに携帯を見ている、場面 14 の発表の内容を決めているのに関係のない話をしている、以上三つの場面は聴者の非協力的行動的が対象となる場面である。これら三つの場面において日韓の間での有意差は認められず、日韓の言語行動に違いが認められないという結果となった。場面 2 は上下関係が「同」、場面 14 は上下関係が「上」であるが、大部分がその他の行為の提案の形式が選ばれ、理由説明の形式がその次に多い結果となった。上下関係が「下」の場面 8 では、日韓ともにほかの二つと比べて直接的な表現の割合が高い結果となった。

5.3 禁止対象行為「迷惑行為」

自分を含めてその場にいる人たちが迷惑であると思う行動が行われたことを想定した状況である。聴者は親しい関係の人物を設定し、その行為による被害の対象は「皆」である。

場面 3 の授業中に他の話題で盛り上がっている、場面 9 の頻繁に約束時間に遅れて迷惑をかける、この二つの場面において日韓の間での有意差は認められず、日韓の言語行動に違いが認められないという結果となった。場面 3 は聴者が親しい友人である。大部分がその他の行為の提案の形式が選ばれ、理由説明の形式がその次に多い結果となり、80%以上の回答が選択肢 4 と 5 の間接的な表現であった。場面 9 は聴者が親しい下級生である。選択肢 1 から 3 の直接的な表現の使用率の合計が日本 60.0%、韓国 64.0%と日韓ともに非常に高くあらわれた。日韓ともに相手の迷惑行為に対して、上下関係が「同」の場合は間接話法、上下関係が「下」の場合は直接話法を使用していることがわかる。

一方、場面 15 のお酒を飲みすぎてお店に迷惑をかけている場面では日韓の回答に有意差がみられた。日本はその他の行為の提案の形式が 53.3%に次いで理由説明の形式が 24.6%と、間接的な表現を主に使用していたが、韓国はその他の行為の提案の形式が 61.2%に次いで命令の形式 26.8%と、直接的な表現の使用も一定数みられた。つまり、親しい先輩の迷惑行為に対して、日本では直接的な表現を避ける傾向が見られるが、韓国では直接的な表現の使用も少なからずあることが言える。

5.4 禁止対象行為「割り込み」

自分が席を取ったり並んだりしているところに他の人が割り込みをしたこと

を想定した状況である。聴者は親しくない関係の人物を設定し、その行為による被害の対象は「自分」である。

場面 4 の自分が荷物を置いていた席に座ろうとする、場面 10 のエレベーターの列に割り込んで先に入る、場面 16 の食堂の列に割り込んで自分の前に入る、以上の三つの場面において日韓の間での有意差は認められ、日韓の言語行動に違いが認められるという結果になった。

三つすべての場面において、韓国では希望の形式の使用が低かった一方、日本では使用が高くあらわれていた。また、場面 10 の目下の相手が聴者の場合では、日本では理由説明（50.5%）が最も多くその次にその他の行為の提案（25.0%）が多かったが、韓国ではその他の行為の提案（51.8%）が最も多くその次に理由説明（36.8%）が多いという反対の結果になった。

日本ではすべての上下関係の聴者に対して理由説明が多かったことから、「割り込み」行為に対して、聴者の無意識による行動の可能性を考えていること、またそのような言語使用で丁寧さを保とうとしていることがうかがえる。韓国では、特に目下の聴者に対して、理由説明による聴者への配慮よりは明確な行為の指示を行う傾向が見られた。

5.5 禁止対象行為「侵入」

自分を含めた複数人が使用している場所もしくは使用予定の場所に、関係のない他の人が入ろうとしたことを想定した状況である。聴者は親しくない関係の人物を設定し、その行為による被害の対象は「自分たち」である。

場面 5 の自分の学科専用の研究室に入ろうとする、場面 11 の学祭の準備で予約していた教室に外部の人が入ろうとする、この二つの場面において日韓の間での有意差は認められ、日韓の言語行動に違いが認められるという結果となった。大きな特徴として、不許可の形式の使用が日本では低かった（場面 5 : 3.72%、場面 11 : 7.85%）反面、韓国では使用率が高い結果（場面 5 : 17.29%、場面 11 : 35.98%）となった。一方、場面 17 の勉強会で予約していた教室に入ろうとする場面では日韓の回答に有意差がみられなかった。

相手の「侵入」行為に対して日韓ともに理由説明の形式が最も多く使用されていた。日本では上下関係に関係なく理由説明の形式が大半を占めている一方、韓国では上下関係が下、もしくは同じである場合には不許可の形式の使用も増えるという結果となった。

5.6 禁止対象行為「ルール違反」

その場所で決められているルールに違反する行動が行われ、自分を含めたその場にいる人たちに迷惑がかかることを想定した状況である。聴者は親しくない関係の人物を設定し、その行為による被害の対象は「皆」である。

場面 6 の自習のための教室でうるさく喋っている、場面 12 の図書館でうるさく喋っている、場面 18 の喫煙所ではない場所でたばこをすっている、以上の三つの場面において日韓の間での有意差は認められ、日韓の言語行動に違いが認められるという結果になった。

直接的な表現（回答の選択肢 1 から 3）の結果をみると、日本では命令の形式と希望の形式が韓国に比べて使用率が高く、韓国では不許可の形式が日本に比べて使用率が高くあらわれていた。

間接的な表現（回答の選択肢 4 と 5）の結果をみると、目上の相手が聴者となる場面 18 において、日本では他の行為の提案の形式を多く使用していた（47.93%）が、韓国では日本より低い結果（29.44%）となった。

6. おわりに

本研究では、日本と韓国それぞれの大学生を対象とした禁止を意図する言語表現について使用調査を行い、言語形式ごとに両言語の調査結果を整理し、似ている場面ごとに日韓の言語形式の使用の同異を分析した。分析結果を要約すると以下の通りである。

- ・命令の形式における日韓の共通点は、被害対象が「皆」、発話の当然性が「高い」場合の使用率が高いこと、親疎関係が「疎」、発話の当然性が「低い」場合の使用率が低いことである。相違点は、日本では上下関係が「下」の場合、韓国では親疎関係が「親」の場合に使用が高いことである。また韓国において、気にしている体型のことに触れる場面においての使用率が非常に高かった。
- ・不許可の形式においては、日本では親しい聴者の「迷惑行為」に対して上下関係に関係なく使用が高くなる一方、韓国では親しくない聴者の「ルール違反」や「侵入」に対して多く使用されていた。
- ・希望の形式においては、日本ではルール違反にあたる行為など、周囲に迷惑がかかる場合に希望の形式を使用していた一方、韓国では個人的に嫌と感じる行為に対してこの形式を使用していた。
- ・理由説明の形式は日韓ともに、親疎関係が「疎」、発話の当然性が「低い」場面において使用された。
- ・他の行為の提案の形式は日韓ともに、親しくない相手の「侵入」に対しては使用が低くなる傾向があった。このような場面では、他の行為の提案の形式のかわりに理由説明の形式の使用率が高くあらわれていたことも日韓の共通点である。

日本語と韓国語は文法体系が似ており、今回調査対象とした直接話法に該当

する表現の形式（命令の形式、不許可の形式、希望の形式）についても日韓で同じ表現が存在する。しかしながら、これらの表現の使用については上下関係、親疎関係、被害の対象、発話の当然性の観点で日韓に違いが認められた。本研究の結果を、日本語母語話者である韓国語学習者を対象としたコミュニケーション研究そして教育につなげていくことを今後の課題としたい。

＜参考文献＞

- 飯田華子（2024a）「日韓リメイクドラマに現れる禁止表現－機能と親疎上下関係からの一考察－」『日本言語文化』67：7-24.
- （2024b）「行為指示の言語行動に関する研究状況について－韓国語と日本語を対象とした研究を中心に－」『韓国文化研究』14：45-60.
- 沖裕子・姜錫祐（2019）「国際調査からみる日韓大学生の依頼談話意識」『日本語學研究』62：97-115.
- 金順任（2011）「日本語と韓国語の言語景観における禁止表現」『明海日本語』16：53-62.
- 金東完（2002）「禁止表現の語用論的分析－その間接發話行為を中心に－」『日本研究』18：211-235.
- 笹川洋子（1999）「アジア社会における依頼のポライトネス(for you or for me)について：日本語・韓国語・中国語・タイ語・インドネシア語の比較」『親和國文』34：154-181.
- 槌田和美（2003）「日本人学生と韓国人留学生における依頼の談話ストラテジー使い分けの分析－語用論的ポライトネスの側面から－」『小出記念日本語教育研究会論文集』11：41-54.
- 日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法 4：第 8 部モダリティ』くろしお出版
- 朴承圓（2000）「「不満表明表現」使用に関する研究－日本語母語話者・韓国人日本語学習者・韓国語母語話者の比較－」『言語化学論集』4：51-62.
- 洪珉杓・金敬鎬（2014）「日韓両言語の間接發話に対する社会言語学的研究」『韓国語教育研究』4：135-153.
- 宮崎和人・野田春美・安達太郎・高梨信乃(2002)『モダリティ（新日本語文法選書 4）』くろしお出版
- 姜錫祐（2022）「남녀차로 보는 한일 대학생의 의뢰행동」『日本語學研究』74：33-53.
- 문양수（2017）「한국과 일본 고등학생들의 부탁 발화행위 대조 연구」『日語日

- 文學』74 : 63-79.
- 홍민표 (2015) 「간접발화의 사용실태에 대한 한일대조연구」 『日語日文學』66 : 147-167.
- Brown, P., & Levinson, S. C. (1987). *Politeness: Some Universals in Language Usage*. *Cambridge University Press*. (田中典子 (監訳) 2011 『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』 研究社)
- Leech, G. (1983). *Principles of Pragmatics*. *Longman*. (池上嘉彦・河上誓作 (訳) 1987 『語用論』 紀伊国屋書店)
- Leech, G. (2014). *The Pragmatics of Politeness*. *Oxford University Press*. (田中典子・熊野真理・斉藤早智子・鈴木卓・津留崎毅 (訳) 2020 『ポライトネスの語用論』 研究社)
- Searle, J. R. (1969). *Speech Acts: an Essay in the Philosophy of Language*. *Cambridge University Press*. (坂本百大・土屋俊 (訳) 1986 『言語行為—言語哲学への試論』 勁草書房)

付録1 アンケート調査における設問提示方法

それぞれの状況において、自分ならどのような発話を行うか、最も当てはまるものを選んでください。選択肢にない場合は、その他の欄にその発話内容を入力してください。

場面：授業中に先生が話しているとき、親しい友達が、関係のない話題で盛り上がっています。

- ☐ 授業中に関係ない話するのやめて。
 - ☐ 授業中に関係ない話したらだめ。
 - ☐ 授業中に関係ない話するのやめてほしいんだけど…。
 - ☐ 今授業中なんだけど…。
 - ☐ ちょっと授業に集中しない？
 - ☐ その他
- 「」

付録2 アンケート調査で提示した状況の一覧

1. 親しい友達Aと話していると、Aが私に「Bさん（自分と仲良い友達）って、なんか信用できないから嫌だよね。」と言いました。
2. 友だちとみんなで勉強会をしていると、親しい友達がひとり写真を撮って遊んでいます。
3. 授業中に先生が話しているとき、親しい友達が、関係のない話題で盛り上がっています。
4. 席をとるために荷物を置いていると、話したことの無い同級生が、その席に座ろうとしました。
5. 自分の学科専用の研究室に行こうとすると、他の学科の同級生が、その部屋に入ろうとしています。
6. たくさんの学生が使っている自習室で勉強していると、話したことの無い同級生が、うるさく喋っています。
7. 恋愛について聞かれたくないのに、仲良い先輩が恋愛のことをしきりに聞いてきます。
8. サークルで話し合っていると、仲良い先輩が、参加せずずっと携帯を見ています。
9. サークルで集まりがあるたびに、仲良い先輩が、集合時間に遅刻します。
10. エレベーターの列に並んでいると、知らない下級生が、割り込んで先に乗ろうとしました。
11. 学祭の準備の教室に行こうとすると、関係のない下級生が、その教室に入ろうとしています。
12. 図書館で勉強していると、知らない下級生が、大きな声で騒いでいます。
13. 体型のことを気にしていて触れてほしくないのに、仲良い先輩が、体型の話はずっとしてきます。
14. グループ発表の内容をみんなで決めていると、仲良い先輩が、関係のない話をして笑っています。

15. みんなで居酒屋でお酒を飲んでいると、仲良い先輩が、お酒を飲みすぎてお店に迷惑がかかっています。
16. 食堂の列に並んでいると、知らない上級生が、割り込んで自分の前に入ってきました。
17. 勉強会で予約した部屋に行こうとすると、知らない上級生が、その部屋に入ろうとしています。
18. 外で座って休憩していると、知らない上級生が、喫煙所ではない場所でたばこを吸い始めました。

・受付：2025 年 6 月 10 日
・修正：2025 年 9 月 10 日
・掲載：2025 年 9 月 30 日

韓国語の副詞と述語との距離関係について

—コーパス分析を中心に—

李 英蘭（東京大学）

朴 天弘（東京大学）

池 玫京（専修大学）

<要旨>

本稿の目的は、日本語を母語とする韓国語学習者において両言語の副詞の位置のズレによる誤用がよく見られた 4 つの韓国語の副詞「많이」「자주」「조금」「별로」を対象に、副詞とその副詞が修飾する述語との距離関係を明らかにすることである。本稿では、上記の 4 つの副詞に対しコーパスを利用した量的分析を行い、当該の副詞が修飾する「述語との距離」と「述語の品詞」に加え、述語との距離が「1」以上の場合は「副詞と述語の間に入る項の文成分」の傾向や特徴などを考察した。その結果、「많이」「자주」「조금」「별로」は、副詞の種類や述語の品詞、副詞と述語の間に入る項の文成分などによって述語の直前に位置しない用例の割合や特徴は多少異なっていたが、いずれの副詞においても述語の直前に位置する用例が最も多かった。この点は、韓国語の副詞は、その語順の自由度が高いものの、述語の直前に位置するのが最も自然であるという、述語との距離に厳しい制約があることを示唆している。

キーワード 韓国語、副詞、語順、距離制約、述語との距離

1. はじめに

日本語と韓国語の副詞類は、原則として被修飾語の前に位置するが、その語順における制約が少なく、文内での位置も比較的に自由なものが多いことで共通している（山田 1935, 서정수 2005 等）。が、次の例 (1) のように同じ意味を持っている副詞であっても日韓両言語において副詞の位置にズレが見られることがある。

- (1) a : 渋谷にたくさん人がいる。
 b : ??시부야에 많이 사람이 있다.
 c : 시부야에 사람이 많이 있다.

例 (1) において、日本語の副詞「たくさん」に対応する韓国語の副詞「많이」は、副詞が述語の直前に来ている (1c) が自然で、日本語と同じ位置である (1b) は自然な韓国語として許容度が非常に低い。(1b) のような誤用は、特に日本語を母語とする韓国語学習者によく見られる¹。

また、例 (2) や (3) のように日本語の副詞は文内のどの位置でも自然であるのに対し、例 (2') や (3') のように韓国語の副詞はそれが修飾する述語から離れれば離れるほど自然度が下がることも多々ある。

- (2) a : 総吸収量は食事の影響をあまり受けない。
 b : 総吸収量はあまり食事の影響を受けない。【薬】²
 c : あまり総吸収量は食事の影響を受けない。

- (2') a : 총흡수량은 식사의 영향을 별로 받지 않는다.
 b : 총흡수량은 별로 식사의 영향을 받지 않는다.
 c : ??별로 총흡수량은 식사의 영향을 받지 않는다.

- (3) a : 昔はそう言うことがよくありました。
 b : 昔はよくそう言うことがありました。
 c : よく昔はそう言うことがありました。

- (3') a : 옛날에는 그런 일이 자주 있었어요.
 b : 옛날에는 자주 그런 일이 있었어요.
 c : ??자주 옛날에는 그런 일이 있었어요.

¹ 「많이」の誤用について金世朗 (2019 : 82-83) では、「韓国語学習者の作文から「나는 여름 방학에 ??많이 아르바이트를 [많이] 했다」のような誤用が多く見られる」と指摘している他、筆者たちが指導してきた韓国語学習者の作文でも「이토씨도 ??많이 웃음 [많이] 사지 말아요!」のように類似した誤用がよく見られた。これは、母語干渉により日本語と同じ位置に副詞を並べていたためであると考えられる。

² 例 (2) の場合、副詞が述語から項の一つ越えている (2b) が実例で、これを韓国語にした場合は、副詞が述語の直前に位置している (2'a) が最も自然であると考えられる。この用例の出典は「大谷壽一 (2021) 『マンガでわかる薬物動態学』株式会社オーム社【薬】」である。

例 (2) や (3) において日本語の副詞「あまり」と「よく」はそれぞれが修飾する述語「受けない」と「ありました」の直前に位置した例 (2a, 3a) から項を 2 つ越え文頭に位置している例 (2c, 3c) までいずれも自然である。それに対し、韓国語の副詞「별로」と「자주」は、副詞が述語の直前に位置している例 (2'a, 3'a) が最も自然で、述語から項を 1 つ越える度に自然さが損なわれ、述語から項を 2 つ挟んでいる例 (2'c, 3'c) は不自然である。

このように日本語の副詞はそれが修飾する述語から離れていても自然であるのに対し、韓国語の副詞は述語の直前に位置した場合が最も自然であるという点から見ると、両言語において副詞の位置の自由度は高いことで共通しているものの、それぞれの言語で好まれる副詞の位置は異なるように思われる。この点から韓国語の副詞は述語の直前を定位置として述語との距離に制約が強い

(以下、距離制約と呼ぶ) のに対し、日本語の副詞はそのような制約がそれほど強くない³という仮説が立てられる。そして、この仮説を検証するためには、実際に日本語と韓国語の副詞がどの位置に用いられているのか、実例のデータを利用して両言語の副詞の位置の特徴やズレの傾向を分析する必要がある。

そこで、本稿では、日本語と韓国語の副詞の位置のズレを比較する前の先行作業として⁴、まず、韓国語の副詞のみに焦点を当て、韓国語の副詞は本当に述語の直前が最も自然な位置としてよく用いられているのかをコーパスデータで確かめたい。また、副詞が述語の直前に位置しない場合は、どのような特徴が見られるかも考察したい。その際、考察対象の副詞は、「많이」「자주」「조금」「별로」の 4 つの程度副詞⁵に限定する。その理由としては、これらの 4 つの副詞は、いずれも韓国語学習者が初級の段階からよく使っている副詞であるため、頻繁に誤用が見られた⁶ことが挙げられる。特に「많이」に関しては金世朗 (2019 : 82-83) にも同じような指摘があった。そして、「자주」「조금」「별로」に関しては従来の研究での指摘は皆無であるが、上記の例 (2) ~ (3)

³ 日本語の副詞も述語との距離に制約が全くないわけではないが、日本語については別稿に譲ることとする。

⁴ 今後、本稿での結果を踏まえ、後続研究として韓国語の副詞と同量の日本語の実例を収集し分析する予定である。

⁵ 程度副詞とは「状態性の意味を持つ語 (述語) にかかって、その程度を限定する副詞 (国語学会 1980, 国立国語研究所 1991 : 20 再引用)」である。韓国語学の中での分類では、「成分副詞の下位分類で、用言の内容を修飾する性状副詞 (남기심他 (2019 : 174-175))」となるが、ここでは、「程度副詞」と統一する。

⁶ 以下は初級韓国語の学習者から見られた誤用例である。

(1) 이토 씨도 ??많이 옷을 [많이] 사지 말아요!

(2) 그리고 ?조금 게임을 [조금] 하고 슈퍼마켓에 음식을 사러 가요.

でも分かるように、これらの副詞も文中の位置によって自然さが日本語と韓国語で異なることが分かる。前述したように、本稿は、日本語と韓国語の副詞の位置のズレを比較する前の先行作業であるため、日本語との位置のズレが見られたこれらの副詞も考察対象にする。

以上、本稿では、コーパスを通じた量的分析を実施し、「많이」「자주」「조금」「별로」の4つの副詞の位置の傾向や特徴など、副詞の述語との距離関係を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1 韓国語の副詞の位置に関する先行研究

副詞に関する研究は、日韓ともに広範囲に渡っている副詞の全体像を明らかにするために副詞の形態・意味・機能を分類・比較したものが非常に多い（山田 1935, 橋本 1948, 市川 1976, 工藤 1983, 国立国語研究所 1991, 仁田 2002, 서정수 2005 等）。一方で、副詞の位置に関しては、「修飾する成分の前に位置し、その内容や程度を限定する（山田 1935, 서정수 2005）」程度にとどまっており、副詞の位置、特に日本語と韓国語の副詞の位置に目を向けた研究はあまりない。

韓国語の副詞の分類や特徴などに関する先行研究も数多くあるが、考察対象を副詞の位置のみに限定している先行研究は非常に少ない。副詞の位置に関しては副詞の分類や特徴と共に簡単に言及されることが多く、その中でも韓国語の副詞全般について詳細に考察した 서정수 (2005 : 26) では「副詞類は修飾対象の前に来るのが原則で、一般的に被修飾語の直前に位置するのが最も自然である」と述べられている。また、김승렬 (1988) では、本稿の考察対象である「많이」「조금」「자주」「별로」のような「成分副詞の基本的な位置は被修飾語（述語）の直前であるが、述部を越えて文頭や項を挟むことが可能である」と述べている（서정수 2005 : 29-30 再引用）。例えば、例（4）の場合、「빨리」は述語の直前から文頭まで離れることができるということである。

- (4) a : 철수가 밥을 빨리 먹는다.
 b : 철수가 빨리 밥을 먹는다.
 c : 빨리 철수가 밥을 먹는다.

【서정수 2005 : 29】

これについて 성기철 (1992) では、「빨리」が文頭に位置した（4c）は不自然と指摘し、「成分副詞は、述部の中ではその位置が比較的に自由であるが、文頭には位置しにくい」と述べている（성기철 1992 : 128-129）。本稿でも

「빨리」が述語から最も離れている(4c)のような例は、話し言葉のある特殊な談話の中でない限り、不自然であるという立場をとる。

一方で、近年、日本での韓国語教育の観点から個別の副詞の位置を考察した先行研究として金世朗(2015, 2019)がある。これらの先行研究は本稿と研究目的と考察方法は異なるものの、考察対象や日本での韓国語教育の観点を取り入れた着目点において少し類似する部分があることから、ここでは金世朗(2015, 2019)を検証しつつ問題点を探る。

まず、金世朗(2015)は、韓国語の副詞は日本語よりも語順において厳しい制限があることを認めながらも、韓国語教育において副詞は用言の直前におくべきであると簡潔に指導されることに問題を提起した。

次に、金世朗(2019)は、成分副詞「ㄹㅇ」をコーパスデータから調査し、全用例の98.1%が用言の直前に位置するという結果が得られたと述べている。そして、「ㄹㅇ」の位置に変位が見られた用例は「더 ㄹㅇ」のような二重副詞文の他に、分離用言や慣用句等で、「名詞＋(助詞)＋動詞/形容詞/存在詞」が用言句を成しているため、「ㄹㅇ」の位置が用言の直前でなくなったと指摘している。

2.2 先行研究の問題点と本稿の立場

以上、韓国語の副詞の位置に関連した先行研究を検討したが、ここでは、それぞれの問題点と本稿の立場を述べておく。

まず、韓国語の「副詞が被修飾語の直前に位置する」という原則には異論はない。しかし、語順の自由度が高い韓国語の文成分の中でも副詞は最も自由度が高いとされている(성기철 1992: 127)。そのため、全ての副詞が一概に被修飾語の直前という位置を好むとは限らない。そして、単に非文か否かだけではなく、個々の副詞が好む位置はそれぞれ異なるため、その傾向を見るためにはコーパスを使った分析が必要となる。その上、副詞が被修飾語の直前に位置しない場合、被修飾語、特に被修飾語が述語の時は、述語の種類や性質とも関わっていると考えられる。そのため、本稿では、考察対象の副詞に対しコーパス分析を通じて述語との距離を測ると同時に述語の品詞を分析する。また、副詞が述語の直前に位置しない場合は、副詞と述語の間に入っている項の文成分なども分析し、副詞の述語との距離関係を明らかにする。

次に、金世朗(2015)で問題提起していた「韓国語教育において副詞は用言の直前におくべきであると簡潔に指導されていること」については、副詞、特に本稿で対象としている成分副詞と言っても数多くの種類がありそれぞれの性質が異なるため、全ての副詞についてその望ましい位置を個別に指導するには限界がある。そのため、韓国語学習者に母語の副詞の位置とのズレによる誤用が多く見られる副詞に限定し、両言語の副詞の相違点を考察した後、その結果

を基に副詞の指導に臨むことがより有効であると考えられる。本稿では、そのような誤用がよく見られる副詞を「많이」「자주」「조금」「별로」の4つに絞り考察を行う。

最後に、「많이」の位置変位の傾向として「二重副詞文」を挙げていた金世朗（2019）には、幾つか疑問が残る。特に「많이」が用言の直前に位置しない用例は全体の僅か 1.9%と非常に少ないため、その用例だけで「二重副詞文」や「分離用言・慣用句」などが「많이」の位置変位に直接関わっていると結論づけるには不十分だと思われる。また、「많이」が用言の直前に位置しない用例の6割以上が「더 많이」「가장 많이」などの「二重副詞文」であり、その理由として「「많이」の持つ意味が強化され修飾範囲を広くする結果になった（金世朗 2019：89）」と指摘している点にも疑問が生じる。

- (5) 따라서 여성과 가난한 사람들이 더 많이 스트레스에 노출되어 있기 때문에 우울증 같은 특정한 심리학적 장애가 더 높은 것은 당연한 것으로 생각된다. 【金世朗 2019：89】

金世朗（2019）では、(5)の「더 많이」が修飾するのは直後の名詞「스트레스」ではなく「스트레스에 노출되어 있기 때문에」という述部全体であると述べている。しかし、この場合は「더 많이」が用言の直前に位置する「스트레스에 더 많이 노출되어 있기 때문에」も自然であるため、「많이」に「더」がつくことによって修飾の範囲が広がったというより、김승렬（1988）や성기철（1992）のように成分副詞は用言句（述部）の中で自由に動くことができるためであると考えた方が妥当であろう。また、述語の直前に位置する二重副詞文の用例についての分析はなかった点も二重副詞文が修飾の範囲を広げるとする主張の説得力が欠けている理由の一つである⁷。そして、「많이」がどこに位置するかは、「많이」の前に他の副詞がつくか否かより、「많이」が修飾する述語や「많이」と述語の間にある項の性質による要因がより大きいと思われる。

先行研究におけるこれらの問題点を解決するため、本稿では、日本語を母語とする韓国語学習者に誤用がよく見られた4つの副詞を選別し、コーパスを利用して副詞と述語の距離、述語の品詞、副詞と述語の間に入る項の文成分などを分析する。

⁷ 後述するが、実際に「더 많이」や「가장 많이」などが述語の直前に位置する例も多数ある。

3. データと考察方法

3.1 考察対象

本稿では、韓国語の副詞の中でも特に初級レベルの韓国語を学習している日本語母語話者に誤用がよく見られた 4 つの副詞「많이」「자주」「조금」「별로」を対象にしてコーパス分析を行う。そして、これらの 4 つの副詞が直接修飾するものは、動詞、形容詞、存在詞、指定詞の 4 つの品詞に限定し考察する。そのため、「조금 더」や「조금 뒤에」のように「조금」が「더」や「뒤에」などの別の副詞及び副詞句を直接修飾するものは、本稿の考察の対象外とする。その理由としては、副詞が別の副詞や副詞句を修飾する場合は、常に被修飾語（副詞及び副詞句）の直前に位置するためである⁸。このように副詞が別の副詞や副詞句を修飾するものを「二重副詞」と言うが、二重副詞の中でも「더 많이」「가장 많이」「더 자주」のように「더」や「가장」などの別の副詞が本稿の考察対象である「많이」や「자주」などを修飾しその副詞句全体が用言を修飾する場合は、特に制限せず考察対象とする。それは、「더」や「가장」が「많이」や「자주」の程度を示すだけで、「더」や「가장」がなくても「많이」や「자주」は用言を直接修飾しているため、これらの副詞は本稿の対象として考えられる⁹。以上、本稿の考察対象は【表 1】の通りである。

表 1 本稿の考察対象

	対象	対象外
많이類	많이, 더 많이, 가장 많이, 너무 많이, 좀 많이, 조금 많이 など	
자주類	자주, 더 자주, 가장 자주 など	
조금類	조금, 아주 조금, 보다 조금 など	조금 더, 조금 뒤에, 조금 일찍, 조금 많이 など
별로類	별로	

3.2 用例抽出コーパス

本稿で分析する副詞の用例は、韓国の国立国語院が提供する「모두의 말뭉치」

⁸ 「조금 더」や「조금 뒤에」のような「조금」を含む副詞句全体が更に用言を修飾することもあり得るが、その場合は考慮しなければならない要素が増え、考察がより複雑になるため、本稿では、副詞が用言を直接修飾する用例のみを考察する。

⁹ 特に「더 많이」「가장 많이」については、金世朗（2019）で述べられたように「많이」に「더」や「가장」がつくことによって修飾範囲が広がるのかを確かめるためにもこれらの二重副詞は考察対象に入れる必要がある。

の中から書き言葉（または、書かれた言葉¹⁰）である新聞データを使用して抽出した。用例を書き言葉に限定した理由は、話し言葉では副詞の位置の自由度がより高い（かき混ぜ語順など）上に、話し言葉の特徴から見て完結しない文や、境界線が曖昧な文などが存在するなど、研究対象以外に考慮すべき要素が多すぎるためである。また、話し言葉によく見られるかき混ぜ語順は、ある会話の場面で一時的に成立する有標の語順であるため、副詞の無標の語順、すなわち、基本的な語順を明らかにするためにも、本稿では、書き言葉のみに見られる副詞の位置の傾向と特徴を考察することにする。

そして、本稿の用例抽出に使用した新聞データは全て 2022 年に韓国で発行された全国紙で、「많이」「자주」「조금」の用例は「京郷新聞」「朝鮮日報」「ハンギョレ新聞」というメジャーの新聞 3 社のデータから抽出した。但し、「별로」に関しては上記の 3 社の新聞から十分な数が集まらなかったため、同じく 2022 年発行の他の全国紙 5 社の新聞データからの用例を追加した。また、「많이」の場合は、他の副詞と比べ、用例数が非常に多かったため、各新聞社の用例数の割合に合わせ、ランダムに選別した。新聞コーパスから抽出した副詞の用例数は【表 2】と【表 3】の通りである。

表 2 用例抽出コーパスと用例数（「많이」「자주」「조금」）

新聞名	많이	자주	조금
京郷新聞【京】	408	494	435
朝鮮日報【朝】	264	213	89
ハンギョレ新聞【ハ】	374	347	313
計	1,046	1,054	837

表 3 用例抽出コーパスと用例数（「별로」）

新聞名	별로	新聞名	별로
京郷新聞【京】	127	ネイル新聞【ネ】	34
朝鮮日報【朝】	61	ソウル新聞【ソ】	136
ハンギョレ新聞【ハ】	124	世界日報【世】	265
国民日報【国】	162	韓国日報【韓】	139
計：1,048			

「조금」の用例数は 837 件と若干少ないが、それぞれの副詞に対して 1,000 件前後の用例を対象とし副詞の位置関係を分析する。

¹⁰ 新聞記事には実際の発話内容の引用が多く含まれるため、厳密に言うとは新聞データを全て「書き言葉」と称することはできないが、活字のため一旦編集の過程を経ることから、本稿では引用文の有無は問わず新聞データを書き言葉と呼ぶ。

3.3 考察方法

先行研究でも述べられているように韓国語の副詞はその位置の自由度は高いが、副詞が修飾する述語の直前に位置する場合が最も自然とされている。本稿では、新聞データから集めた用例において考察対象の副詞が述語からどのくらい離れているのかを測るため、距離の尺として副詞と述語との間に挟まれている文成分の項の数を使う。例えば、例 (6) のように副詞「많이」が被修飾語である述語「늘었다」の直前に位置した場合は、副詞と述語の間に他の文成分の項が存在しないため、その距離は「0」となる。それに対し、例 (7) のように副詞と述語の間に主格や目的格などの項がある場合は、副詞と述語の間に挟まれている項の数だけ距離は伸びる。例 (7) は、副詞「자주」と述語「일으켰다」の間に「문제를」というヲ格の項が入っているため、距離は「1」となる。

(6) 제조업 투자는 반도체, 제지·목재, 금속 업종에서 많이 늘었다. 【ハ】

(7) 음주와 흡연 때문에 자주 문제를 일으켰다. 【京】

但し、例 (8) のような埋め込み文がある場合は項の数に注意を払いたい。例 (8) の場合、副詞「자주」と述語「도왔다」の間には「길에서」「자는」「불쌍한」「사람을」のように多数の項が存在するかのように見えるが、実際は「길에서 자는 불쌍한」が「사람」を修飾し一つの名詞句を成しているため、文構造から見た実際の文成分はヲ格一つである。つまり、距離は「1」となる。

(8) 그 사람은 자주 길에서 자는 불쌍한 사람을 도왔다.

また、本稿では、述語の品詞がそれぞれの副詞の位置に関係しているか否かを見るため、副詞が修飾する述語の品詞も分析する。述語の品詞の分析は、述語の品詞が副詞の位置に影響しているか否かはもちろん、副詞と述語の距離が「1」以上の場合に副詞と述語の間に入る項の文成分との関連性を考察するためにも必要であると考えられる。述語の品詞は、3.1「考察対象」でも述べたように副詞が用言を修飾する用例のみを対象としているため、「動詞、形容詞、存在詞、指定詞」の4つに分けて分析する。但し、本稿での品詞の判断は、副詞が直接修飾する元の品詞を指しており、文中で機能している文成分を意味していないことには注意を払いたい。例えば、例 (9) の場合、副詞「조금」は副詞句の「다르게」を修飾しているが、用言「다르다」は形容詞であるため、本稿での品詞の判断は「形容詞」となる。

(9) 대한병원의사협의회는 원인을 조금 다르게 봤다. 【京】

最後に、副詞と述語の距離が「1」以上の場合、どのような項が間に入りやすいのか、その傾向と特徴を見るため、項の文成分も分析する。本稿で用いられる項の文成分の表記は、「-이/가」「-을/를」のように韓国語の格成分名をそのまま使う。但し、動詞「되다」の補語として用いられる格助詞「-이/가」は、主語としての格助詞「-이/가」と区別し、「(補)-이/가」と表記する。即ち、例(10a)の場合、副詞「조금」と述語「있었다」の間に入っている項「효과가」は主語として用いられた「-이/가」であるのに対し、例(10b)の場合は、副詞「조금」と述語「된다」の間に入っている項「도움이」は「되다」の補語として用いられた「-이/가」であるため、それぞれの文成分は「-이/가」と「(補)-이/가」と表記するということである。

- (10) a. 조금 효과가 있었다. ← 「-이/가」
 b. 조금 도움이 된다. ← 「(補)-이/가」

以上、本稿の考察方法をまとめると(11)の通りである。

(11) 本稿の考察方法

- ① 副詞と述語の距離を測る（副詞と述語の間に入っている項の数）
- ② 述語の品詞を分析する（動詞・形容詞・存在詞・指定詞）
- ③ 距離が「1」以上の場合、副詞と述語の間に入っている項の文成分を分析する

この方法を用いて次節では「많이」「자주」「조금」「별로」について、それぞれの用例を「述語との距離」「述語の品詞」の観点から分析し、距離が「1」以上の場合は「副詞と述語の間に入る項の文成分」の傾向や特徴を考察する。

4. 分析

4.1 「많이」

「많이」は、韓国語を学習する日本語母語話者に最も多く誤用が見られる副詞であると思われる。学習者の作文などの中では、特に例文(12)のように存在詞を伴う時に「많이」の位置に誤用が顕著に現れた¹¹。

¹¹ 「많이」について金世朗(2019: 82-83)でも位置のズレによる誤用を指摘しているが、特に存在詞に関する言及はなかった。

- (12) a : 渋谷にたくさん人がいる。
 b : ??시부야에 많이 사람이 있다.
 c : 시부야에 사람이 많이 있다.

新聞データから抽出した「많이」を分析した結果、「많이」と述語の距離が「0」である用例は、【表 4】の通りに全用例 1,046 件のうち、1,033 件であった。つまり、「많이」は、98.8%という非常に高い割合で述語の直前に位置するということである。これは、韓国語母語話者にとって最も自然と思われる「많이」の位置は述語の直前であり、韓国語の学習者が何らかの原因で「많이」を別の位置にした場合、その文は不自然に感じられる可能性があることを示唆する。

表 4 「많이」の述語との距離

述語との距離	0	1	2	3	4	計
用例数	1,033	13	0	0	0	1,046
割合(%)	98.8%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
距離 1 以上の用例数(%) : 13 (1.2%)						

次に、「많이」が修飾する述語の品詞の種類を見ると、【表 5】の通りに動詞が 95.4%と圧倒的に多かった。前述したように日本語母語話者に最も多く見られた「많이」の誤用は述語が存在詞の場合であったが、本稿での分析では、「많이」が存在詞を修飾する用例数は 20 件と少なく、全ての用例において「많이 있다」の形で現れ¹²、述語との距離は「0」であった。形容詞の場合も 28 件あったが、これらも全て「많이」の位置は述語の直前であった。

表 5 「많이」が修飾する述語の品詞（距離別）

	距離 0	距離 1	計
動詞	985 (94.2%)	13 (1.2%)	998 (95.4%)
形容詞	28 (2.7%)	0 (0.0%)	28 (2.7%)
存在詞	20 (1.9%)	0 (0.0%)	20 (1.9%)
指定詞	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	1,033 (98.8%)	13 (1.2%)	1,046 (100.0%)

そして、「많이」と述語の距離が「1」以上の用例は 13 件と有意な分析ができるほどの数ではないが、その中でも「많이」と述語の間に入る項の文成分と

¹² 本稿の抽出用例からは「많이 없다」の形は 1 例も現れなかった。

しては「-을/를」の用例が9件であった（【表6】）。

表6 「많이」と述語の間の項の文成分（距離1の場合）

-이/가	-을/를	(補)-이/가	計
3	9	1	13

「많이」とそれが修飾する述語との距離が「1」以上の用例としては、以下の(13)～(15)があるが、多くの場合、「많이」が述語の直前に位置しても不自然ではなかった。但し、用例数が極めて少なかったため、これ以上の用例分析は難しく、今後は分析に値する十分な用例を収集して更に考察をする必要がある。

- (13) 경기를 뛰게 된다면 공격보다는 수비에 많이 신경을 써야 할 것 같다. 【ハ】
 (14) 이날 오전 5 시 30 분 사이 제주 지역에는 많이 비가 내렸다. 【京】
 (15) 반면 200m 는 심폐지구력과 수영을 지속하는 능력, 즉 지구력 요인이 많이 영향을 끼친다. 【ハ】

最後に、金世朗（2019）で「많이」が述語の直前に位置しない用例として挙げていた「더 많이」や「가장 많이」のような二重副詞は、本稿の分析でも多数あり、【表7】で分かるように全用例の31.0%に当たる324件の用例に「副詞+많이」の二重副詞が現れた。「많이」を含む二重副詞の中で最も多く現れたのは「가장 많이」で、二重副詞の全用例324件のうち151件（46.6%）を占めるが、そのうちの148件（45.7%）の用例が距離「0」で、たった3件（0.9%）のみが距離「1」であった。次に多かったのは104件の「더 많이」であるが、これも103件（31.8%）の用例の距離は「0」であった。その他、「많이」を含む二重副詞で述語との距離が「1」の二重副詞の用例としては「좀 많이」があった（例(16)～(21)）。

表7 「副詞+많이」の述語との距離

述語との距離	0	1	計
가장 많이	148 (45.7%)	3 (0.9%)	151 (46.6%)
더 많이	103 (31.8%)	1 (0.3%)	104 (32.1%)
좀 많이	3 (0.9%)	1 (0.3%)	4 (1.2%)
너무 많이	19 (5.9%)	0 (0.0%)	19 (5.9%)
その他 17 種（用例数 10 未満）	46 (14.2%)	0 (0.0%)	46 (14.2%)
計	319 (98.5%)	5 (1.5%)	324 (100.0%)

- (16) 위중증 환자는 500 명대로 올라섰으며 사망자는 올해 들어 가장 많이 발생했다. 【京】
- (17) 칼로리를 더 많이 획득하면 활동력이 그만큼 더 강해진다. 【ハ】
- (18) 결과적으로 집권 첫해부터 최저임금을 너무 많이 올린다는 저항에 부딪혔다. 【朝】
- (19) 톰 크루즈는 할리우드 스타 가운데 가장 많이 한국을 찾은 배우다. 【ハ】
- (20) 인플레이션이 연준에서 생각하는 것보다 더 나쁜 상황이라면 그들이 사람들의 생각보다 더 많이 금리를 올리는 것도 가능한 일이다. 【京】
- (21) 실링(한도)이 정해져서 (위에서) 내려오다 보니까, 실링 범위를 우리가 줄 많이 극복을 해야 되는데 못한 부분이 없지 않아 있다. 【ハ】

このような二重副詞について、金世朗（2019）では、「「많이」が述語の直前に位置しない用例 105 例のうち、68 件（64.8%）の用例に二重副詞が現れ、分析の結果、「많이」の前に別の副詞が置かれるという副詞の結合が「많이」の持つ意味を強化し、修飾範囲を広くする結果になった（金世朗 2019:89）」と述べられている。本稿での分析の結果（【表 7】）においても、「많이」と述語の距離が「1」の全用例 13 件のうち、「副詞+많이」の用例は 5 件で、距離「1」の用例の 38.5%を占めているため、割合から見ると非常に有意な特徴のように見える。が、これを「많이」の述語との距離が「1」である用例の特徴として挙げるには極めて用例数が少ない。その上、二重副詞が現れた全用例の 319 件（98.5%）が副詞と述語の距離は「0」であったため、「더 많이」や「가장 많이」のような副詞の結合が必ずしも「많이」の修飾範囲を広げ、述語との距離が離れるとは考え難い¹³。それより、「많이」と述語との間に入る項の文成分やその項が述語に如何に関わっているかという要因が「많이」と述語との距離関係に働いていると考えるのが妥当であろう。但し、前述したように、本稿の分析において「많이」と述語の距離が「1」の用例は 13 件のみにとどまっているため、有意な用例分析は難しい。距離「1」の用例については今後の課題とし、本稿での結果はあくまでも参考程度にされたい。

4.2 「자주」

「자주」と述語との距離を分析した結果は【表 8】の通りである。【表 8】で分かるように「자주」は、全用例 1,054 件のうち、972 件の用例において述語との距離が「0」であった。つまり、「자주」も 92.2%という高い割合で述語の直

¹³ 金世朗（2019：87）でも「많이」が述語の直前に現れない用例は全用例の 1.64%で、本稿での割合の傾向と合致しているが、金世朗（2019）では二重副詞が述語の直前に現れる用例についての分析は行われていなかった。

前に現れるということで、韓国語の副詞の位置は述語の直前が自然であることを裏づける結果となった。しかし、4.1で見た「많이」とは異なり、述語との距離が「1」以上の用例も 82 件 (7.8%) あった。

表 8 「자주」の述語との距離

述語との距離	0	1	2	3	4	計
用例数	972	79	2	0	1	1,054
割合 (%)	92.2%	7.5%	0.2%	0.0%	0.1%	100.0%
距離 1 以上の用例数 (%) : 82 (7.8%)						

また、「자주」が修飾する述語の品詞の種類を見ると、【表 9】の通りに動詞が 1,043 件 (99.0%) で最も多く、存在詞は僅か 1.0% の 11 件しかなかった。

「자주」は頻度を表す副詞のため、「자주」が修飾する述語は動詞と存在詞に限るという制約はあるが¹⁴、「자주」は、殆どの場合、動詞を修飾することが分かった。そして、存在詞を修飾する全ての用例は「자주 있다」の形で存在詞の直前に現れた。

表 9 「자주」が修飾する述語の品詞 (距離別)

	距離 0	距離 1	距離 2	距離 4	計
動詞	961 (91.2%)	79 (7.5%)	2 (0.2%)	1 (0.1%)	1,043 (99.0%)
形容詞	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
存在詞	11 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (1.0%)
指定詞	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	972 (92.2%)	79 (7.5%)	2 (0.2%)	1 (0.1%)	1,054 (100.0%)

一方、「자주」と述語の距離が「1」以上の用例は 82 件あったが、距離「2」以上の用例数は計 3 件と非常に少なく分析に値するほどの数ではないため、ここでは述語の距離が「1」の用例、即ち「자주」と述語の間に項を 1 つ挟む用例 79 件を中心に考察する (【表 10】)。

表 10 「자주」と述語の間の項の文成分 (距離 1 の場合)

-이/가	-을/를	(補) -이/가	-에	-과/와	-(으)로	-까지	計
2	58	1	14	1	2	1	79

¹⁴ 서정수 (2005 : 126-127) によれば、「자주」のような頻度副詞 (Frequency Adverb) は「非状態性動詞や存在詞と共起し、状態性動詞や形容詞、指定詞とは結合しない」と言う。

「자주」と述語との距離が「1」の用例において、「자주」と述語の間に入る項として最も多かった文成分は「-을/를」の目的格で、述語との距離が「1」の全用例 79 件のうち、58 件 (69.9%) の用例に現れた。これは「자주」が動詞と存在詞のみと共に起するという特徴に加え、本稿の用例で「자주」が修飾する述語の品詞の殆どが動詞であったことと関係していると思われる（例 (22)～(24)）。

- (22) 영어를 잘해 공식 석상에서 자주 영어를 사용하기도 했다. 【朝】
 (23) 앞으로도 사람들이 자주 항공 여행을 할 것으로 생각한다. 【ハ】
 (24) 소방청은 폭염으로 인한 열사병 등 온열 질환 예방을 위해 자주 수분을 섭취하고, 낮에는 논이나 밭에서 일하는 등의 야외 활동을 자제해야 한다고 당부했다. 【京】

そして、次に多かったのは、14例の「二格 (-에)」であるが、これらの用例の述語の特徴としては、「눈에 떠다」「구설에 오르다」「입에 올리다」「위기에 처하다」など、「二格+動詞」が一つの慣用句のように用いられるものが多かったことが挙げられる¹⁵。例 (25)～(28)において「자주」が述語に直前に位置してもそれほど不自然ではないが、「눈에・구설에・입에・위기에+자주+動詞」の順のように「자주」が述語の直前に来る例は、全用例において 1 件も見られなかった。

- (25) 투표소로 향하는 시민들 모습은 자주 눈에 띄었다. 【ハ】
 (26) 지나치게 솔직한 언행으로 자주 구설에 올랐다. 【朝】
 (27) 세상이 혼란할수록 우리 존재를 변화시키는 언어를 더 자주 입에 올려야 한다. 【朝】
 (28) 당 안팎에서 갈등의 중심에 서면서 자주 리더십 위기에 처하기도 했다. 【ハ】

最後に「자주」の前に別の副詞が来る「副詞+자주」の二重副詞は、全用例の 8.5%に当たる 90 件に現れた。これは、「副詞+많이」の割合が 31.0%であったことに比べると、それほど多くなく、如何に「많이」が二重副詞として現れやすいかを示唆しているとも考えられる。「副詞+자주」が現れた用例を距離別にまとめた【表 11】を見ると、「副詞+자주」の全用例 90 件のうち、「더

¹⁵ このように述語が前の成分と慣用句のように用いられる例について、野田 (1984 : 85) では、「程度の副詞は述語のすぐ前にくるが、述語との結びつきがとくに強い成分がある時は、その成分のさらに前におかれる」と述べられている。

자주」が 52 件 (57.8%) と最も多く、その次に多かったのは 13 件 (14.5%) の 「가장 자주」であった。そして、「副詞+ 자주」が述語の直前に位置しない用例は、9 件 (10.0%) にとどまっている (例 (29)～(34))。

表 11 「副詞+ 자주」の述語との距離

述語との距離	距離 0	距離 1	計
더 자주	46 (51.1%)	6 (6.7%)	52 (57.8%)
얼마나 자주	6 (6.7%)	1 (1.1%)	7 (7.8%)
너무 자주	5 (5.6%)	1 (1.1%)	6 (6.7%)
유독 자주	0 (0.0%)	1 (1.1%)	1 (1.1%)
가장 자주	13 (14.4%)	0 (0.0%)	13 (14.4%)
その他 8 種 (用例数 10 未満)	11 (12.2%)	0 (0.0%)	11 (12.2%)
計	81 (90.0%)	9 (10.0%)	90 (100.0%)

- (29) 훈련을 위해 예비군을 더 자주 동원해야 한다. 【朝】
 (30) 현대인들이 이들 화합물을 얼마나 자주 사용하는지 알 수 있는 부분이다. 【京】
 (31) 특히 6 월, 심야 시간대에 고속도로 역주행 사망사고가 가장 자주 발생했다. 【京】
 (32) 예컨대 슈퍼전파자 수준의 바이러스를 배출한 사람은 다른 사람들보다 더 자주 기침을 했다. 【ハ】
 (33) 다만 아직은 초기 검토 단계이기 때문에 학생들이 얼마나 자주 신속 피시아트 검사를 받을지, (中略) 이동형 검사실을 운영할지 등은 정해진 바가 없다. 【ハ】
 (34) US 오픈은 남자 테니스 ‘빅 3’ 시대에도 유독 자주 챔피언이 바뀐 메이저 대회다. 【京】

4.3 「조금」

「조금」と述語の距離を分析した結果をまとめた【表 12】を見ると、他の副詞と同様、「조금」も述語の直前に位置する用例が、全用例 837 件のうち、749 件 (89.5%) と最も多かった。述語との距離が「1」以上の用例数は 88 件 (10.5%) で全体の 1 割程度であり、その殆どが距離「1」の用例 (82 件) で、距離が「2」以上の用例は僅か 6 件しかなかった。また、4.1 「많이」や 4.2 「자주」と同様、「副詞+ 조금」の二重副詞が現れた用例の場合も考察したが、「아주 조금」が 2 件、「보다 조금」が 1 件現れただけで、「조금」は前置する別の副詞の修飾を受けることがあまりないことが分かった。参考までに、この 3 件の述語との距離はいずれも「0」であった¹⁶。

¹⁶ 「조금」の場合は、「조금 더」や「조금 뒤에」のように「조금」の後に別の副詞や副詞句が来て、「조금」が後ろの副詞(句)を修飾した後、「조금+副詞(句)」

表 12 「조금」の述語との距離

述語との距離	0	1	2	3	4	計
用例数	749	82	5	1	0	837
割合(%)	89.5%	9.8%	0.6%	0.1%	0.0%	100.0%
距離 1 以上の用例数(%) : 88 (10.5%)						

「조금」が修飾する述語の品詞は、【表 13】の通りに動詞が 462 件 (55.20%) と全体の半分以上を占めているが、形容詞の場合も 323 件 (38.59%) と少なくない。この点は、同じ数量の程度を表す副詞として 4.1 で見た 「많이」 が 95.4% の割合で動詞を修飾したことと異なる点である。

表 13 「조금」が修飾する述語の品詞 (距離別) ¹⁷

	距離 0	距離 1	距離 2	距離 3	計
動詞	409 (48.87%)	50 (5.97%)	3 (0.36%)	0 (0.00%)	462 (55.20%)
形容詞	307 (36.68%)	15 (1.79%)	1 (0.12%)	0 (0.00%)	323 (38.59%)
存在詞	18 (2.15%)	16 (1.91%)	1 (0.12%)	1 (0.12%)	36 (4.30%)
指定詞	15 (1.79%)	1 (0.12%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	16 (1.91%)
計	749 (89.49%)	82 (9.79%)	5 (0.60%)	1 (0.12%)	837 (100.00%)

また、「조금」の場合は、指定詞を修飾する用例があり、例としては次のようなものがあつた。例 (35) の場合、「의문이다」が「의문스럽다」のような形容詞と同様の意味合いを持っており、例 (36) の場合は、「하향 추세」の「추세」が「ある勢いや動向、傾向」を表すことから、「조금」という程度の修飾を受けることができるのではないかと考えられる。

(35) 적절한 대책인지 조금 의문이다. 【京】

(36) 최근 유가는 조금 하향 추세를 나타내고 있다. 【ハ】

「조금」と述語の間に入る項の文成分についての考察は、4.2 の「자주」と同様に「조금」も述語との距離が「2」以上の用例数は計 6 件と非常に少ないため、これらの用例だけで述語との距離が離れている理由や特徴を述べるのは難しい。そのため、ここでは述語の距離が「1」である 82 件の用例を中心に考察する。

全体でが述語を修飾するものが多い。本稿では、「조금」が直接用言を修飾しない二重副詞は考察の対象外としている。

¹⁷ 【表 13】は四捨五入によるパーセンテージのズレを防ぎ、割合の整合性を保つため小数点 2 桁まで表記する。

表 14 「조금」と述語の間の項の文成分 (距離 1 の場合)

-이/가	-을/를	(補) -이/가	-에	-은/는	-과/와	副詞 (句)	計
42	24	10	1	2	1	2	82

【表 14】で分かるように「조금」と述語の距離が「1」の用例の場合、「조금」と述語の間に入っている項の文成分としては主格の「-이/가」が 42 件と最も多く、その次は目的格の「-을/를」が 25 件であった。「조금」と述語の間に「-이/가」が入る用例の述語は、自動詞が 15 件、形容詞が 13 件、存在詞が 12 件であるが、「조금」が存在詞を修飾する全用例が 36 件であったことから考えると、存在詞の割合が高いことが分かる (存在詞全用例の 33.3%)。

また、「조금」と存在詞の距離が「1」以上の場合、「조금 차이가 있다」や「조금 문제가 있다」などの用例が多いが、その全用例 18 件のうち 12 件の用例で「조금의 차이가 있다」「조금의 문제가 있다」のように助詞「의」による修飾を受けることができた (例 (37)～(39))。この点は、「조금」が存在詞「있다」を直接修飾はしているが、「있다」の意味合いが希薄し、「조금」は「차이」や「문제」の度合いを制限している結果、「조금」が「있다」の直前でなくなったと考えられる。「조금」と「있다」の距離が「0」の用例 18 件の場合、「조금」を距離「1」の位置に移動し助詞「의」の修飾が出来る用例は 3 件のみとどまっていた。例えば、述語との距離が「0」である例 (40) の場合、「어려움이 조금 있어서」は「조금 어려움이 있어서」に語順を変えると「조금의 어려움이 있어서」のように助詞「의」による修飾を受けることができる。

(37) 사전 투표와 본투표는 투표 방식에서 조금 차이가 있다. 【朝】

(38) 정부 방향에 조금 오해가 있는 것 같다. 【京】

(39) 부상 이후 컨디션을 올리는 데 조금 어려움이 있었지만 최선을 다하고 있다. 【京】

(40) 청년들이 사실 지역의 오래된 정치인과 같은 경쟁선상에서 선거를 치르기에는 어려움이 조금 있어서 청년 시각으로 경험한 개인적인 경험담을 나누는 얘기가 많았다. 【京】

最後に述語との距離が「1」の用例の特徴としては、34 件のうち 10 件が「조금 ○○이/가 되다」の形として現れていたことが挙げられる (例 (41)～(42))。この場合は、「-이/가」は主格ではなく補語として用いられているため、「조금」は文成分としては「되다」という動詞を修飾しているが、実質的

には「-이/가 되다」全体が一塊となった結果、「조금」が「-이/가 되다」の前に位置するものだと考えられる。述語との距離が「0」の全用例において「되다」の直前に「조금」が位置する「○○이/가 조금 되다」という形は0件であった。

(41) 연말로 가면서 물가는 조금 수습이 될 것이다. 【ハ】

(42) 모두 좋아하는 선배들이라 조금 걱정이 된다. 【京】

4.4 「별로」

副詞「별로」を述語との距離関係で分析した結果は【表 16】の通りである。【表 16】で分かるように「별로」の全用例 1,048 件のうち、述語との距離が「0」の用例は 846 件 (80.7%) で、全体の 8 割を占めている。また、距離が「1」以上の用例は 202 件 (19.3%) で、全体の 2 割に及ぶ。これは、4.2 や 4.3 で見てきた「자주」や「조금」の距離「1」の用例が 10%程度だったことに比べると、その 2 倍に当たる割合である。

表 16 「별로」の述語との距離

述語との距離	0	1	2	3	4	計
用例数	846	195	5	2	0	1,048
割合 (%)	80.7%	18.6%	0.5%	0.2%	0.0%	100.0%
距離 1 以上の用例数 (%) : 202 (19.3%)						

4.1 から 4.3 で考察した 3 つの副詞と同様、「별로」も述語の直前に位置する用例が全用例の 80.7%と最も多いが、述語との距離「0」の割合が 98.8%であった「많이」や 92.2%の「자주」、89.5%の「조금」と比べると若干少ない数値ではある。実際一つの項を挟んで用いられた用例は全体の 18.6%と少なくない数である。この点は「별로」は他の 3 つの副詞に比べ述語との距離制約がそれほど強くないことを示唆している。その原因については、後述する「별로」が修飾する述語の品詞と関係があると考えられる。

「별로」が修飾する述語の品詞を見ると、【表 17】で分かるように、本稿で考察対象としている 4 つの副詞の中で、品詞の種類に最もばらつきが見られる。

表 17 「별로」が修飾する述語の品詞 (距離別)

	距離 0	距離 1	距離 2	距離 3	計
動詞	220 (21.0%)	80 (7.6%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	304 (29.0%)
形容詞	102 (9.7%)	5 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	107 (10.2%)
存在詞	500 (47.7%)	110 (10.5%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	611 (58.3%)
指定詞	24 (2.3%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	26 (2.5%)
計	846 (80.7%)	195 (18.6%)	5 (0.5%)	2 (0.2%)	1,048 (100.0%)

「별로」が修飾する述語の品詞として最も多かったのは「存在詞」であった。「별로」は必ず否定形を伴うため¹⁸、この場合は「별로 없다」の形として現れる。「별로」の全用例 1,048 件のうち、6 割弱に当たる 611 件 (58.3%) の用例が存在詞を修飾していた。その中で述語との距離関係を見ると、距離が「0」の用例は 500 件 (47.7%)、「1」以上の用例は 110 件 (10.5%) であった。次に多かった述語の品詞は 304 件 (29.0%) の動詞で、形容詞はその次で 107 件 (10.2%) であった。

そして、「별로」と述語の距離が「1」以上の用例から述語との間に入る項の文成分は、【表 18】の通りである。ここでも距離「2」や「3」の用例は計 7 件と少ないため、距離「1」の用例 195 件を中心に考察する。

表 18 「별로」と述語の間の項の成分 (距離 1 の場合)

-이/가	-을/를	(補) -이/가	-에	-은/는	-도	副詞 (句)	計
120	26	33	4	2	2	8	195

【表 18】で分かるように「별로」と述語の間に入る項として最も多かったのは 120 件の「-이/가」で、述語の距離が「1」の全用例 195 件の 61.2% を占めている。それは、「별로」が最も多く修飾している述語は存在詞であることとも関わっている。「별로」と述語の間に「-이/가」が入る用例のうち、109 件が存在詞を伴う「별로 ○○이/가 없다」の形として現れていた。「별로 ○○이/가 없다」の形の「○○」に入る語句は様々なものがあるが、本稿で抽出した用例 109 件の中では、「의미 (18 件)」「관심 (12 件)」「효과 (6 件)」「필요 (5 件)」「본 적 (5 件)」「생각 (5 件)」の順に現れた (例(43)～(45))。

(43) 지지율은 별로 의미가 없다. 【国】

(44) 자녀의 사생활에는 별로 관심이 없다. 【世】

(45) 백신은 별로 효과가 없어 맞지 않아도 된다. 【韓】

次に多かった項の文成分は動詞「되다」の補語として現れる「(補)-이/가」で、用例は 33 件あったが、そのうち 24 件が「도움이 안 되다」の形で現れていた (例(46)～(47))。これは、4.3「조금」でも見たように「-이/가 되다」は

¹⁸ 서정수 (2005 : 180-181) では、「별로」のように必ず否定形を伴う副詞類を「特殊程度副詞類」と呼び、これらの副詞類には (____+안/아니) のようにその特性を表記しなければならないと述べている。

一つの動詞句のように働き、「조금」や「별로」のような副詞はその動詞句全体の前に位置した結果であると考えられる。その根拠として「별로」が動詞「되다」を修飾する全用例 37 件¹⁹のうち、だったの 3 件のみが述語との距離が「0」の「-이/가 별로 안 되다」の形で現れた（例(48)）。

- (46) 정책토론을 많이 하는 게 별로 도움이 안 되는 것 같다. 【世】
 (47) 정씨에게 증상은 있긴 하지만 심하진 않아서 별로 문제가 되지 않는 수준으로 보이는데, (後略). 【ハ】
 (48) 정부조정실장의 배임 부분 수사가 별로 안 돼 있다. 【京】

最後に 3 番目に多かった項は 26 件の「-을/를」であるが、述語としては「신경을/도 안 쓰다 (8 件)」「영향을 안 주다/미치다 (5 件)」などがあつた（例(49)～(50)）。

- (49) 여론조사에 별로 신경을 안 쓴다. 【京】
 (50) 무당층이나 중도층에 별로 영향을 줄 것 같지는 않다. 【韓】

4.5 まとめ

以上、本稿では、韓国語の副詞「많이」「자주」「조금」「별로」を対象に、述語との距離関係についてコーパスを使った量的分析を行った。その結果を踏まえ、それぞれの副詞の特徴は、次の 3 点にまとめることができる。

一つ目に、「많이」「자주」「조금」「별로」は、80%以上の高い割合で述語の直前に位置した。そして、副詞が述語から離れて位置する場合でも、副詞と述語の間に項が一つ入る距離「1」のものが大半であつた。副詞はそれが修飾する述語の直前に現れるのが最も自然であるという先行研究の傾向にほぼ一致する結果ではあるが、述語と離れている場合でも距離が近いほどより自然であることを確認した。これらの結果を総合的に考えると、韓国語の副詞には述語との位置に強い距離制約があると言える。更に、副詞によって距離制約の度合いに差があることも明らかになった。本稿で考察した 4 つの副詞について述語との距離をまとめた【表 19】を見ると分かるように、「많이」は 98.8%という非常に高い割合で述語の直前に位置しているのに対し、「자주」や「조금」は 90%程度、「별로」は用例の 80%が述語の直前に位置するなど、個々の副詞においては、約 10%～20%程度の看過できない割合の差があつた。

¹⁹ 距離「0」3 件、距離「1」33 件、距離「1」1 件である。

表 19 副詞別述語との距離

距離	0	1	2	3	4	計
많이	1,033 98.8%	13 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1,046 100.0%
자주	972 92.2%	79 7.5%	2 0.2%	0 0.0%	1 0.1%	1,054 100.0%
조금	749 89.5%	82 9.8%	5 0.6%	1 0.1%	0 0.0%	837 100.0%
별로	846 80.7%	195 18.6%	5 0.5%	2 0.2%	0 0.0%	1,048 100.0%

二つ目に、副詞が修飾する述語の品詞を距離「0」と距離「1以上」の用例に分けてまとめた【表 20】で分かるように、同じ数量を表す副詞でも「많이」が修飾する述語は「動詞」が圧倒的に多いのに対し、「조금」は「形容詞」を修飾する用例も少なくなかった。「자주」の場合は、修飾できる述語が動詞と存在詞に限るという制約がある中、「動詞」を修飾する用例が殆どであった。また、「별로」は動詞や形容詞より「存在詞」を修飾する用例が非常に多く、この点は「별로」と述語の距離が「1」の場合、述語との間に入る項の文成分にも影響を及ぼしていた。

表 20 副詞が修飾する述語の品詞

距離	動詞	動詞	形容詞	存在詞	指定詞	計
많이	距離 0	985	28	20	0	1,033
	距離 1 以上	13	0	0	0	13
자주	距離 0	961	0	11	0	972
	距離 1 以上	82	0	0	0	82
조금	距離 0	409	307	18	15	749
	距離 1 以上	53	16	18	1	88
별로	距離 0	220	102	500	24	846
	距離 1 以上	84	5	111	2	202

三つ目に、副詞と述語との距離が「1」の場合、即ち、副詞と述語の間に一つの項を挟む場合、その項は、主格の「-이/가」や目的格の「-을/를」など、文の主成分を成しているものが最も多かった。【表 21】で分かるように「-이/가」は 167 件、「-을/를」は 117 件と、距離「1」の場合、「-이/가」と「-을/를」が、副詞と述語の間に入る全ての項（368 件）の 77.2%を占めている。これは、韓国語の副詞が述語の直前に位置した場合が最も自然とされている中、「-이/가」や「-을/를」が述語と一つの句のように用いられたために、副詞がその

句全体の直前に位置する結果になった可能性が高い。この点については、個々の副詞それぞれに対し更なる質的分析を通じて検証する必要があると考えられる。

表 21 副詞別述語との間の項の文成分（距離 1 の場合）

	이/가	을/를	(補) 이/가	에	은/는	도	과/와	(으) 로	까지	副詞 (句)	計
많이	3	9	1								13
자주	2	58	1	14			1	2	1		79
조금	42	24	10	1	2		1			2	82
별로	120	26	33	4	2	2				8	195
計	167	117	45	19	4	2	2	2	1	10	368

5. 終わりに

本稿では、韓国語を学習する日本語母語話者によく誤用が見られる 4 つの韓国語の副詞「많이」「자주」「조금」「별로」を対象に、①述語との距離、②副詞が修飾する述語の品詞、③述語との距離が「1」の場合、副詞と述語の間に入る項の文成分についてコーパスデータを使った量的分析を行った。その結果、「많이」「자주」「조금」「별로」の位置は「述語の直前」である用例が最も多く、韓国語の副詞は原則としてそれが修飾する述語の直前に位置するのが最も自然であることを確認した。しかし、個々の副詞においてはその割合に看過できない差があり、他の文成分が述語と一つの句として機能し、一概に述語の直前と言い切れない用例も少なくなかった。この点については更なる質的分析を行い、詳細を明らかにする必要がある。また、本稿の着目点であった日本語の副詞とのズレに関しても本稿と同様な方法で日本語のコーパス分析を実施しなければならない。これらについては今後の課題としたい。

＜参考文献＞

- 市川孝（1976）「三 副詞」『岩波講座 日本語 6 文法 I』岩波書店，pp. 229-239.
- 大谷壽一（2021）『マンガでわかる薬物動態学』株式会社オーム社
- 金世朗（2015）「韓国語成分副詞の語順教育における問題点について：韓国語教育の立場から」『新潟国際情報大学国際学部紀要』新潟国際情報大学，pp. 65-71.

- (2019) 「成分副詞 ‘많이’[ma:ni]’の語順について」『韓国語教育研究』9, 日本韓国語教育学会, pp. 82-101.
- 工藤浩 (1983) 「程度副詞をめぐって」『副用語の研究』明治書院
- 国語学会編 (1980) 『国語学大辞典』東京堂
- 国立国語研究所 (1991) 『日本語教育指導参考書19 副詞の意味と用法』国立国語研究所
- 仁田義雄 (2002) 『新日本語文法選書3 副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 野田尚史 (1984) 「副詞の語順」『日本語教育』52, 日本語教育学会, pp. 79-90.
- 橋本進吉 (1948) 『橋本進吉博士書作書第2冊 國語法研究』岩波書店
- 山田孝雄 (1936) 「副詞」『日本文法學概論』宝文館, pp. 367-394.
- 김승렬 (1988) 「국어 어순 연구」박사학위논문, 고려대학교
- 남기심・고영근・유현경・최형용 (2019) 『새로 쓴 표준국어 문법론』한국문화사
- 서정수 (2005) 『한국어의 부사』한국어 탐구 32, 서울대학교 출판부
- 성기철 (1992) 「국어 어순 연구」『한글』218, 한글학회, pp.101-138.

・受付 : 2025 年 6 月 10 日
 ・修正 : 2025 年 9 月 10 日
 ・掲載 : 2025 年 9 月 30 日

‘그냥’의 의미 구조

—담화표지 기능으로서의 화용론적 의미 분석을 토대로—

하 정일 (오사카공립대학)

이이다 하나코 (오사카공립대학일본학술진흥회특별연구원)

<요지>

본 연구에서는 “연세 구어 말뭉치”를 이용해 담화표지 기능으로 나타나는 ‘그냥’의 화용론적 의미를 분석한 후 그 의미가 ‘그냥’의 의미로부터 어떻게 확장되었는가, 즉 의미 구조와 담화표지 기능의 상호 관련성을 토대로 ‘그냥’의 의미 구조를 분석하였다. 2,416 개의 용례를 분석한 결과, ‘그냥’의 담화표지 기능은 부사적 용법이 다양한 화용론적 의미를 함축하는 과정에서 나타나는 용법으로 담화표지 기능을 수행하는 용례는 1,895 개로 전체의 78.4%로 나타났다. ‘그냥’의 화용론적 의미는 「단지(675¹)>특별한 의미 없이(477)>그저 그런(271)>보통(248)>그대로(224)」 순이었다. 이와 같은 화용론적 의미 함축으로부터 「한정(409)>완화(325)>정보제시(299)>강조(266)>시간별기(172)>열버무림/회피(171)>화제연결(81)>부연설명(79)>부정적 평가(69)> 화제전환(14)>화제정리(10)」의 담화표지 기능이 나타났다. 담화표지 기능으로 나타나는 ‘그냥’의 화용론적 의미를 토대로 ‘그냥’의 의미 확장과 구조를 분석하였다.

키워드 담화표지 기능, 화용론적 의미, 의미 확장, 함축, 담화의 결속성

1. 들어가며

다양한 의미를 지닌 ‘그냥’의 습득은 한국어 학습자는 물론 교수법을 담당하는 한국어 교사에게도 큰 부담으로 작용된다. 특히 ‘그냥’은 사전적인 의미뿐만 아니라 화자의 메시지를 문맥화하는 담화표지 기능 역할도 수행함에 따라 그 해석과 이해에 어려움을 겪는다.

¹ 숫자는 용례수를 의미한다.

본 연구에서는 “연세 구어 말뭉치²”에 나타나는 담화표지 기능으로서의 ‘그냥’의 화용론적 의미 분석을 토대로 ‘그냥’의 의미 구조를 분석하고자 한다.

2. 선행 연구

일반적으로 담화표지는 대화 참여자들의 상호작용을 통하여 화자의 의도, 목적을 효과적으로 전달하고 이해를 수행하는 언어 요소라고 할 수 있다. ‘그냥’에 대한 연구는 이러한 담화표지 기능을 중심으로 이루어져 왔다³. 박혜선(2012: 225-226)은 231 개의 용례 분석을 통해 이 중 50 개(21.6%) 정도의 ‘그냥’은 부사이며, 의미 파악이 어려운 10 개를 제외한 171 개를 담화표지어로 분류하였다. 담화표지어의 기능으로는 ‘완화’, ‘강조’, ‘전후연결’, ‘시간별기’, ‘대답회피’의 다섯 종류로 분류한 후 ‘완화’, ‘시간별기’, ‘전후연결’ 순으로 사용 빈도가 높다고 한다. 또한 담화표지어의 상호작용적 기능에 포함되는 ‘완화’와 ‘강조’의 의미로 사용된 ‘그냥’이 총 88 회로 전체 담화표지어의 51.5%를 차지하므로 ‘그냥’의 중심 기능은 화자와 청자의 원활한 상호작용을 돕는 것이라고 한다.

심란희(2013: 182)는 담화표지 ‘그냥’의 특징을 분포, 형태, 통사, 운율 등 다양한 측면에서 살펴보고 담화적 기능을 구체적으로 분석하였다. 분석 결과로 담화표지 ‘그냥’은 ‘화제와 화제 결속’, ‘화자와 화제 결속’, ‘화자와 청자 결속’ 등 다양한 담화결속 기능과 자신의 발화 내용을 중요하거나 대단한 것으로 생각하지 않는 ‘화제의 중요성 약화’와 주장 및 청자에 대한 화자의 심리적 태도를 강조하는 ‘화자의 주장 및 태도 강조’의 양태적 기능으로 제시하고 있다.

박혜선(2012) 및 심란희(2013)는 ‘그냥’의 부사로서의 기능과 담화표지어로서의 기능으로 분류하여 다루었다. 하지만 심란희(2013: 182)는 담화표지 ‘그냥’의 추출과 기능 판별에 있어서 여러 가지 객관적인 증거를 찾아내고자 노력하였지만 직관에 의존해야 하는 부분이 많았다고 언급하고 있다. 즉 ‘그냥’의 담화표지 기능은 본래의 부사 의미가 구어적 및 상황의존적인 속성에 의해 담화표지 기능으로 전환된 것이기 때문에 두 기능의 분류 및 분석 방법에는 직관에 의존하지 않는 새로운 접근 방식이 필요하다.

한편 무치열(2022)은 ‘그냥’의 통사적 특성과 의미 용법을 부사 기능과 담화표지 기능으로 구분하지 않고 전체적으로 다루며 ‘그냥’의 언어적 특성을 ‘내용 충위’, ‘인식 충위’, ‘화행 충위’ 등으로 분류한 후 내용 충위에서는 ‘상태 변화 없이’와 ‘보통’, ‘일반’의 의미를, 인식 충위에서는 ‘생

² <https://ilis.yonsei.ac.kr/corpus/#/search/SP>

³ 최근에는 고산·박덕유(2017) 및 담수(2021)를 비롯해 중국인 학습자를 위한 ‘그냥’의 교수법에 초점을 맞춘 연구가 눈에 띈다.

각 없이’, ‘이유 없이’, ‘의도/목적 없이’, ‘망설임 없이’, ‘조건 없이’, ‘대가 없이’ 등의 의미를, 화행 층위에서는 ‘경고/위협’의 기능을 제시했다. 또한 담화표지 기능으로서는 ‘전후 경계 표시’, ‘발화 유지’와 ‘초점화’의 텍스트적 기능, ‘완화’와 ‘강조’의 인지적 기능과 ‘부정적 공손 전략’과 ‘대답 회피’의 대인관계적 기능을 제시하였다. 그러나 ‘그냥’의 부사 의미 용법이 담화 기능으로서 나타나는 역할을 구체적으로 제시하였지만 두 기능의 상호 관련성을 토대로 한 ‘그냥’의 의미 구조에 대한 분석이 결여되어 있다.

이상으로 선행연구를 통해 ‘그냥’의 담화표지 기능에 대한 체계적인 분석 및 의미 구조와 담화표지 기능의 상호 관련성의 체계화가 본 연구의 심과제임을 알 수 있다.

3. 분석 자료 및 분석 방법

본 연구에서는 ‘그냥’은 구어 표현으로서 나타나기 쉬운 점과 방대한 규모의 말뭉치로부터 풍부한 용례 검색이 가능하다는 점에서 분석 자료로 “연세 구어 말뭉치”를 채택하였다.

검색 결과 총 2,416 개의 용례가 나타났으며(2024년 3월 13일 검색) 그중에는 중복 및 누락된 용례가 보이기도 하였지만 전체적인 분석에 큰 영향을 미치지 않는다고 판단하여 2,416 개를 분석 자료로 이용하였다. 또한 충분한 분석 자료가 확보되었다는 입장에서 ‘그냥’의 방언인 ‘기냥’, ‘기양’ 및 축약형인 ‘강’도 분석 대상에서 제외시켰다⁴.

분석 방법에서는 선행 연구를 통해 부각된 다음 두 가지 문제점을 해결해야만 한다.

- ㉠ ‘그냥’의 담화표지 기능을 구체적이고 체계적으로 설명할 수 있는 객관적인 분석 방법은 무엇인가?
- ㉡ 의미 구조와 담화표지 기능의 상호 관련성을 체계적으로 분석할 수 있는가?

본 연구에서는 ‘그냥’의 담화표지 기능은 부사적 용법이 다양한 화용론적 의미를 함축하는 과정에서 나타나는 용법이라는 입장을 취한다. 그 이유로 첫 번째는 ‘그냥’의 의미 용법과 담화표지 기능을 명확하게 구분하기 어렵다는

⁴ 이기갑(2010: 5-6)은 ‘그냥’, ‘그저’, ‘그만’은 동일한 담화적 기능을 수행하는 담화표지로 그 출현 지역이 다른 방언이라고 하고 있지만 본 연구에서는 ‘그냥’만을 분석 대상으로 하였다.

점이다. 즉 부사로서의 기능과 담화표지 기능으로서의 경계선이 불명확하다. 두 번째는 담화표지 기능으로 나타나는 ‘그냥’의 어휘적 의미가 희미해지고 있다고는 하나 완전히 의미 기능이 소멸되었다고 볼 수가 없는 예가 많기 때문이다.

松尾・廣瀬・西川(2015 : 335)는 담화표지의 의미적 특징 분석에 관해 동음이의어적(homonymy approach), 단일의미적(monosemy approach)⁵, 다의어적(polysemy approach) 분석을 소개하고 있다. ‘그냥’의 담화표지어는 다양한 용법으로 나타나므로 의미적・기능적 구조 또는 용법적 구조를 분석하기에는 다의적 분석 방법이 생산적이라고 볼 수 있다. 따라서 담화표지 기능으로 나타나는 ‘그냥’의 화용론적 의미를 분석한 후 그 의미가 ‘그냥’의 의미로부터 어떻게 확장되었는가, 즉 의미 구조와 담화표지 기능의 상호 관련성을 토대로 ‘그냥’의 의미 구조를 분석하겠다.

4. 분석 결과

4.1 ‘그냥’의 사전적 의미

‘그냥’의 사전적 기술을 정리하면 다음과 같다⁶.

- ㉠상태의 변화 없이 있는 그대로.
- ㉡그런 모양으로 줄곧.
- ㉢아무런 대가나 조건 또는 의미 따위가 없이.

2,416 개의 용례를 사전적 의미에 맞춰 분류하면 표 1 과 같다.

표 1 그냥 의미 용법

의미	서술어
㉠상태의 변화 없이 있는 그대로	405 개 16.8% 동사 379 개>명사 14 개>형용사 12 개
㉡그런 모양으로 줄곧	88 개 3.6% 동사 86 개>형용사 2 개>명사 0 개

⁵ 이한규(1996:2)에서는 각 담화표지어는 아무리 많은 구체적인 의미를 가진다 할지라도 단 하나의 기본의미(basic sense)를 가지고 있고, 구체의미들은 이 기본의미로부터 담화적으로(conversationally) 추론되는 함축(implicature)이라고 하고 있다. 즉 담화표지어는 기본의미로부터 담화 상황에서 따라 구체적인 다른 기능으로 나타난다.

⁶ 『표준국어대사전』 『고려대 한국어대사전』 『엡센스 한일사전』

㉔ 아무런 대가나 조건 또는 의미 따위가 없이	1,923 개 79.6% 동사 1,380 개>명사 311 개>형용사 232 개
------------------------------	--

‘그냥’의 서술어로는 「동사 1,845 개(76.4%)>명사 325 개(13.5%)>형용사 246 개(10.2%)」 순으로 나타났다. 동사의 상위 사용 빈도는 「하다 190 개, 보다 88 개, 가다 84 개, 쓰다 62 개, 이야기하다 45 개」 순으로, 형용사는 「있다 64 개, 그렇다 56 개, 좋다 22 개, 이렇다 19 개, 없다 18 개」 순이다.

- (1) a: 너 내 말 잘랐어잘랐어.
b: 원래 대화는 자르고짜르고 그러는 거야.
a: 그래?
b: 어. 너무 이렇게 의식하지 마. 그냥 하던 대로 해.

(50, 사적인 대화)⁷

(1)의 ‘그냥’은 ‘㉔상태의 변화 없이 있는 그대로’의 의미를 나타내며 2,416 개 중 405 개로 16.6%였다. 서술어로는 「동사 379 개(93.5%)>명사 14 개(3.5%)>형용사 12 개(3.0%)」이며 동사의 사용 빈도는 「하다 31 개, 가다 24 개, 쓰다 13 개, 보다 12 개, 먹다 11 개」 순으로 나타났다.

- (2) a: 또 이렇게 얘기할 때는 너무 재미있었어요.
b: 그냥 계속, 이렇게 보기만 하고서는 참여 안 하고.
a: 예? 안 한 건 아닌데요.

(1224, 공적인 대화)

(2)의 ‘㉕그런 모양으로 줄곧’은 전체 중에 88 개로 3.6%로 나타났다. 서술어는 「동사 86 개(97.7%)>형용사 2 개(2.3%)>명사 0 개(0%)」이며 동사의 사용 빈도는 「하다 11 개, 살다 8 개, 가다 4 개, 다니다 4 개, 이야기하다 4 개」 순으로 나타났다. (2)의 의미로 명사가 나타나지 않은 것은 일반적으로 「그냥 학생이다 ≠ 그런 모양으로 줄곧 학생이다」는 성립될 수 없기 때문이다.

- (3) a: 제 친구가 무려 두 개나 더 컸는걸요. 밋데리도 막 딱 챙겨 주면서.
b: 오늘 이거 다 채워 오라구.
a: 아니예요, 그냥 준 거예요.

⁷ 용례는 독백을 제외하고 알기 쉽게 대화 형식으로, 출처는 「검색 번호, 구분」으로 제시하였다. 또한 맞춤법 및 띄어쓰기에 오류가 있는 경우에도 검색 결과 그대로 표기하였다.

(101, 사적인 대화)

- (4) a: 뭐, 신촌 앞거리의 문화라든지 여러 가지 것.
b: 어, 그냥 이거는 내가 제가 느낀 건데요.

(2, 사적인 대화)

‘㉠아무런 대가나 조건 또는 의미 따위가 없이’의 용법은 1,923 개로 전체의 79.6%로 나타났다. (3)은 무언가를 대가나 조건 없이 상대방에게 무료로 준다는 용법으로 상대방에게 무언가를 수여하다는 의미의 동사인 ‘주다’, ‘해 주다’ 등과 공기하는 특징이 있다. 따라서 이와 같은 용법은 문맥상 ‘그냥’의 생략이 불가능한 경우가 많다. (4)의 용법은 아무런 의미 따위가 없다는 용법으로 다른 용법 비해 화용론적(문맥적) 의존도가 가장 높으며 이러한 이유로 담화표지 기능으로서 나타나기 쉽다고 할 수 있다. (4)의 ‘그냥’은 ‘특별한 의미 없이’라는 화용론적 의미를 함축하는 것과 동시에 ‘완화 (화자의 태도를 부드럽고 조심스럽게 또는 공손하게 나타내는 기능)’라는 담화표지 기능을 수행한다. 즉 ‘그냥’의 의미 확장은 화용론적 의미가 담화표지 기능을 수행하는 과정에서 나타나는 결과인 것을 알 수 있다.

4.2 담화표지어로서 나타나는 ‘그냥’의 화용론적 의미

사전적 의미에 그치지 않고 화용론적 의미 확장을 통해 담화표지 기능을 수행하는 용례는 1,895 개로 전체의 78.4%를 차지하였으며⁸ 서술어는 「동사 1,352 개(71.3%)>명사 311 개(13.5%)>형용사 232 개(10.2%)」 순으로 나타났다. 1,895 개 용례에 나타나는 ‘그냥’의 화용론적 의미와 담화표지 기능을 정리하면 표 2 와 같다.

표 2 화용론적 의미와 담화표지 기능

화용론적 의미	담화표지 기능
① 그대로, 그런 식으로: 224개	부연설명(79개), 화제연결(68개), 정보제시(30개), 시간별기(23개), 화제 전환(14개), 화제정리(10개)
② 특별한 의미 없이, 조건 없이: 477개	시간별기(149개), 완화(140개), 얼버무림/회피(114개), 정보제시(61개),

⁸ 담화표지 기능을 수행하는 용례 1,895 개는 ‘아무런 대가나 조건 또는 의미 따위가 없이’의 용법 1,923 개 중에서 ‘아무런 대가나 조건 없이’ 용법 28 개를 제외한 용례수를 의미한다. 여기서 주목할 만한 점은 ‘아무런 의미 따위가 없이’라는 의미는 특별한 의미를 지니지 않는다는 의미 자체가 문맥상 다양한 화용론적 의미 함축인 담화표지 기능으로 나타난다는 것이다.

	화제연결(13개)
③ 보통, 일반적: 248개	정보제시(208개), 완화(40개)
④ 그저 그런, 그럭저럭, 대충: 271개	완화(145개), 부정적 평가(69개), 얼버무림/회피(57개)
⑤ 단지, 단순히, 완전히: 675개	한정(409개), 강조(266개)

표 2 에서 알 수 있듯이 ‘그냥’ 의 화용론적 의미는 「단지 675 개(35.6%)>특별한 의미 없이 477 개(25.2%)>그저 그런 271 개(14.3%)>보통 248 개(13.1%)>그대로 224 개(11.8%)」 순이다. 각각의 담화표지 기능은 「한정 409 개(21.6%)>완화 325 개(17.2%)>정보제시 299 개(15.8%)>강조 266 개(14.0%)>시간별기 172 개(9.1%)>얼버무림/회피 171 개(9.0%)>화제연결 81 개(4.3%)>부연설명 79 개(4.2%)>부정적 평가 69 개(3.6%)>화제전환 14 개(0.7%)>화제정리 10 개(0.5%)」 순이다.

4.2.1 ‘그대로’의 화용론적 의미와 담화표지 기능

‘그대로’, ‘그런 식으로’의 화용론적 의미를 지닌 용례는 224 개이며 담화표지 기능으로 「부연설명 79 개(35.3%)」 「화제연결 68 개(30.4%)」 「정보 제시 30 개(13.4%)」 「시간별기 23 개(10.3%)」 「화제전환 14 개(6.3%)」 「화제정리 10 개(4.5%)」 순으로 나타났다(이하, ‘그대로’로 표기한다).

I 부연설명

- (5) a: 진짜 안 나?
b: 안 나지.
a: 근데 내가 내 친구들한테 그랬더니, 그냥 애 낳고 살아도 실감이 안 난대.
b: 하긴 그렇겠다.

(206, 사적인 대화)

부연설명은 화자가 청자에게 내용을 알기 쉽게 추가적으로 설명하는 기능으로 224 개 중 79 개로 전체의 35.3%의 비중을 차지한다. (5)의 대화참여자들은 서로가 아줌마라는 것에 대해서 어떻게 생각하는가를 묻고 있는 상황이다. ‘그대로’라는 화용론적 의미의 ‘그냥’ 이 애를 낳고 살아도 아줌마라는 실감이 안 난다는 추가적인 부연설명의 담화표지 기능을 수행한다.

II 화제연결

- (6) 이런 식으로 인식을 하더라구요, 근데 우리는, 그렇다고 제가, 아 그건 그런

뜻이 아니고, 오 필승 코리아라고, 말하기 싫어서 그냥 아무 소리 안 했습니다.

(2185, 공적인 독백)

화제연결은 화제의 전후 문맥을 연결하는 기능이다. 박혜선(2012: 221)은 담화표지어 ‘그냥’은 영어의 just와 마찬가지로 화자가 텍스트의 응집을 위해 사용하는 장치로 전후 문맥을 연결하는 연결어의 기능을 한다고 언급한다. (6)에서는 화자가 말하기 싫은 이유를 ‘그냥’을 통해서 전후 문맥을 연결하고 있다. 이와 같은 용법은 68 개로 30.4%가 나타났다.

III 정보제시

- (7) a: 눈이 왜 이렇게 조그맸어요쪼꼬맸어요?
b: 나? 응. 안경 써서. 안경 써서. 어::. 렌즈 끼고 다니다가 어. 오늘 또 그~ 센티멘탈해져 가지고 그냥 안경 쓰고 왔지.

(383, 사적인 대화)

정보제시는 새로운 지식이나 자료를 상대방에게 제시하거나 요구하는 기능이다. (7)에서의 ‘그냥’은 a의 눈이 조그맸은 이유에 대한 b의 답변 즉 정보제시라는 담화표지 기능으로 나타난다. 이와 같은 용례는 30 개로 13.4%를 차지한다.

IV 시간벌기

- (8) a: 우리가 생각나는 대로 대학 문화니까, 동아리 문화. 그 다음 그냥 뭐~ 술 문화, 운동 운동권 문화. ... 없지.
b: 그럼 뭐~ 아무 의미가 없잖아.

(1251, 공적인 대화)

시간벌기는 화자가 말해야 할 내용이 잘 떠오르지 않아 생각할 시간을 벌기 위해 또는 자신의 발언권을 유지하기 위해 사용하는 기능으로 박혜선(2012)이 언급한 것과 같이 ‘그냥 뭐’, ‘뭐 그냥’의 형태로 나타나는 경우가 많다. (8)에서는 대학 문화에 대해서 그 특징을 열거하는 과정에서 화자가 발언권을 유지하면서 생각을 정리하고자 ‘그냥 뭐’가 담화표지 기능으로서 사용되었다. 이와 같은 용법은 23 개로 10.3%가 나타났다.

V 화제전환

- (9) a: 솔직히 얘기해 수질 검사 하러 갔지?
 b: 검사검사 갔는데 이걸 영 아니야.
 a: 너 그러면은 괜히 번거롭기만 하겠네, 그냥 용산 나 혼자 가까? 가서 뭐 할 것도 없이 그것만 딱 달랑 사 오면 되는데
 (440, 사적인 대화)

화제전환은 화자가 이야기 내용을 다른 방향으로 바꾸는 기능이다. (9)에서는 졸업한 화자가 과 오리엔테이션에 따라갔다가 예쁜 여자 후배가 없었다는 화제에서 ‘그냥’을 통해 다른 화제로 전환하고 있다. 심란희(2013: 173)는 화제 전이라는 용법으로 소개하고 있으며 이와 같은 용법은 14 개로 6.3%가 나타났다. 화제전환의 담화표지 기능은 ‘그럼’으로 대체할 수 있는 특징이 있다.

VI 화제정리

- (10) 또 다섯 자리가 되더니 요새는 막 일곱 자리 여덟 자리. 막 넘어가죠? 아마 그~ 인제 다음 세대쯤 되면 전화번호를 그냥 스무 자리를 외어야 될지도 몰라요.
 (2301, 공적인 독백)

화제정리는 이야기 내용을 종합하거나 요약하는 기능이다. (10)에서는 전화번호 자릿수가 점점 늘어나서 다음 세대에는 스무 자리까지 외우게 될 수 있다는 것을 ‘그냥’을 통해 내용을 정리하고 있다. 심란희(2013: 176)는 ‘화자와 화제의 결속’ 기능 중에 하나로 화제정리 기능을 소개하고 있다. 이와 같은 용법은 10 개로 4.5%가 나타났다.

이상으로 ‘그냥’의 화용론적 의미가 ‘그대로’로서 나타나며 동시에 담화표지 기능을 수행하는 예를 확인했다. 이와 같은 용법들은 「그대로, 그런 식으로」의 화용론적 의미를 함축하지만 의미 기능이 희미해져 생략되기 쉬우며 담화 결속성⁹과 관련된 담화표지 기능으로서의 역할이 두드러지는 특징이 있다.

4.2.2 ‘특별한 의미 없이’의 화용론적 의미와 담화표지 기능

‘특별한 의미 없이’, ‘특별한 조건 없이’의 화용론적 의미를 지닌 용례는 477 개이며 담화표지 기능으로 「시간별기 149 개(31.2%)」 「완화

⁹ 담화표지의 기능에 대한 연구는 대체로 이원체계 또는 삼원체제로 분류되어 왔다. 본 연구에서는 담화표지 기능을 담화 구조와 관계되는 결속 기능과 화자의 심리적 태도 기능으로 본다(담화표지 기능에 관한 연구는 심란희(2020) 등을 참조 바란다).

140 개(29.3%)」 「얼버무림/회피 114 개(23.8%)」 「정보제시 61 개(13.0%)」 「화제연결 13 개(2.7%)」 순으로 나타났다(이하, ‘특별한 의미 없이’로 표기한다).

I 시간별기

- (11) 한 일년간 준비해서, 계속 학습 활동 쪽 하면서, 일년간 한 준비해서, 그~ 논문 식으로 나는, 뭐~그냥 뭐~, 한 리포트 식으로만, 열 장 정도 식으로, 다섯 장 써도 되고, 그런 식으로, 자 자기가 준비해서, 책 계속 읽구
(1139, 사적인 대화)

(11)에서는 ‘뭐 그냥 뭐’를 통해 화자가 생각할 시간을 벌고 있다. ‘그대로’의 화용론적 의미로서 나타나는 담화표지 기능은 224 개 중 23 개(10.3%)인데 반해 이 용법은 477 개 중 149 개로(31.2%) 주목할 만하다. 즉 ‘특별한 의미 없이’라는 화용론적 의미의 함축 자체가 화자의 생각 시간 벌기 또는 발언권 유지를 위해 담화표지 기능으로 활용되기 쉽다는 것을 나타내는 것이라고 할 수 있다. ‘시간별기’ 담화표지 기능은 ‘뭐’와 ‘그냥’이 같이 쓰인 용례뿐만이 아니라 ‘그냥 그~’, ‘그냥 그냥’, ‘그냥 좀’ 등의 쓰임도 많이 나타난다¹⁰.

II 완화

- (12) 근테 얘기를 하고 나서, 그 다음날인가 내가 뭐~, 오빠한테:: 선물을 주고 싶다고, 그러면서 그냥 잠깐 점심시간에, 잠깐 보자고 그랬었어.
(1886, 사적인 독백)

완화는 화자의 태도를 부드럽고 조심스럽게 또는 공손하게 나타내는 기능이다. (12)에서는 상대방에게 큰 부담이 되지 않을 것이라는 공손 전략으로 ‘그냥’이 사용되고 있으며 이와 같은 용법은 140 개로 29.3%가 나타났다. 박혜선(2012: 216-217)은 ‘그냥’의 171 개 담화표지어 분석을 토대로(완화 63 개, 시간별기 45 개, 전후연결 30 개, 강조 25 개, 얼버무림 8 개) ‘완화’가 ‘그냥’의 담화표지 기능의 중심 기능이라고 한다. 한편 이정애(1999: 122)에서는 화자가 자신의 의견이나 태도를 강조하기 위한 기능 즉 ‘강조’가 중심 기능이라고

¹⁰ 많은 연구에서 ‘뭐’의 담화표지 기능으로 시간별기를 제시하고 있으며, 특히 송인성(2013: 94)은 ‘뭐’가 시간별기 기능으로 실현되었을 때는 다른 기능의 ‘뭐’에 비해 상대적으로 길게 발음된다고 한다. 심란희(2013: 169)에서도 ‘그냥’의 담화표지 기능의 운율적 특징에 대해 언급하고 있지만 향후 보다 구체적이고 상세한 연구가 필요할 것이다.

한다.

Ⅲ 얼버무리임/회피

- (13) 애를 만나는 시간이 더 많아지구, 근데 애도 마찬가지로. 으~ 그러다 보니까는 그냥, 애는 안 그랬는데, 나는 그래서 내 여자 친구랑 그냥 헤어졌어. 애 때문에 헤어졌다고 그러긴 좀쫘 그렇지만 하여튼하이튼 헤어졌어.

(1891, 사적인 독백)

얼버무리임/회피는 화자가 직접적인 언급을 피하려고 하는 기능이다. (13)에서는 ‘그냥’을 통해 헤어진 이유에 대해 구체적으로는 언급하고 싶지 않다는 화자의 태도를 엿볼 수 있다. 이와 같은 용법은 114 개로 23.8%가 나타났다.

Ⅳ 정보제시

- (14) a: 대학원도 많이 가요?:.,
b: 많이 가지. 음
a: 왜요? 뭐~ 취직이 안 돼서?
b: 그런 거보다도, 그냥 좀, 공부 더 하고 싶은 친구들이 있더라고.

(1133, 사적인 대화)

(14)에서는 대학원에 많이 들어가는 이유에 대한 정보제시로서 ‘그냥’이 사용되고 있다. 이와 같은 용법은 61 개로 13.0%가 나타났다.

Ⅴ 화제연결

- (15) a: 제가 그러니까근까 두 번 그러니까근까 두 번 여자를 만나 봤는데요. 네 살 많은 여자와 네 살 어린 여자를.
b: 어머 어머 와. 우.
a: 느끼는 점은 결국은 똑같은 거 같아요. 그냥 공감 나이가 형성되는 거 같고,

(184, 사적인 대화)

(15)에서는 ‘그냥’을 통해 화자가 4 살 차이의 연하와 연상을 만나 본 것과 그에 대한 느낌을 연결하고 있다. ‘그대로’의 화용론적 의미에 의한 화제연결이 224 개 중 68 개(30.4%)인데 반해 ‘특별한 의미 없이’로부터의 화제연결은 477 개 중 13 개(2.7%)로 나타났다. 즉 ‘특별한 의미 없이’보다 ‘그대로’의

화용론적 의미가 화제연결의 담화표지 기능으로서 나타나기 쉽다는 것을 알 수 있다.

이상으로 ‘그냥’의 화용론적 의미가 ‘특별한 의미 없이’로서 나타나며 동시에 담화표지 기능을 수행하는 예를 확인했다. 「특별한 의미 없이, 특별한 조건 없이」라는 화용론적 의미 함축이 ‘시간별기’, ‘정보제시’, ‘화제연결’이라는 담화의 결속성과 ‘완화’, ‘얼버무림/회피’라는 화자의 심리적 태도를 나타내는 담화표지 기능을 수행한다.

4.2.3 ‘보통’의 화용론적 의미와 담화표지 기능

‘보통’, ‘일반적’의 화용론적 의미를 지닌 용례는 248 개이며 담화표지 기능으로 「정보제시 208 개(83.9%)」 「완화 40 개(16.1%)」 순으로 나타났다(이하, ‘보통’으로 표기한다).

I 정보제시

- (16) 일 주일 두 시간씩 팔 주 과정으로 사십 개 학과 넘는 특별 활동부가 개설되어 있구, 또한 이 특별 활동부의 강사는 그냥 일반 선생님이 아닌 외부 강사를 영입하구요,

(2338, 공적인 독백)

(16)에서는 ‘그냥’을 통해 화자가 특별 활동부의 강사는 보통 외부 강사를 영입한다는 정보를 제시하고 있다. ‘정보제시’의 담화표지 기능은 ‘그대로’의 화용론적 의미로부터는 224 개 중 30 개(13.4%), ‘특별한 의미 없이’로부터는 477 개 중 61 개(13.0%), ‘보통’으로부터는 248 개 중 208 개(83.9%)로 나타났다. 이와 같은 결과는 「보통/일반적으로는 ~ 것이다」라는 화용론적 의미가 ‘정보제시’라는 담화표지 기능으로서 나타나기 쉬운 특징에서 기인한 것이라고 볼 수 있다.

II 완화

- (17) a: 수질 수질. 대기. 대기, 네네.
b: 예예 예::.. 환경 검사하는 거요.
예예 맞어요. 키는 백육십삼이구요, 으~ 얼굴은 보통 그냥 수수한 편이고, 보통이에요.

(1324, 공적인 대화)

(17)에서는 상대방에게 소개해 주려고 하는 여자의 외모에 대해 겸양 표현으로서 「그냥 수수한 편이고」라는 공손 전략이 사용되고 있다. 이와 같은

용법은 40 개로 16.1%가 나타났다.

이상으로 ‘그냥’의 화용론적 의미가 ‘보통’으로서 나타나며 동시에 담화표지 기능을 수행하는 예를 확인했다. 「보통, 일반적」의 화용론적 의미 함축이 ‘정보제시’라는 담화의 결속성과 ‘완화’라는 화자의 심리적 태도를 나타내는 담화표지 기능을 수행한다. 특히 ‘완화(40 개 16.1%)’에 비해 ‘정보제시(208 개 83.9%)’ 기능이 많이 나타났는데 「보통/일반적으로는 ~ 것이다」라는 화용론적 의미 함축이 ‘정보제시’ 기능으로서 나타나기 쉬운 특징에서 기인한 것이라고 해석된다.

4.2.4 ‘그저 그런’의 화용론적 의미와 담화표지 기능

‘그저 그런’, ‘그럭저럭’, ‘대충’의 대충의 화용론적 의미를 지닌 용례는 271 개이며 담화표지 기능으로 「완화 145 개(53.5%)」 「부정적 평가 69 개(25.5%)」 「얼버무림/회피 57 개(21.0%)」 순으로 나타났다(이하, ‘그저 그런’으로 표기한다).

I 완화

- (18) 사업의 추진 체계에 대해서는 제가 그냥 별도의 그~ 워크숍력섭 자료집에 별도의 그~ 파일로 준비 해 뒀는데요, 아래아한글 파일로 그냥 준비해 봤습니다.

(2199, 공적인 독백)

(18)는 화자가 ‘그냥’을 통해 자신이 준비해 온 자료가 그다지 대단하지 않다는 태도를 부드럽고 조심스럽게 표현하고 있다. 이와 같은 용법은 271 개 중 145 개(53.5%)로 ‘특별한 의미 없이’의 완화(477 개 중 140 개(29.3%)) 및 ‘보통’의 완화(248 개 중 40 개(16.1%))에 비해 높은 비율로 나타났다.

II 부정적 평가

- (19) 나는 그냥 그런 생각도 없었어. 그냥 무조건 신방과 가는 게 꿈이었기 때문에, 공부를 그냥 적당히 했지. 적당히 하고, 수능 한 번 살짝 망쳐 주고, 그래서 수원대학교를 가서, 신방과를 갔는데, 음::~ 가서 구체적인 계획이 생겼어.

(1903, 사적인 독백)

부정적 평가는 평가 대상에 대해 화자가 바람직하지 않다고 판단하는 심리적 태도이다. (19)에서는 ‘그냥’을 통해 화자가 자신의 공부에 대한 태도를 ‘그저 그런/대충’이라는 부정적 평가를 내리고 있다. 심란희(2013: 179-

181)는 담화표지 기능의 양태적 기능으로서 화자의 부정적인 생각을 간접적으로 표현하거나 불평 또는 탄식의 상황에서 화자의 주장 및 태도를 강조하는 기능으로 나타난다고 한다. 이와 같은 용법은 271 개 중 69 개로 25.5%가 나타났다.

Ⅲ 얼버무리/회피

- (20) 손재주도 좋고 웬지, 그 샤프한 남자 이미지를 연상시키면서, 깨끗한 그런, 그런 스타일일 줄 알았는데, 둥굴둥굴하니, 곰같이 생기구, 그냥 편안하게 생긴 남자였어. 데 그런 거에 대해서 실망하거나, 그런 건 없었던 거 같애 처음부터 뭐~

(1639, 사적인 독백)

(20)에서는 상대방의 첫인상에 대해 화자의 기대치보다 낮았지만 그 이상 말하고 싶지 않다는 담화표지 기능 즉 ‘얼버무리/회피’로 ‘그냥’이 사용되고 있다. ‘그저 그런’의 화용론적 의미로부터의 ‘얼버무리/회피’의 담화표지 기능은 271 개 중 57 개로 21.0%인데 반해 ‘특별한 의미 없이’로부터는 477 개 중 114 개로 23.8%가 나타났다.

이상으로 ‘그냥’의 화용론적 의미가 ‘그저 그런’으로서 나타나며 동시에 담화표지 기능을 수행하는 예를 확인했다. 「그저 그런, 그럭저럭, 대충」의 화용론적 의미 함축은 담화의 결속성과는 관련성을 가지지 않고 화자의 심리적 태도만을 나타내는 담화표지 기능을 수행한다.

4.2.5 ‘단지’의 화용론적 의미와 담화표지 기능

‘단지’, ‘단순히’, ‘완전히’의 화용론적 의미를 지닌 용례는 675 개이며 담화표지 기능으로 「한정 409 개(60.6%)」 「강조 266 개(39.4%)」 순으로 나타났다(이하, ‘단지’로 표기한다). ‘단지’의 화용론적 의미가 담화표지 기능으로서 나타나는 용법은 전체 1,895 개 중 675 개(35.6%)로 나타났다.

I 한정

- (21) a: 금융 실명제라는 말이 없는 나라도 많아, 그 말이 ...
b: 어 그렇지 중남미 같은 경우는, 어. 전 국토의 뭐~ 치 육칠십퍼센트가 그냥 몇 명의 지주가 그냥 다 가지구 있잖아
(1161, 공적인 대화)

- (22) a: 알잖아 나 차종 모르는 거.
b: 조그만조그만 차디?
a: 그냥 스포츠카

(15 사적인 대화)

한정은 범위와 한계를 제한하는 화자의 심리적 태도이다. (21)에서는 ‘단지/단순히’라는 화용론적 의미가 ‘한정’이라는 담화표지 기능을 수행하는 예라고 할 수 있다. 이와 같은 용법은 675 개 중 409 개로 60.6%가 나타났다. 선행 연구에서는 ‘한정’과 ‘강조’를 구분하지 않고 ‘강조’만을 담화표지 기능으로 분류하고 있다(박혜선 2012, 심란희 2013, 무치열 2022 등). 본 연구에서는 ‘그냥’의 화용론적 의미를 토대로 담화기능을 분류함에 따라 ‘한정’과 ‘강조’로 분류하게 되었다.

II 강조

- (23) 선생님 친 그 언니가 초등학교 선생님이지, 애들이 말끝마다 즐. 즐. 이런대는 거야. 아::, 어 무슨 말인가 했더니, 즐기 아 그냥 막 무시해. 무시해. 이런 말이라고 했던 것 같애.

(1557, 공적인 대화)

- (24) 사투리가 근데 대구는 약간 어투 자체가, 약간 이렇게이게 애교가 있더라구, 막 거기다 막 비비꼬면서 막 이렇게, 예유 죽지 그냥 죽어 그냥.

(501, 사적인 대화)

강조는 명제 내용에 대한 화자의 심리적 태도나 의견을 강조하는 기능이다. (23)에서는 ‘무시하다’를 강조하며, (24)에서는 대구 사투리가 대단히 애교가 많다는 것을 강조하고 있다. 이와 같은 용법은 ‘266 개로 39.4%가 나타났으며 ‘그냥 그냥’과 같이 반복 사용이나 ‘그냥 막’, ‘그냥 무조건’, ‘그냥 딱’ 등과 같이 다른 부사를 동반하는 경우도 많았다. 또한 (24)와 같이 문말에 놓아 화자의 심적 태도를 강조하는 용법도 많이 볼 수 있는데 박혜선(2012: 224)은 ‘그냥’을 문말에 후치함으로써 문장 전체를 강조하는 효과를 강화한다고 한다.

이상으로 ‘그냥’의 화용론적 의미가 ‘단지’로서 나타나며 동시에 담화표지 기능을 수행하는 예를 확인했다. 「단지, 단순히, 완전히」의 화용론적 의미 함축은 담화의 결속성과는 관련성을 가지지 않고 화자의 심리적 태도만을 나타내는 담화표지 기능을 수행한다. 이 용법에서 주목할 만한 점은 (22)와 같이 ‘그냥’의 서술어로 명사의 빈도가 높게 나타나는 점이다(서술어로 명사가 쓰인 것은 다음과 같다. ‘그대로’ 15 개, ‘특별한 의미 없이’ 55 개, ‘보통’ 75 개, ‘그저 그런’ 27 개, ‘단지’ 139 개). 이러한 결과는 「그냥 명사이다」라는 통사적 형태가 ‘한정’, ‘강조’의 담화표지 기능으로 나타나기 쉽다는 것을 반영하고 있다.

4.3 ‘그냥’의 의미 구조

‘그냥’의 화용론적 의미와 담화표지 기능을 정리하면 표 3 과 같다.

표 3 화용론적 의미와 담화표지 기능

화용론적 의미	담화표지 기능	화자의 심리적 태도
	담화의 결속성	
‘그대로’(224개)	부연설명(79개) 화제연결(68개) 정보제시(30개) 시간별기(23개) 화제전환(14개) 화제정리(10개)	
‘특별한 의미 없이’(477개)	시간별기(149개) 정보제시(61개) 화제연결(13개)	완화(140개) 얼버무림/회피(114개)
‘보통’(248개)	정보제시(208개)	완화(40개)
‘그저 그런’(271개)		완화(145개) 부정적 평가(69개) 얼버무림/회피(57개)
‘단지’(675개)		한정(409개) 강조(266개)

표 3 을 보면 ‘그대로’의 화용론적 의미 함축은 담화의 결속성과 관련된 담화표지 기능을 수행하며, ‘그저 그런’, ‘단지’의 화용론적 의미 함축은 오로지 화자의 심리적 태도와 관련된 담화표지 기능만을 수행하고 있다. 한편 ‘특별한 의미 없이’, ‘보통’의 화용론적 의미 함축은 담화의 결속성과 화자의 심리적 태도, 두 가지 기능을 모두 수행한다. ‘그대로’의 화용론적 의미 함축은 의미 기능이 희미해져 생략되기 쉬우며 이러한 특징으로부터 담화 결속성과 관련된 담화표지 기능으로서의 역할이 현저하다. 한편 ‘그저 그런’, ‘단지’의 화용론적 의미 함축은 화자의 심리적 태도를 반영하므로 ‘그냥’을 생략할 경우 화자의 심리적 상태를 제대로 전달할 수 없게 되는 특징이 있다. 또한 ‘특별한 의미 없이’와 ‘보통’의 경우, 전자는 특별한 의미를 지니지 않는다는 의미 특징으로부터 화자의 심리적 태도는 물론 담화의 결속성과도 관련성을 지니며 후자는 「보통/일반적으로는 ~ 것이다」라는 화용론적 의미 함축이 ‘정보제시’ 기능으로 나타나기 쉽다는 점에서 담화의 결속성과 관련된 담화표지 기능이 화자의 심리적 태도를 나타내는 기능보다 많이 나타난다.

마지막으로 상기의 분석을 토대로 ‘그냥’의 의미 확장과 구조를 체계적으로 정리하고자 한다. 우선 ‘그냥’의 사전적 의미의 기본 구조는 기본

의미인 ‘상태 변화 없이 있는 그대로’로부터 그와 같은 상태가 지속된다는 개념적 의미 연쇄를 통해 ‘그런 모양으로 줄곧’이라는 의미로 확장된다. 또한 ‘상태 변화 없이 있는 그대로’라는 기본 의미는 가치 판단에 의한 경험적 인지를 토대로 두 가지 의미로 확장된다. ‘있는 그대로’라는 의미는 상대방에게 있는 그대로 수여한다는 경험적 인지를 통해 ‘아무런 대가나 조건 없이’, ‘무료로’라는 의미로 확장된다. 또한 ‘상태의 변화가 없다’라는 의미는 가치 판단에 대한 경험적 인지를 기반으로 ‘아무런 의미 없이’라는 의미 구조로 확장된다¹¹.

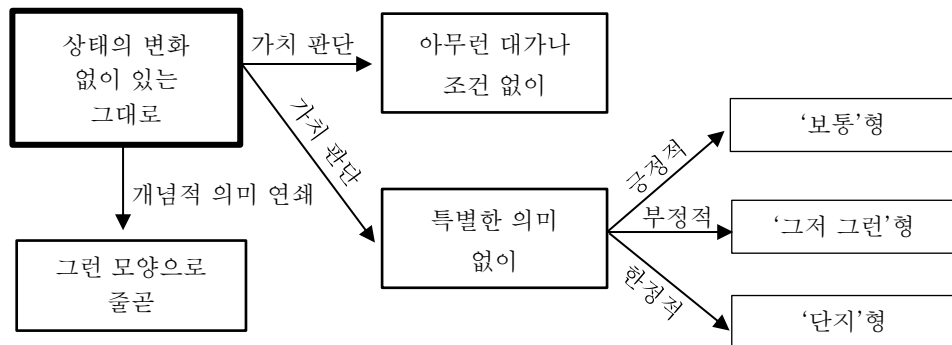
- (25) a: 제 친구가 무려 두 개나 더 컸는걸요. 배터리도 막 막 쉼겨 주면서.
 b: 오늘 이거 다 채워 오라구.
 a: 아니예요, 그냥 준 거예요.

(101, 사적인 대화)

(25)는 무언가를 대가나 조건 없이 상대방에게 무료로 준다는 용례이다. 이와 같은 용법은 28 개로 서술어는 동사만이 나타났으며 그중 상대방에게 무언가를 수여한다는 의미인 「주다, 해주다 등」이 13 개였다. ‘무료로’의 의미는 문맥상 ‘그냥’의 생략이 불가능한 경우가 대부분이다.

앞에서 살펴본 바와 같이 ‘그냥’의 의미 확장은 화용론적 의미가 담화표지 기능을 수행하는 과정에서 나타나는 결과이다. 상기의 사전적 의미로부터 특히 ‘아무런 의미 없이’라는 의미는 가치 판단에 의한 경험적 인지에서부터 긍정적 동기화에 의한 ‘보통/일반적’의 의미 확장과 부정적 동기화에 의한 ‘그저 그런/그럭저럭/대충’의 의미 확장으로 이어진다. 나아가 ‘아무런 의미 없이’는 특별한 의미를 지니지 않는다는 화자의 한정적 심리 태도를 나타내는 ‘단지/단순히/완전히’라는 개념적 의미 연쇄로 이어진다(그림 1).

그림 1 ‘그냥’의 의미 구조



¹¹ 국립국어원 『한국어-일본어 학습사전』에서는 ‘아무런 대가나 조건 또는 의미 없이’를 ‘아무런 대가나 조건 없이’와 ‘아무런 생각이나 별다른 의미 없이’로 나눠서 제시하고 있다. (<https://krdict.korean.go.kr/m/jpn/searchResult>)

이상으로 ‘그냥’의 의미 확장은 가치 판단에 대한 경험적 인지에 동기화된 화용론적 의미가 담화표지 기능을 수행하는 과정에서 나타나는 결과이다. 따라서 본 연구에서는 ‘그냥’의 사전적 기술인 ‘가’ ~ ‘라’의 의미에 더하여 ‘라’의 확장형인 ‘라 1’ ~ ‘라 3’의 의미를 추가하고자 한다.

- 가. 상태의 변화 없이 있는 그대로
- 나. 그런 모양으로 줄곧
- 다. 아무런 대가나 조건 없이, 무료로
- 라. 특별한 의미 없이
 - 라 1. 보통, 일반적
 - 라 2. 그저 그런, 그럭저럭, 대충
 - 라 3. 단지, 단순히, 완전히

5. 나가며

본 연구에서는 “연세 구어 말뭉치”를 이용해 담화표지 기능으로 나타나는 ‘그냥’의 화용론적 의미를 분석한 후 그 의미가 ‘그냥’의 의미로부터 어떻게 확장되었는가, 즉 의미 구조와 담화표지 기능의 상호 관련성을 토대로 ‘그냥’의 의미 구조를 분석하였다.

2,416 개의 용례를 분석한 결과, ‘㉠상태의 변화 없이 있는 그대로’의 의미를 나타내는 용례는 405 개(16.6%)이며, ‘㉡그런 모양으로 줄곧’은 88 개(3.6%), ‘㉢아무런 대가나 조건 또는 의미 따위가 없이’의 용법은 1,923 개(79.6%)로 나타났다. ‘그냥’의 담화표지 기능은 부사적 용법이 다양한 화용론적 의미를 함축하는 과정에서 나타나는 용법으로 화용론적 의미 확장을 통해 담화표지 기능을 수행하는 용례는 1,895 개로 전체의 78.4%로 나타났다. 담화표지 기능을 수행하는 ‘그냥’의 서술어는 「동사 1,352 개(71.3%)>명사 311 개(13.5%)>형용사 232 개(10.2%)」 순으로 나타났다. ‘그냥’의 화용론적 의미는 「단지 675 개(35.6%)>특별한 의미 없이 477 개(25.2%)>그저 그런 271 개(14.3%)>보통 248 개(13.1%)>그대로 224 개(11.8%)」 순이었다. 각각의 담화표지 기능은 「한정 409 개(21.6%)>완화 325 개(17.2%)>정보제시 299 개(15.8%)>강조 266 개(14.0%)>시간별기 172 개(9.1%)>얼버무림/회피 171 개(9.0%)>화제연결 81 개(4.3%)>부연설명 79 개(4.2%)>부정적 평가 69 개(3.6%)>화제전환 14 개(0.7%)>화제정리 10 개(0.5%)」 순으로 나타났다.

화용론적 의미와 담화표지 기능의 상호 관련성으로서 ‘그대로’의 화용론적

의미 함축은 담화의 결속성과 관련된 담화표지 기능을 수행하며, ‘그저 그런’, ‘단지’의 화용론적 의미 함축은 오로지 화자의 심리적 태도와 관련된 담화표지 기능만을 수행하고 있다. 한편 ‘특별한 의미 없이’, ‘보통’의 화용론적 의미 함축은 담화의 결속성과 화자의 심리적 태도, 두 가지 기능을 모두 수행한다. ‘그대로’의 화용론적 의미 함축은 의미 기능이 희미해져 생략되기 쉬우며 이러한 특징으로부터 담화 결속성과 관련된 담화표지 기능으로서의 역할이 현저하다. 한편 ‘그저 그런’, ‘단지’의 화용론적 의미 함축은 화자의 심리적 태도를 반영하므로 ‘그냥’을 생략할 경우 화자의 심리적 상태를 제대로 전달할 수 없게 되는 특징이 있다. 또한 ‘특별한 의미 없이’와 ‘보통’의 경우, 전자는 특별한 의미를 지니지 않는다는 의미 특징으로부터 화자의 심리적 태도는 물론 담화의 결속성과도 관련성을 지니며 후자는 「보통/일반적으로는 ~ 것이다」라는 화용론적 의미 함축이 ‘정보제시’ 기능으로 나타나기 쉽다는 점에서 담화의 결속성과 관련된 담화표지 기능이 화자의 심리적 태도를 나타내는 기능보다 많이 나타난다.

상기의 분석을 토대로 ‘그냥’의 의미 확장과 구조를 정리하면 우선 ‘그냥’의 사전적 의미의 기본 구조는 기본 의미인 ‘상태 변화 없이 있는 그대로’로부터 그와 같은 상태가 지속된다는 개념적 의미 연쇄를 통해 ‘그런 모양으로 줄곧’이라는 의미로 확장된다. 또한 ‘상태 변화 없이 있는 그대로’라는 기본 의미는 가치 판단에 의한 경험적 인지를 토대로 두 가지 의미로 확장된다. ‘있는 그대로’라는 의미는 상대방에게 있는 그대로 수여한다는 경험적 인지를 통해 ‘아무런 대가나 조건 없이’, ‘무료로’라는 의미로 확장된다. 또한 ‘상태의 변화가 없다’라는 의미는 가치 판단에 대한 경험적 인지를 기반으로 ‘아무런 의미 없이’라는 의미 구조로 확장된다. 용례 분석을 통해 알 수 있듯이 ‘그냥’의 의미 확장은 화용론적 의미가 담화표지 기능을 수행하는 과정에서 나타나는 결과이다. 특히 ‘아무런 의미 없이’라는 의미는 가치 판단에 의한 경험적 인지에서부터 긍정적 동기화에 의한 ‘보통/일반적’의 의미 확장과 부정적 동기화에 의한 ‘그저 그런/그럭저럭/대충’의 의미 확장으로 이어진다. 나아가 ‘아무런 의미 없이’는 특별한 의미를 지니지 않는다는 화자의 한정적 심리 태도를 나타내는 ‘단지/단순히/완전히’라는 개념적 의미 연쇄로 이어진다.

이상으로 의미 구조와 담화표지 기능의 상호 관련성을 토대로 ‘그냥’의 의미 구조를 분석하였다. 본 연구에서는 분량상 ‘그냥’의 통사적 특징, 특히 언어 체계에 대한 분석을 다루지 못했다. 향후 다른 기회를 통해 다루도록 하겠다. 담화표지 기능의 ‘그냥’은 구어체에서의 사용이 두드러지는 표현이며 이러한 이유로 운율적 특성에 대한 연구도 필요할 것이다. 또한 일본인 학습자를 위한 교수법에 관한 연구도 진행되어야 할 것이다.

<참고문헌>

- 고산·박덕유 (2017) 「과제중심 교수법을 활용한 한국어 담화표지 ‘그냥’ 교육 연구 -중국인 학습자를 위하여 -」 『인문사회 21』 8, pp. 17-37.
- 담수 (2021) 「중국인 한국어 학습자를 위한 담화표지 ‘그냥’의 기능과 운율적 특성」 연구한양대학교 대학원 러닝사이언스학과 석사학위논문
- 무치열 (2022) 「한국어 부사 ‘그냥’에 대한 연구」 서울대학교 대학원 국어국문과 석사학위논문
- 박혜선 (2012) 「담화표지 ‘그냥’의 기능 연구」 『어문론총』 59, pp. 211-228.
- 송인성 (2013) 「담화표지 ‘뭐’의 기능과 운율적 특성」 『한국어학회』 58, pp. 83-106.
- 심란희 (2013) 「담화표지어 ‘그냥’에 대하여」 『언어학』 20-1, pp. 155-186.
- (2020) 「담화표지의 화제 결속 기능 연구 - 화제 시작 기능을 중심으로 -」 『언어와 문화』 16-1, pp. 205-227.
- 이기갑 (2010) 「담화표지 ‘그냥’, ‘그저’, ‘그만’의 방언 분화」 『방언학』 11, pp. 1-35.
- 이정애 (1999) 「국어 화용표지의 연구」 전북대학교 대학원박사학위 논문
- 이한규 (1996) 「한국어 담화 표지어 ‘그래’의 의미 연구」 『담화와 인지』 3, pp. 1-26.
- 松尾文子・廣瀬浩三・西川眞由美 (2015) 『英語談話標識用法辞典：43の基本ディスコース・マーカ―』 研究社
- 고려대학교 민족문화연구원 『고려대 한국어대사전』 (2024년 3월 29일 검색, <https://dic.daum.net/index.do?dic=kor>)
- 국립국어원 『한국어 - 일본어 학습사전』 (2024년 3월 29일 검색, <https://krdict.korean.go.kr/m/jpn/searchResult>)
- 『표준국어대사전』 (2024년 3월 29일 검색, <https://stdict.korean.go.kr/main/main.do>)
- 민중서림 『옛센스한일사전』 (2024년 3월 29일 검색, <https://ja.dict.naver.com/#/entry/koja/d8227321fee448109e7cd3b3cbcf42c7>)
- 연세 말뭉치 용례 검색 시스템 『연세 구어 말뭉치』 (2024년 3월 13일 검색, <https://ilis.yonsei.ac.kr/corpus/#/search/SP>)

・受付 : 2025 年 7 月 6 日
 ・修正 : 2025 年 9 月 10 日
 ・掲載 : 2025 年 9 月 30 日

〈書評〉

金 成玟 著

日韓ポピュラー音楽史 —歌謡曲から K-POP の時代まで—

韓 光勲（梅花女子大学）

著者の金成玟はこれまで、『戦後韓国と日本文化—「倭色」禁止から「韓流」まで—』（岩波現代全書、2014年）、『K-POP—新感覚のメディア—』（岩波新書、2018年）で、戦後韓国における日本文化の受容、近年躍進が著しい K-POP をめぐる文化事象について、理論的・実証的な研究を行ってきた。

金成玟は前著『K-POP』において、これまではアメリカの音楽産業からの影響が大きいことがよく指摘されてきた K-POP について、日本からの影響の大きさを論じた。『K-POP』は「米韓」という枠組みで K-POP を捉えるのではなく、「日米韓」という枠組みから K-POP を扱った点に新規性があったと、評者は考える。前著の出版から6年の間には、IZ*ONE や NiziU、J01 などが誕生し、人気を博した。日韓をまたいだグループが増加し、K-POP と J-POP の境界がますます曖昧になってきている現在、『K-POP』の視点は正しかったと言えるのではないだろうか。

『日韓ポピュラー音楽史—歌謡曲から K-POP の時代まで—』は、日本とアメリカの音楽から K-POP への影響を明らかにした前著『K-POP』の問題意識を引き継ぎながら、「これまで断片的に語られてきたポピュラー音楽をめぐる日韓関係を歴史化すること」（p. 12）を目指した本である。本書で貫かれる問題意識は、マスメディアや音楽市場を通じて大量消費されるポピュラー音楽は「アイデンティティをめぐる闘争の場」（p. 25）になるというものである。

第 I 部「歌謡曲の時代」は日韓国交正常化がなされた 1960 年代に始まり、日本が世界第二位の音楽大国になった 70 年代を経て、韓国が民主化した 80 年代までが対象である。第 1 章は 60 年代に李美子「トンベクアガシ」が韓国で放送禁止曲（「倭色禁止」）となった事例を通して、日韓のポストコロニアル的状况はポピュラー音楽を通じていかに発現したかを論じる。

第 2 章は 70 年代に日本語ロックと韓国語ロックが誕生したものの、韓国では日本の音楽が禁止され、日本では韓国の音楽に対する無関心によって、相互の音楽を消費する市場とメディアが存在しなかった歴史が分析される。70 年代は

「韓国のポピュラー音楽が日本の影響から本格的に脱却し始めた時期でもあった」(p. 53)。経済大国となった日本では世界の歌手を集めた「国際歌謡祭」が開かれ、韓国の歌手も出演するという現象がみられた。

第 3 章は東アジアの音楽産業において文化的ヘゲモニーを握った日本の市場において、李成愛、吉屋潤、チョー・ヨンピルらが消費されていく 80 年代の音楽史が論じられている。特に、ソウルオリンピックを前後して日本で「韓国ブーム」が起きるなかで、チョー・ヨンピルは象徴的な存在となった。チョー・ヨンピルを代表とする「韓国演歌」には、「トロット＝演歌」「韓国＝演歌」という日韓双方からの「ポストコロニアルなまなざし」(p. 84)が投影されていた。

第Ⅱ部「J-POP の時代」は、日本の音楽が J-POP を中心としたシステムに転換した 80 年代末から、日韓の音楽的差異が明瞭になっていった 90 年代、そして K-POP が登場した 90 年代から 2000 年代前半までが対象である。第 4 章は 1988 年前後に生まれた「J-POP」という言葉が東アジアにおいて定着し、産業としても覇権を握っていく過程を論じる。日本の音楽市場では「J-POP 一極化」が進んだ時代であった。韓国ではソテジワアイドルが登場し、本格的な韓国語ラップが誕生した。

第 5 章は韓国が 1987 年に民主化され、さらに音楽市場も開放され、自由化が進められていく時代をたどる。1995 年には Mnet が放送を開始している。金大中大統領は「日本大衆文化開放」を開始し、衛星放送やインターネットの普及ともあいまって、日本文化が大量に消費される時代に入った。村上春樹の小説『ノルウェイの森』、井上雄彦のマンガ『SLAM DUNK』、岩井俊二の映画『Love Letter』が韓国で流行するとともに、X JAPAN のブームが起きた。これらは韓国の「90 年代文化」の一部となった。

第 6 章では「韓国型アイドル」が誕生し、K-POP が東アジアの文化権力を変化させていく時代に入る。「韓流」という言葉は中国語圏において、1999 年頃から使われ始めた言葉である。ポピュラー音楽におけるアイドル文化は、50～60 年代のアメリカで流行した「ティーンポップ」「ガールポップ」「ガールグループ」にその起源をもち、アジアでは日本が最も早く受け入れ、独自のスタイルを確立した。「韓国型アイドル」はアメリカと日本のアイドルのスタイルが、異種混血的な「韓国ポップ」の文脈のなかで受容・融合されて成立したものであった(p. 164)。「韓国型アイドル」の完成形として、H. O. T. が挙げられている。

第Ⅲ部は、韓国で「J-POP 解禁」がなされた 2000 年代から、日本の K-POP ブームがグローバルな文脈で加速した 2010 年代を経て、日韓の相互作用あるいは融合が活発化した 2020 年前後までを論じる。第 7 章では「日本大衆文化開放」が始まり、CHAGE and ASKA や安室奈美恵、嵐といったアーティストたちが韓国

で受容される過程が分析される。J-POP 解禁が韓国の音楽に与えた影響は決して小さくはなかったが、「韓流」に匹敵するような「日流」を巻き起こすまでには至らなかった。その理由として、現地化戦略の不在、地上波テレビにおける「禁止」の継続、MP3 と iTunes の登場による音楽トレンドの変化が挙げられている。音楽のデジタル化が進展するにつれて、「東アジアの若者の欲望の行き先が、J-POP から K-POP へと移動しはじめた」のであった (p. 214)。

第 8 章は KARA や少女時代、TWICE といったガールグループが日本を席巻する 2010 年代が論じられている。この時期の K-POP ガールグループは 2NE1 に代表されるように、「ガールクラッシュ」(女性が憧れる女性)の色彩を帯び始め、次第に「普遍的なポップ」へと近づいて行った時期である。特に、日本出身の三名を含むガールグループ TWICE は、日韓における「移動」の方向性を転換させた歴史的なグループであった。TWICE 以降、日本人メンバーが活躍する多国籍アイドルグループが多く誕生することになる。

第 9 章は男性アイドルグループ BTS がアメリカに進出し、2010 年代後半に世界の音楽市場を席巻していく過程とともに、70～80 年代ポップのリバイバルである「レトロ・ブーム」、特に「シティポップ・ブーム」が分析される。20 世紀を通して東アジアの音楽・産業のプラットフォームの機能を果たしてきたのは日本であったが、2010 年代を通して起こったのは韓国へのプラットフォームの「移行」であった。

評者の感想を述べると、1960 年代からの日韓の文化史を総ざらいつきに分析した視野の広さ、音楽評論などを幅広く集めた資料の網羅性が優れていると感じた。「歌謡曲の時代」(第 I 部)、「J-POP の時代」(第 II 部)、そして「K-POP の時代」(第 III 部)とした分析枠組みはクリアであった。韓国版、日本版のレコードや CD に付属するライナーノーツだけでなく、日韓の音楽評論が多く引用されており、「日韓のポピュラー音楽はどう論じられてきたか」という言説史にもなっている点が興味深かった。

評者がより詳細な議論が必要だと感じた点についても述べておく。

著者が「世界の主流と化していたヒップホップ・ラップに日本の音楽業界・メディアが反応しなかったのは、90 年代の大きな分かれ道でもあった」(p. 159)としているのは、日本語ラップの重厚な歴史性を考えると、ミスリードではないかと感じた。日本では 80 年代、いとうせいこうや近田春夫らによってラップが輸入され、90 年代には「J ラップブーム」が起きている。スチャダラパーや m-flo、Dragon Ash などが 90 年代から 2000 年代のメジャーシーンで活躍したことは紛れもない事実である。2010 年代以降の KOHH (現在は千葉雄喜)の活躍も忘れてはならないだろう。第 7 章で挙げられているグループ嵐には、メンバーの櫻井翔がラップを担当している(ファンの間では「サクラップ」と呼ばれる)。2000 年代の J-POP のヒット曲、特に沖縄にルーツのある DA PUMP、ORANGE

RANGE、HYなどの楽曲にはラップパートが多く含まれていたことを考えても、日本の音楽にもヒップホップの影響は相当程度強かったと見るべきである。

日本のヒップホップ界にはコリアンルーツを公言する人が少なくないことも重要である。m-flo には在日韓国人であることを公言する VERBAL が所属している。KOHh は般若との楽曲「家族 feat. KOHH」で「ねえ黄達雄／聞ってるか俺の音楽を／日本人だけど韓国のお父さんの名前俺も使うよ」と述べている（韓 2023）。日本語ラップには 80 年代からの長い歴史があること、さらにその中でコリアンルーツを持つラッパーたちが活躍してきたことは、日韓のポピュラー音楽史のなかでも重要な位置を占めるべき事象であると評者は考える。『日韓ポピュラー音楽史』は日本語ラップの重厚な歴史性を看過しているように思われる。

ただし、著者が「日韓のあいだにおいて音楽の移動が途絶えたことは、実のところ一瞬もない」（p. 236）と力強く断言したことは重要である。ナショナリズムの対象になりやすい分野であるが、音楽には本来、国境線は馴染まない。著者が最後に取り上げたガールグループ XG がそれを表している。音楽の可能性を信じる著者だからこそ書けたこの一節に、大いに励まされたことを付言しておきたい。

（2024 年 1 月 30 日 慶応義塾大学出版会 312 頁 2,750 円）

<参考文献>

韓光勲（2023）「在日とヒップホップ——Jin Dogg「街風（feat. REAL-T）」試論」『抗路』11, pp. 111-119.

研究会会則

第1章 名称および事務局

第1条

本研究会は、日本韓国研究会と称する。英語名は Japan Association of Koreanology（略称 JAK）とする。

第2条

本研究会の所在地は、会長の研究室（大阪府堺市中区学園町1番1号、大阪公立大学）に置く。

第2章 目的および事業

第3条

韓国・朝鮮研究の発展に資することを目指し、言語・文学・歴史・文化・政治経済など多様な分野にわたって幅広く学術情報を発信することを目的とするとともに、1. 研究者相互の交流を通じた韓国・朝鮮研究の活性化、2. 若手研究者が活躍できる場の創出、3. 若手研究者への研究支援を研究会の理念として掲げる。

第4条

本研究会の年会期は、毎年4月1日から翌年3月31日とする。年2回の研究例会（3月と12月）と年に1回（8月）の研究発表大会を開催する。開催地、期日は運営委員会で定める。

第5条

本研究会は、年1回研究会誌（オンラインジャーナル）を発行する。

第3章 会員

第6条

本研究会の会員は次の通りとする。

- (1) 一般会員：本研究会の目的に賛同する個人および団体
- (2) 学生会員：大学学部・大学院ないしそれ以下の学校に在学中の会員

(3)維持会員：本研究会の目的に賛同し、研究会の維持に協力する個人もしくは団体

第7条

会員は所定の会費を納入しなければならない。

第8条

1. 会員は次の権利を有する。

(1)研究発表大会の予稿集および研究会誌などの受領

(2)研究会誌への投稿

(3)研究発表大会での発表、その他、本研究会が行う行事への参加

(4)役員選挙における選挙権ならびに被選挙権

2. 当該年度までの会費が未納の場合、研究会誌への投稿および研究大会・研究例会への発表申込は受け付けない。ただし、投稿・発表申込と同時に未納分の会費が納入された場合はその限りではない。また、非会員の場合、入会届の提出と会費の納入により投稿・発表申込を受け付けるものとする。共著・共同発表の場合、筆頭著者が会員であれば投稿・発表できる。

第9条

会員は、別に定める「日本韓国語研究会倫理綱領」を遵守しなかった場合、会員資格が停止されることがある。

第4章 入会および退会

第10条

本研究会への入会を希望する者は、所定の手続きにより申し込むものとする。本研究会会員で退会を希望する者は、その旨を本研究会に通知しなければならない。

第11条

既納の会費はいかなる事由があっても返還しないこととする。

第12条

継続して3年間会費の払い込みがない場合、会員資格を失うものとする。

第5章 会計

第 13 条

会計年度は、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日とする。本研究会の事業遂行に必要な経費は、会費、事業に伴う収入、寄附金およびその他の収入で賄う。本研究会の会計は、年に 1 度会員に報告する。

第 6 章 役員

第 14 条

本研究会の役員は、会長、大会委員、例会委員、事務委員、編集委員、会計委員、企画委員、広報委員、HP 委員、世話人、顧問とする。任期は 2 年とし、再選を妨げない。役員に欠員が生じた場合は、その都度運営委員会が判断する。補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第 15 条

本研究会の会長は事務局を置き、必要な事務担当者を委嘱することができる。

第 16 条

運営委員会および世話人会は、原則として研究会の際に開催する。ただし、本研究会の会長は必要に応じて臨時に召集することが出来る。会議の議事は、運営委員の過半数以上が出席し、出席者の過半数をもって決する。

第 7 章 会則の改定

第 17 条

本研究会における会則の変更改定は、運営委員会の発議と運営委員の 3 分の 2 以上の同意を得なければならない。

2020 年 12 月 27 日 制定
2021 年 1 月 18 日 改定
2022 年 12 月 22 日 改定
2024 年 6 月 15 日 改定

投稿規定

1. 投稿資格

投稿者は原則として日本韓国研究会（以下、本研究会）の会員に限る。研究会誌への投稿、研究大会・研究例会での発表の申込の際に、当該年度までの会費が未納の場合は、投稿・発表申込は受け付けない。ただし、投稿・発表申込と同時に会費が納入された場合には投稿・発表申込を受け付ける。また、会員でない者が投稿・発表申込をしようとする場合は、同時に入会届を提出し会費を納入することにより投稿・発表申込を受け付けるものとする。共著・共同発表の場合は、筆頭著者が会員であれば投稿・発表できる。

2. 投稿内容

他研究誌・学会誌などに未掲載のものに限る。原則として、本研究会の例会または大会で発表されたものとする。但し、本研究会の判断により、掲載が必要とされる場合はこの限りではない。

3. 使用言語

日本語や韓国・朝鮮語、英語（事前に相談する）とする。

4. 投稿原稿の種類

- ・研究論文：独創性を有する論文（32,000字、25枚以内）
- ・研究ノート：萌芽的な考察もしくは論考
- ・実践報告：実践活動から得た成果
- ・書評：出版物に対する短評

5. 投稿締切

毎年、6月末日とする。

6. 発行

毎年9月末日に本研究会のホームページにて電子化（pdf形式）して公開する。

7. 投稿方法

Google フォームにて投稿を行う。

8. 著作権

掲載された原稿の著作権はすべて本研究会へ帰属するものとする。

9. 査読

掲載の採択可否について複数名による査読を行う。

10. その他

作成要領で指定されているフォントまたは体裁以外の書式がある場合は、事前に相談すること。作成要領で指定されているフォントまたは体裁以外の書式がある場合は、事前に相談すること。

運営委員

会長	河 正一（大阪公立大学）	
大会	高橋 梓（新潟県立大学） 金 根三（志學館大学） 山口 祐香（九州大学）	金 景彩（慶応義塾大学） 楊 廷延（関東学院大学） 魯 洙彬（国士舘大学ほか）
例会	相川 拓也（東京大学） 飯倉 江里衣（金沢大学） 朴 天弘（東京大学）	崔 銀景（関西大学） 朴 庚卿（福岡大学） 飯田 華子（大阪公立大学特別研究員 PD）
企画	尹 恵彦（大阪経済法科大学） 趙 恵真（札幌国際大学） 高橋 梓（新潟県立大学）	金 根三（志學館大学） Tasha Eunjoo Lee （同志社女子大学学術研究員）
編集	趙 智英（同志社大学） 影本 剛（立命館大学ほか） 関 東曄（都留文科大学）	趙 恵真（札幌国際大学） 山本 浄邦（立命館大学ほか） 大槻 和也（同志社大学）
広報	飯田 華子（大阪公立大学特別研究員 PD） 徐 明煥（上智大学ほか）	
会計	米沢 竜也（神戸大学） 朴 庚卿（福岡大学）	
ホームページ	河 正一（大阪公立大学） 趙 智英（同志社大学）	
事務	仲島 淳子（京都女子大学） 林 玲穂（大阪公立大学ほか）	
語学世話人	崔 銀景（関西大学）	朴 天弘（東京大学）
文学世話人	趙 智英（同志社大学）	影本 剛（立命館大学ほか）
歴史世話人	飯倉 江里衣（金沢大学）	大槻 和也（同志社大学）
文化世話人	朴 庚卿（福岡大学）	鄭 敬珍（茨城キリスト教大学）
社会・経済世話人	金 根三（志學館大学）	尹 鈺喜（群馬県立女子大学）
顧問	韓 昌勲（全北大学） 崔 順育（東北亞 VISION 21）	任 炫樹（帝塚山学院大学） 辻 大和（東京大学）

日本韓国研究 第5号

発行日 2025 年 9 月 30 日

発 行 日本韓国研究会

〒599-8531

大阪府堺市中区学園町 1 番 1 号

大阪公立大学 国際基幹教育機構

電話 072-254-9655

メール (事務局) [jak.jimu\(at\)gmail.com](mailto:jak.jimu@gmail.com) *(at)は@に変更してお送りください。

ホームページ <http://jak.main.jp/> (入会手続きは[こちら](#))

編 集 日本韓国研究会編集委員

日本韓国研究会 
Japan Association of Koreanology

Journal of Koreanology in Japan

Vol.5

CONTENTS

〈Research Articles〉

Phonological Studies of Beginner's Korean Textbooks: Classification and Recognition of Phonology Geumhwa Kim

The Use of Language Expressions Intended to Prohibit Between Korean and Japanese University Students Hanako Iida

A Study on the Positional Relationship Between Korean Adverbs and Predicates: A Corpus-Based Analysis
..... Youngran Lee, Chunhong Park, Minkyung Ji

The Semantic Structure of “kunyang”: Based on the Analysis of its Pragmatic Meanings as A Discourse Marker Function
..... Jeongil Ha, Hanako Iida

〈Book Review〉

“*The History of Japanese-Korean Popular Music*” by Sungmin Kim
..... Kwanghoon Han

2025.9.30

日本韓国研究会 
Japan Association of Koreanology